

秋田県文化財調査報告書第412集

久保田城跡・藩校明徳館跡

－秋田中央道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－



久保田城跡・藩校明徳館跡

2006・3

秋田県教育委員会

2006・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

く　　ぼ　　た　　じょう　あ　と　　はん　こう　めい　とく　かん　あと

久保田城跡・藩校明徳館跡

－秋田中央道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

2 0 0 6 • 3

秋田県教育委員会



1 発掘調査区域①（東→）



2 発掘調査区域②（垂直）



1 発掘調査区域①（南→）



2 発掘調査区域②（東→）



1



29



29

31

30



107



132



152



93



147



94

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、秋田駅の周辺では交通渋滞の緩和や秋田自動車道及び秋田空港アクセス道路への利便性の向上を目指して、駅の東西を結ぶ新たな道路建設工事が進められております。当教育委員会では、これらの地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、都市計画街路秋田中央道路建設事業に先立って、平成15年度に秋田市において実施した久保田城跡及び藩校明徳館跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査の結果、江戸時代の堀跡や道路跡、建物の柱穴や溝跡が検出され、多くの陶磁器も出土しました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました秋田県建設交通部都市計画課、秋田市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺清

例　　言

- 1 本書は秋田県秋田市千秋明徳町204—7 外に所在する久保田城跡及び秋田市中通1丁目4—52外に所在する藩校明徳館跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査成果については、既にその一部が公表されているが、本報告書を正式なものとする。
- 3 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の25,000分の1 地形図「秋田東部」・「秋田西部」と秋田県秋田中央道路建設事務所作製工事計画図である。
- 4 土層断面等の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』2003年版に拠った。
- 5 発掘調査における平面図作成にあたっては、有限会社アイテックスに平面測量を委託した。
- 6 遺跡の航空写真撮影は、有限会社デジタルビジネス秋田に業務委託した。
- 7 出土した脇差は、株式会社京都科学に保存処理業務を委託した。委託原稿の一部には、修正・補正を加えてある。
- 8 文字資料の証文については山形大学人文学部三上喜孝助教授、肥前陶磁器の鑑定は佐賀県立九州陶磁文化館大橋康二副館長、掘立柱建物跡については八戸工業大学建築工学科高島成侑教授及び秋田県立秋田工業高等学校五十嵐典彦教諭に多大な御教示を賜った（所属・職名は調査時）。
- 9 本遺跡の調査及び報告書刊行にあたり、次の方々より御指導・御教示を頂いた。記して謝意を表する（敬称略五十音順）。
　飯村均、池田吉男、五十嵐典彦、井上喜久男、大橋康二、高桑登、高島成侑、高橋與右衛門、長谷川潤一、三上喜孝、八重輕忠郎、山口博之
- 10 本書の執筆・編集は利部修が行った。ただし陶磁器について大橋康二氏に鑑定して頂いたものは、遺物観察表にゴシックで表記してある。

凡　　例

- 1 本報告書に掲載した遺構実測図の方位は、国家座標第X系による座標北を示す。グリッド杭座標原点MA50（X = -73,363.969 Y = -23,633.973）の座標北と磁北との偏角は西偏7°50'である。
- 2 遺構番号は、種類ごとに下記の略記号を付し、検出順に通し番号を付けた。しかし、後に検討して遺構でないと判断したものは欠番とした。

S K…土坑 S D…溝跡 S K P…柱穴様ビット S X…性格不明遺構
- 3 挿図・図版中の、SWは杭及び木製品、Sは疊、Pは柱穴様ビットの略表記として用いた。
- 4 基本層位の土層注記にはローマ字と算用数字を併用している。
- 5 遺構実測図は、基本的に1/40及び1/20、遺物実測図は1/2の縮尺で統一してある。
- 6 遺物番号は、種類に関わらず遺跡ごとの通し番号にしてある。
- 7 遺物の拓本や作図の表記位置は、基本的に対象面側に置いてある。
- 8 挿図中に使用したスクリーントーンは以下の通りであり、それ以外については個別に凡例を示してある。



青磁



漆



木

目 次

| | |
|----------------|-----|
| 序 | i |
| 例言 | ii |
| 凡例 | iii |
| 目次、挿図・表・図版目次 | iv |
| はじめに | 1 |
| 第1節 調査に至る経過 | 1 |
| 第2節 調査要項 | 1 |
| 遺跡の環境 | 3 |
| 第1節 遺跡の位置と立地 | 3 |
| 第2節 歴史的環境 | 3 |
| 久保田城跡 | |
| 第1章 発掘調査の概要 | 9 |
| 第1節 遺跡の概観 | 9 |
| 第2節 調査の方法 | 9 |
| 第3節 調査の経過 | 11 |
| 第4節 整理作業の方法と経過 | 11 |
| 第2章 調査の記録 | 12 |
| 第1節 基本土層 | 12 |
| 第2節 検出遺構と出土遺物 | 14 |
| 第3節 遺構外出土遺物 | 16 |
| 第3章 自然科学的分析 | 48 |
| 第1節 漆塗脇差の修理報告書 | 48 |
| 第2節 漆塗脇差の分析報告書 | 49 |
| 第4章 まとめ | 51 |
| 藩校明徳館跡 | |
| 第1章 発掘調査の概要 | 55 |
| 第1節 遺跡の概観 | 55 |
| 第2節 調査の方法 | 55 |
| 第3節 調査の経過 | 57 |
| 第4節 整理作業の方法と経過 | 57 |
| 第2章 調査の記録 | 58 |
| 第1節 基本土層 | 58 |
| 第2節 検出遺構と出土遺物 | 58 |
| 第3節 遺構外出土遺物 | 66 |
| 第3章 まとめ | 93 |
| 報告書抄録 | |

挿図目次

| | |
|--------------------------|----|
| 第1図 久保田城跡、藩校明徳館跡の調査区域図 | 4 |
| 第2図 久保田城跡、藩校明徳館跡の位置と周辺遺跡 | 6 |
| 第3図 久保田城跡調査地区 | 10 |
| 第4図 大手門・穴門・中土橋地区基本土層 | 13 |
| 第5図 大手門・穴門地区遺構配置図 | 15 |
| 第6図 中土橋地区遺構配置図 | 18 |
| 第7図 城跡出土遺物（1）…磁器① | 20 |
| 第8図 城跡出土遺物（2）…磁器② | 21 |
| 第9図 城跡出土遺物（3）…磁器③ | 22 |
| 第10図 城跡出土遺物（4）…磁器④ | 23 |
| 第11図 城跡出土遺物（5）…磁器⑤ | 24 |
| 第12図 城跡出土遺物（6）…磁器⑥ | 25 |
| 第13図 城跡出土遺物（7）…磁器⑦ | 26 |
| 第14図 城跡出土遺物（8）…磁器⑧ | 27 |
| 第15図 城跡出土遺物（9）…磁器⑨ | 28 |
| 第16図 城跡出土遺物（10）…磁器⑩・陶器① | 29 |
| 第17図 城跡出土遺物（11）…陶器② | 30 |
| 第18図 城跡出土遺物（12）…陶器③ | 31 |
| 第19図 城跡出土遺物（13）…陶器④ | 32 |
| 第20図 城跡出土遺物（14）…陶器⑤ | 33 |
| 第21図 城跡出土遺物（15）…陶器⑥ | 34 |
| 第22図 城跡出土遺物（16）…木製品① | 35 |
| 第23図 城跡出土遺物（17）…木製品② | 36 |
| 第24図 城跡出土遺物（18）…木製品③ | 37 |
| 第25図 城跡出土遺物（19）…瓦① | 38 |
| 第26図 城跡出土遺物（20）…瓦②・煉瓦 | 39 |
| 第27図 城跡出土遺物（21）…鉄器 | 40 |
| 第28図 城跡出土遺物（22）…その他 | 41 |
| 第29図 地金部分と象嵌部のXRFスペクトル | 50 |
| 第30図 調査区構配図 | 56 |
| 第31図 東西基本土層 | 59 |
| 第32図 調査区I層構配図 | 60 |
| 第33図 調査区II層構配図 | 61 |
| 第34図 調査区III層構配図 | 62 |
| 第35図 調査区IV層構配図 | 63 |

| | | |
|------|--------------------|----|
| 第36図 | 土坑と性格不明遺構 | 68 |
| 第37図 | 性格不明遺構 | 69 |
| 第38図 | 柱穴様ピット（1） | 70 |
| 第39図 | 柱穴様ピット（2） | 71 |
| 第40図 | 柱穴様ピット（3） | 72 |
| 第41図 | 柱穴様ピット（4） | 73 |
| 第42図 | 柱穴様ピット（5） | 74 |
| 第43図 | 柱穴様ピット（6） | 75 |
| 第44図 | 遺構内出土遺物（1）…磁器① | 78 |
| 第45図 | 遺構内出土遺物（2）…磁器② | 79 |
| 第46図 | 遺構内出土遺物（3）…磁器③・陶器① | 80 |
| 第47図 | 遺構内出土遺物（4）…陶器② | 81 |
| 第48図 | 遺構内出土遺物（5）…陶器③ | 82 |
| 第49図 | 遺構内出土遺物（6）…陶器④・その他 | 83 |
| 第50図 | 遺構内出土遺物（7）…陶器⑤ | 84 |
| 第51図 | 遺構外出土遺物（1）…磁器① | 85 |
| 第52図 | 遺構外出土遺物（2）…磁器② | 86 |
| 第53図 | 遺構外出土遺物（3）…陶器① | 87 |
| 第54図 | 遺構外出土遺物（4）…陶器②・その他 | 88 |
| 第55図 | 藩校明徳館跡の調査地点 | 93 |
| 第56図 | 久保田城下古絵図 | 94 |

表 目 次

| | | |
|------|---------------|----|
| 第1表 | 周辺遺跡一覧 | 5 |
| 第2表 | 遺物観察一覧（1） | 42 |
| 第3表 | 遺物観察一覧（2） | 43 |
| 第4表 | 遺物観察一覧（3） | 44 |
| 第5表 | 遺物観察一覧（4） | 45 |
| 第6表 | 遺物観察一覧（5） | 46 |
| 第7表 | 遺物観察一覧（6） | 47 |
| 第8表 | 柱穴様ピット観察一覧（1） | 76 |
| 第9表 | 柱穴様ピット観察一覧（2） | 77 |
| 第10表 | 遺物観察一覧（7） | 89 |
| 第11表 | 遺物観察一覧（8） | 90 |
| 第12表 | 遺物観察一覧（9） | 91 |
| 第13表 | 遺物観察一覧（10） | 92 |

図版目次

- 卷頭図版 1 久保田城跡
- 1 発掘調査区域①（東→）
 - 2 発掘調査区域②（垂直）
- 卷頭図版 2 藩校明徳館跡
- 図版 1 久保田城跡（1）
- 1 調査区全景（北→）
 - 2 大手門の堀周辺（南東→）
- 図版 2 久保田城跡・大手門地区（1）
- 1 調査終了状況（南→）
 - 2 ヘドロ除去作業（北東→）
- 図版 3 久保田城跡・大手門地区（2）
- 1 南側杭検出状況（南東→）
 - 2 北側杭検出状況（北→）
- 図版 4 久保田城跡・大手門地区（3）
- 1 南端部埋土除去作業（北東→）
 - 2 南側遺物出土状況（南→）
 - 3 南端部木製品出土状況（西→）
- 図版 5 久保田城跡・大手門地区（4）
- 1 南端部トータルステーション実測作業（北→）
 - 2 中央部埋土除去作業（南→）
- 図版 6 久保田城跡・大手門地区（5）
- 1 南端部護岸（北→）
 - 2 南端部護岸留め杭検出状況（北→）
- 図版 7 久保田城跡・大手門地区（6）
- 1 北側梶出土状況（西→）
 - 2 北端部木製品出土状況（東→）
 - 3 北端部板杓子出土状況（東→）
 - 4 北側梶出土状況（南→）
- 図版 8 久保田城跡・大手門地区（7）
- 1 南側受付皿出土状況（北→）
 - 2 南側曲物出土状況（北→）
 - 3 中央部遺物出土状況（北→）
 - 4 中央部梶出土状況（北→）
- 1 発掘調査区域①（南→）
- 2 発掘調査区域②（東→）
- 卷頭図版 3 久保田城跡出土陶磁器（1）
- 卷頭図版 4 久保田城跡出土陶磁器（2）
- 図版 9 久保田城跡・大手門地区（8）
- 1 基本土層断面（南→）
 - 2 南端部埋土除去作業（北→）
- 図版10 久保田城跡・大手門地区（9）
- 1 南端部黒色土・粘土検出状況（北→）
 - 2 南端部遺物出土状況（南→）
 - 3 中央部梶出土状況（南→）
- 図版11 久保田城跡・大手門地区（10）
- 1 調査終了全景（南→）
 - 2 調査終了（垂直写真）
- 図版12 久保田城跡・穴門地区（1）
- 1 調査区全景（北東→）
 - 2 穴門の堀周辺（北東→）
- 図版13 久保田城跡・穴門地区（2）
- 1 漏水のポンプアップ作業（南西→）
 - 2 ヘドロ除去作業（西→）
- 図版14 久保田城跡・穴門地区（3）
- 1 調査終了状況（西→）
 - 2 護岸検出状況（東→）
- 図版15 久保田城跡・穴門地区（4）
- 1 西端部杭検出状況（東→）
 - 2 栓橋下埋土除去作業（南西→）
- 図版16 久保田城跡・穴門地区（5）
- 1 栓堀区遺物出土状況（北→）
 - 2 栓堀区軒丸瓦出土状況（北→）
 - 3 栓堀区梶出土状況（北西→）
 - 4 栓堀下駄出土状況（北→）
- 図版17 久保田城跡・穴門地区（6）
- 1 調査途中全景（南西→）
 - 2 調査終了全景（東→）

- 図版18 久保田城跡・中土橋地区（1）
- 1 東側アスファルト除去作業（南東→）
 - 2 西側中土橋拡幅盛土（中央）検出状況（南→）
- 図版19 久保田城跡・中土橋地区（2）
- 1 東側近世道路面①（東→）
 - 2 東側近世道路面②（南→）
- 図版20 久保田城跡・中土橋地区（3）
- 1 東側土橋及び護岸（南→）
 - 2 東側北壁断面（A-B）
- 図版21 藩校明徳館跡（1）
- 1 表土除去後の風景（南→）
 - 2 中央部Ⅲ層相当遺構群（北→）
- 図版22 藩校明徳館跡（2）
- 1 S K P10・11断面（北東→）
 - 2 S K P30・31完掘（南→）
 - 3 S D82遺物出土状況（北→）
- 図版23 藩校明徳館跡（3）
- 1 S K P63断面（南西→）
 - 2 S K P64断面（南西→）
 - 3 S K P35出土状況（南西→）
- 図版24 藩校明徳館跡（4）
- 1 S K P65皿出土状況（南西→）
 - 2 S K P93断面（南→）
 - 3 S K P49完掘（南西→）
- 図版25 藩校明徳館跡（5）
- 1 S K P61・62・66・67・68完掘（東→）
 - 2 S X24完掘（東→）
- 図版26 藩校明徳館跡（6）
- 1 中央部埋土除去作業（北→）
 - 2 南側IV層遺構群（北→）
- 図版27 藩校明徳館跡（7）
- 1 S K P106完掘（南→）
 - 2 S K P118完掘（北→）
 - 3 S K P99完掘（南→）
- 図版28 藩校明徳館跡（8）
- 1 S K P111完掘（南→）
 - 2 S K P96完掘（南→）
 - 3 S K33断面（東→）
- 図版29 藩校明徳館跡（9）
- 1 S X32完掘（南→）
 - 2 調査区全景（南→）
- 図版30 漆塗脇差保存処理工程（1）
- 1 保存処理前
 - 2 含浸処理準備—梶包完了
 - 3 含浸処理一糖アルコール溶液浸液
 - 4 含浸処理終了—遺物取り出し
- 図版31 漆塗脇差保存処理工程（2）
- 1 開梶
 - 2 処理液除去
 - 3 結晶化処理—ラクチトール微粉末散布
 - 4 梶包
- 図版32 漆塗脇差保存処理工程（3）
- 1 梶包完了時—室温結晶化処理
 - 2 開梶—結晶化処理終了
 - 3 表面洗浄—微粉末洗浄・除去
 - 4 洗浄後
- 図版33 漆塗脇差保存処理工程（4）
- 1 象嵌研磨—処理前（頭）
 - 2 象嵌研磨—処理後（頭）
 - 3 象嵌研磨—処理前（縁）
 - 4 象嵌研磨—処理後（縁）
- 図版34 漆塗脇差保存処理工程（5）
- 1 鍔周辺X線透過画像
 - 2 修復—鍔欠損部修復中
 - 3 修復—鍔修復後
 - 4 修復—鍔周辺完了
- 図版35 漆塗脇差保存処理工程（6）
- 1 漆膜修復—漆膜木胎接着
 - 2 接合
 - 3 補彩
 - 4 保存処理後

はじめに

第1節 調査に至る経過(第1図、巻頭図版1・2)

秋田県建設交通部都市計画課は、国道7号臨海十字路を基点に秋田自動車道・秋田中央ICを終点とする延長約8kmの秋田中央道路(平成2年度着工、平成19年度完成)を建設することになった。この地域高規格道路は、秋田市中心部と秋田自動車道及び秋田空港とのアクセス機能の向上、秋田駅東西間の交通渋滞の緩和、中心市街地の活性化を支援することを目的に計画された。特に、駅の東西間は全体延長2,550mのトンネルで結ばれ、従来の手形陸橋と明田地下道の交通混雑や通勤通学時の不便を緩和する役割を担う。

道路建設区域は、近世久保田城跡の範囲内でありまた藩校明徳館跡の一部に及ぶ可能性があるため、秋田県中央道路建設事務所は文化財保護法に基づき、この事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導を依頼した。これを受け、秋田県教育委員会生涯学習課文化財保護室は分布調査を行い、工事区域内に係る埋蔵文化財包蔵地と推定される区域について、今後確認調査及びそれに基づく発掘調査を実施すべきことを回答した。

以上の経過を踏まえて、平成14年度に秋田県埋蔵文化財センターが地区を越えた3度の確認調査を実施し、久保田城跡と藩校明徳館の一部が工事対象区域に及んでいることを確認した。この成果を受け、中央道路建設事務所と文化財保護室が協議した結果、事業計画との関連から平成15年5月より発掘調査を実施することになった。

第2節 調査要項

遺跡名称 久保田城跡 ◆略号(5KBTJ)

所在地 秋田県秋田市千秋明徳町204-7外

調査期間 平成15年5月26日～7月7日

対象面積 722m²

調査面積 722m²

調査主体者 秋田県教育委員会

調査担当者 秋田県埋蔵文化財センター

遺跡名称 藩校明徳館跡 ◆略号(5HKMTK)

所在地 秋田県秋田市中通1丁目4-52外

調査期間 平成15年7月8日～8月1日

対象面積 200m²

調査面積 200m²

調査主体者 秋田県教育委員会

はじめに

調査担当者 秋田県埋蔵文化財センター
発掘担当者 五十嵐一治 南調査課調査班学芸主事（調査時）
遠藤 元 南調査課調査班調査・研究員（調査時）
田村瑞保 南調査課調査班調査・研究員（調査時）
整理担当者 五十嵐一治 （現 教育庁生涯学習課文化財保護室埋蔵文化財班学芸主事）
利部 修 南調査課調査班主任学芸主事兼班長
総務担当者 金 義男 （現 企画振興部団体・障害者スポーツ大会局施設調整課副主幹）
渡辺 憲 総務課長
高橋 修 （現 教育庁保健体育課競技力向上対策班主査）
柴田卓也 総務課主任
田口 旭 総務課主事
調査協力機関 秋田県秋田中央道路建設事務所 秋田市教育委員会

遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地（第2図）

久保田城跡と藩校明徳館跡が位置する秋田市は、秋田県海岸平野部のほぼ中央にあり、東は太平山系を中心とした出羽山地、南は内陸の横手盆地から北流する雄物川に区画される。現雄物川河口付近で繋がる旧雄物川は、市街地の南から北西方向に流れ秋田港（旧土崎港）で日本海に注いでいる。現秋田市街地の中心部は近世城下町を踏襲していく、現千秋公園の久保田城跡西側で南北に流れる旭川は、近世秋田藩主佐竹義宣が河道の一部を直線的に西に掘り替えたものである。この東が内町、西が外町で城下町の骨格が形成された。久保田城跡の調査区は、千秋公園南側入り口（中土橋地区）と、東側大手門堀、西側穴門堀の一部である。これらの南側に近接して、寛政年間に置かれた藩校明徳館があり、この調査区は藩校明徳館跡北西側の一角である。

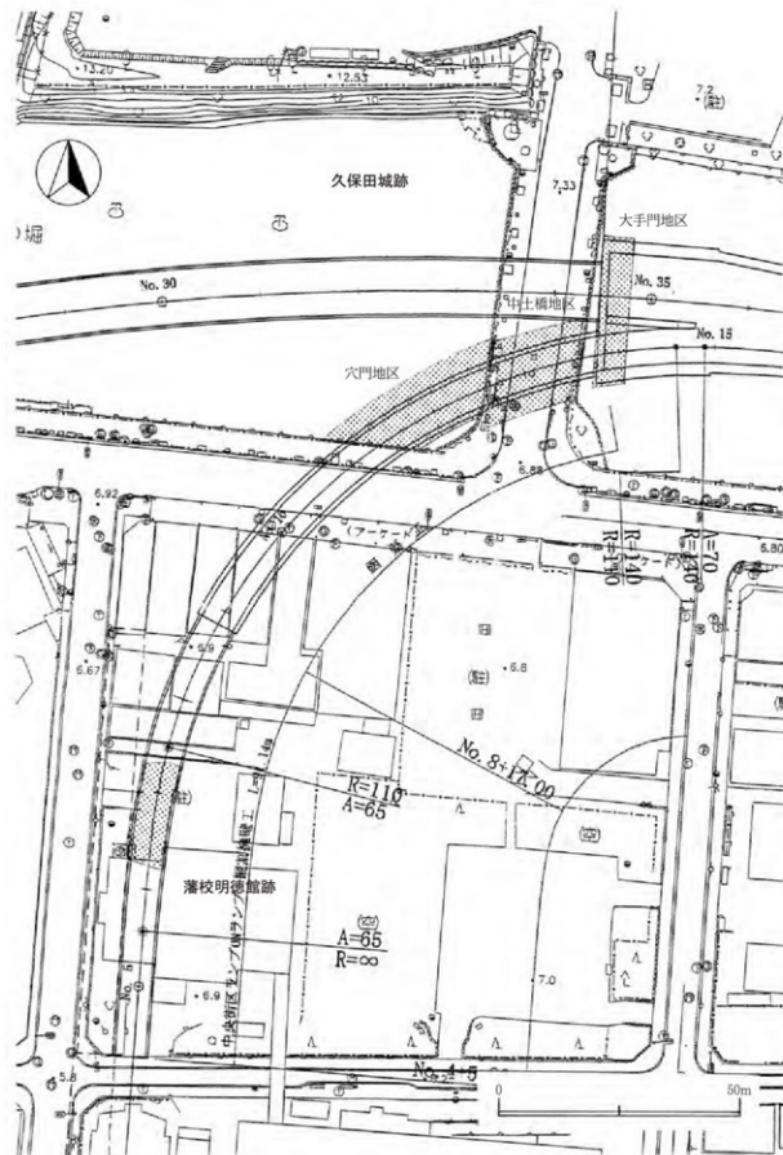
今回の調査区一帯は、久保田城築城時に作製された『御国替当座御城下絵図』に拠れば、大手門の堀から南に広がる湿地帯として描かれてる。平成12年に行った藩校明徳館跡の調査と、平成14・15年に行った東根小屋町遺跡の調査では、最下層に「スクモ層」が確認され、絵図にあるような広大な湿地帯であることが分かった。特に後者の調査では、湿地帯の埋め立てや地盤改良の整地地業が繰り返され、1.5m以上に及ぶ江戸時代遺物包含層も確認された。久保田城跡は千秋公園台地と呼ばれ、北東に位置する手形山から旧旭川の浸食で分断されたと考えられている。この市街地南側から仁井田地区に広がる広範な地域は、雄物川等の旧河川流路が見られ軟弱地盤を形成している。調査の結果得られた「スクモ層」は、以上の地質環境によって形成されたものである。

第2節 歴史的環境（第2図、第1表）

市町村合併以前の秋田市には、『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書—改訂版一』によって373か所の遺跡が知られる。その中には国指定史跡の秋田城跡や地蔵田遺跡も含まれている。ここでは、久保田城跡や藩校明徳館跡の時代性から主として近世以降の遺跡を取り上げ概観する。

現在、千秋公園として市民に親しまれている久保田城跡は（23）、秋田藩主佐竹義宣が1603（慶長8）年築城を開始し翌年完成している。1607（慶長12）年には久保田城下の町割りを行い、現市街地の骨格ができあがった。平成9年秋田市教育委員会は、都市公園整備事業の表門復元に伴う発掘調査を実施し、表門の礎石や両側に取り付く土塁を調査した。そこでは、平成12年にも工事立ち会い時に柱掘方や小規模な建物跡が見つかり、創建期の門と想定されている。

久保田城下の南側は上級武士の侍町として知られ、その一部を平成14・15年に秋田県教育委員会が東根小屋町遺跡（26）として発掘調査を行った。そこからは、いくつもの整地地業が確かめられ、井戸跡・トイレ造構や門・柱列の他多くの建物跡が見つかった。また、初期伊万里を含む肥前産陶磁器・瀬戸美濃系磁器・漆椀・下駄など各種の木製品が出土し、近世久保田城下の武家屋敷の一端が明らかになった。また平成17年同教育委員会は、秋田中央警察署の新築工事に際し古川堀反町遺跡（24）の発掘調査を行った。ここでも、大がかりな整地地業が認められ、武家屋敷をはじめ多くの陶磁器や木製品などが見つかっている。



第1図 久保田城跡、藩校明徳館跡の調査区域図

東根小屋町遺跡の西側を区切る市道中通牛島線の西側には、藩校明徳館跡（25）が存在し、平成12年秋田市教育委員会が発掘調査を行った。藩校明徳館は、秋田藩9代藩主佐竹義和によって1790（寛政2）年に開学した。当初は「学館」の名称で、1793（寛政5）年「明道館」と改称、さらに同7年「明徳館」に改称した。調査では、建物跡・柱列・溝跡・井戸跡などが見つかり、肥前系陶器・瀬戸美濃系磁器・在地の寺内産陶器の他、土製人形・錢貨なども出土した。

これらの武家屋敷や藩校以外にも、いくつかの近世遺跡が存在する。久保田城跡の西側には八橋一里塚（28）があり、1604（慶長9）年に江戸日本橋を基点に全国主要街道沿いに設けられた一里塚の1つである。また久保田城跡北側には、佐竹氏菩提寺になっている万古山天徳寺（20）や、同東側には著名な国学者平田篤胤の墓（12）などがある。

引用・参考文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡～秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一』秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田市教育委員会『久保田城跡一表門復元に伴う発掘調査報告書一』 2001（平成13）年

秋田市教育委員会『秋田市藩校明徳館跡一市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書一』 2002（平成14）年

秋田市教育委員会『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』 2002（平成14）年

第1表 周辺遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 所在地 | 備考 |
|----|-----------|-------------|-----------------|----------------|
| 1 | 大籠 | 中世 | 秋田市酒川字戸手川 | 城郭 |
| 2 | 地内塙 | 中世 | 秋田市酒川字地内 | 城郭 |
| 3 | 地内上設跡 | 唐文 | 秋田市酒川字地内 | |
| 4 | 地内II設跡 | 唐文 | 秋田市酒川字地内 | 遺物包含地 |
| 5 | 中山台遺跡 | 令良・平安 | 秋田市新野田字中山台 | 遺物包含地 |
| 6 | 萬葉合跡 | 唐文 | 秋田市新野田字萬葉台 | 遺物包含地 |
| 7 | 手形山遺跡 | 令良・平安 | 秋田市手形字人松沢 | 墓跡 |
| 8 | 大船沢I遺跡 | 唐文・平安 | 秋田市手形字大船沢 | 遺物包含地 |
| 9 | 大船沢II遺跡 | 中世 | 秋田市手形字大船沢 | 遺物包含地 |
| 10 | 千形山南遺跡 | 平安 | 秋田市千形字大船沢 | 鬼落跡・遺物包含地 |
| 11 | 如野寺 | 古世 | 秋田市風川町西-73 | 莊園 |
| 12 | 平出廻道墓 | 古世 | 秋田市平出字大沢 | 墓地 |
| 13 | 松野遺跡 | 唐文・奈良・平安・中世 | 秋田市手形字松野 | 遺物包含地・城館 |
| 14 | 御衣遺跡 | 唐文 | 秋田市庄留字御衣 | 鬼落跡 |
| 15 | 桜田城内遺跡 | 唐文 | 秋田市桜田字木沼 | 遺物包含地 |
| 16 | 八幡館 | 唐文・平安 | 秋田市外旭用八幡一丁目・三丁目 | 城郭 |
| 17 | 八幡田遺跡 | 奈良・平安・中世 | 秋田市外旭用八幡田一丁目 | 遺物包含地 |
| 18 | 人深塙 | 唐文・中世 | 秋田市外旭用神田字人深 | 遺物包含地・城郭 |
| 19 | 山崎館 | 中世 | 秋田市外旭用木口字山崎 | 城郭 |
| 20 | 万圓山天慶寺 | 近世 | 秋田市柴一巒根町10 | 社寺 |
| 21 | 東根寺跡跡 | 唐文・平安・中世 | 秋田市柴一巒根五郎山 | 遺物包含地(城郭) |
| 22 | 一ノ坪条里制酒槽 | 令良・平安 | 秋田市鷹戸八丁・泉一ノ坪 | 条里制酒槽 |
| 23 | 久保田城跡 | 近世 | 秋田市千秋公園・千秋明徳町 | 城郭 |
| 24 | 古川船岡町遺跡 | 近世 | 秋田市千秋明徳町1-9 | |
| 25 | 藩校明徳館跡 | 近世 | 秋田市中通二丁目4 | 遺物包含地・武家屋敷・子校跡 |
| 26 | 東根小町町遺跡 | 近世 | 秋田市中通二丁目1-52 | |
| 27 | 日黒塗仕事 | 古世 | 秋田市中通三丁目 | |
| 28 | 八幡一塙跡 | 古世 | 秋田市八幡木町一丁目1 | 一塙塙 |
| 29 | 薄物石跡 | 平安・古世 | 秋田市山王六丁目 | 遺物包含地 |
| 30 | 越子山塙跡 | 唐文 | 秋田市元松原町 | 遺物包含地 |
| 31 | 當麻寺石造物 | 中世・近世 | 秋田市旭北柴町7-42 | 宝鏡山塔・板碑 |
| 32 | 妙圓寺阿弥陀碑 | 一 | 秋田市旭北北7-2-17 | 板碑 |
| 33 | 古晉塔 | 中世 | 秋田市東通附田 | 城郭 |
| 34 | 金剛寺山一ツ森遺跡 | 近世 | 秋田市炳山金剛町 | 塙 |
| 35 | 七ヶ森遺跡 | | 秋田市炳山金剛町 | 塙 |

遺跡の環境



第2図 久保田城跡、藩校明徳館跡の位置と周辺遺跡

久 保 田 城 跡

(5 K B T J)

第1章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観（第3～6図、巻頭図版1）

久保田城跡は1604（慶長9）年に完成し、現在は千秋公園として市民の憩いの場として活用されている。発掘調査区はJR秋田駅から西に約650mの地点にあり、千秋公園南端の入り口中土橋（中土橋地区）、それに接する東側大手門の堀（大手門地区）、同西側穴門の堀（穴門地区）に分けられる。前年の確認調査では、中土橋地区的250m²、大手門地区的200m²、穴門地区の400m²を調査した。

調査の結果、中土橋地区では築城当時の旧中土橋が確認できたものの、東西・南北に巡らされた送水管やガス管などで遺構は大きく破壊されていた。しかし、当時の道路面は現在より70cm程低く、道路幅も約11m程あり、旧中土橋の西側に護岸のあったとも判明している。

大手門地区からは、南北に長い旧中土橋の東側護岸が確認され、一定の平場を設けて、旭川が形成した砂礫層を斜めに掘り下げていたことも分かった。この斜面部には、その面を保護するため筵状のものを木の枝を利用した簡単な杭で留めていた。旧中土橋の東側護岸では、斎串や鳥形、かわらけなどが出土し、護岸付近で祭祀を行ったことも判明している。陶磁器の他、木製品・土製品・石製品・瓦などが出土した。

穴門地区では、現中土橋に直行する広小路に並行して、旧広小路の護岸も見つかっており、ここでも砂礫層を掘り込んで緩やかな傾斜を作り出していることが確認できた。旧中土橋の西側護岸は、打込まれた杭に細いながらみを編んで補強していた。陶磁器の他、木製品・石製品・瓦・かわらけなどが出土した。

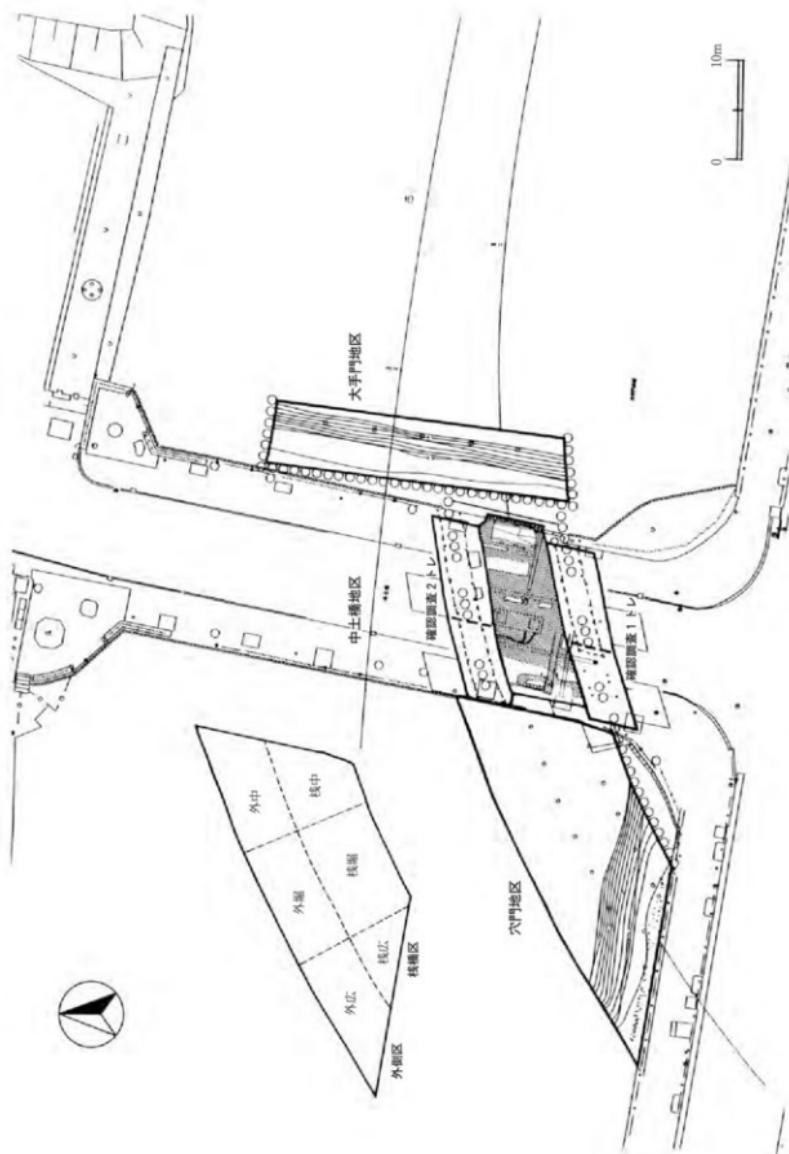
第2節 調査の方法（第3図）

広小路から中土橋に通じる地点は、千秋公園の入り口に当たり、通学路としても賑わっている。そのため、発掘期間中を通じて歩道や車道の確保が必要であった。調査は、大手門地区・穴門地区・中土橋地区の順序で進めたが、中土橋地区については西側半分を先に、東側を後に調査した。

大手門地区的調査は、東側でUの字を交互に連続させた鉄板矢板を、それを除く3辺では太い鋼管矢板を打ち込み、中の水を汲み上げて調査した。ここでは、中土橋東側の護岸の様子を探るために、東西の断面を大事にして調査を実施した。穴門地区では、中土橋西側護岸は大きく掘削されていることが確認調査で分かっており、広小路に直行する南北断面に留意した。ここでは、北西側にU字の鉄板矢板を弧状に打ち込み、調査区内の水を汲み上げ調査を実施した。中土橋地区では、アスファルトを剥いだ後、水道管やガス管を壊さないように注意し調査を実施した。これら3地区では、必要に応じてバックホーを使用し、排土はトラックで適時搬出した。

調査の記録は、筆録以外に図面と写真を活用し、計測はトータルステーションを利用した。写真撮影は、35mmのモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムを中心にネガカラーフィルムを併用した。遺物の取り上げに際しては、遺跡名・遺構名（グリッド名）・層位・出土年月日などを記載した。

久保田城跡



第3図 久保田城跡調査地区

第3節 調査の経過

平成14年度に行った中土橋・大手門堀の確認調査の結果を受けて、大手門堀地区・中土橋地区・穴門地区が発掘調査の対象になり、平成15年5月26日より同年7月7日まで調査を実施した。

5月26日、バックホーによる表土除去と平行して、発掘機材の搬入を行う。はじめに大手門地区の調査に入る。5月27日、北側でI層からV層までの基本土層を確認する。5月29日、旧中土橋の路面より低い旧大手門の堀より、鳥形・斎串・かわらけが出土した。5月30日、トータルステーションによる遺構計測作業を行う。6月2日、平場に杭列の痕跡を確認。護岸部斜面に、筵状のものを短い杭で留めてある状況が検出される。

6月3日、本日より穴門地区の調査に入る。6月4日、トータルステーションによる遺構計測作業を行う。6月6日、穴門地区広小路側の上部でしがらみを確認。鉄板矢板の継ぎ目から水が漏水し、水をポンプで汲み上げながら調査を行う。本日で大手門の調査を終了し、トータルステーションによる遺構計測作業を行う。6月10日、穴門地区広小路側でI層からV層までの基本土層を確認する。陶磁器以外に軒丸・軒平瓦も出土した。

6月20日、中土橋地区の東側半分を片側交互通行にして西側の調査を開始する。バックホーでコンクリートを剥いでから粗掘りを行う。現道の70cm程下に、旧中土橋路面を確認した。盛土層中から江戸初期の陶磁器が出土し、旧中土橋創建時期の手がかりが得られた。6月30日、西側半分を片側交互通行にして、東側の調査を開始する。7月1日、中土橋地区でトータルステーションによる計測業務を行う。7月7日、中土橋地区東側肩部を掘り下げたところ、佐竹氏入部以前と考えられる道路跡を確認した。道路中央から絵唐津が出土した。この後、最後の計測作業を行って中土橋地区の調査を終了し、久保田城跡の調査を終了する。

第4節 整理作業の方法と経過

整理作業は、藩校明徳館跡の調査が終了した後の平成2003年8月より開始した。

出土遺物は、洗浄・注記・接合の後、分類作業を行い実測図の必要な遺物を選択した。次に、遺物の実測・拓本、トレース等の作業を行った。特に陶磁器や漆器などでは、図柄や文字が忠実に再現されるように留意した。そのため、遺物の挿図は3分の1を基調としたが、2分の1で表現したものもある。また、一覧表を作成して遺物の特徴を通覧できるように配慮した。

遺構の平面図はトータルステーションで委託実測を行い、断面図は手実測で作成している。そのため平面図と断面図の関係に誤差が生じており、それらを修正した第二原図を作成した。トレースは、必要挿図の大きさによって適宜縮尺を考慮して行った。

報告書の体裁は、前段に遺跡に関する記述を述べ、後段に遺構・遺物の記述をまとめた。末尾には抄録を掲載してある。この他35mmのモノクロを中心に、なるべく多くの写真を掲載できるように努め、カラー写真を口絵として採用した。また、藩校明徳館跡の報告と合冊の形態を採っている。

なお、整理作業は調査担当の五十嵐をはじめとして遠藤・田村が進めていたが、平成16年度定期人事異動に伴い五十嵐が異動、遠藤・田村が退職となり、後の整理を利部が引き継いだ。

第2章 調査の記録

第1節 基本土層(第4図)

基本土層は、調査地区が大手門地区・穴門地区・中土橋地区と3地区に分かれるため、それぞれの地区で作図している(第4図)。以下に、大手門地区・穴門地区・中土橋地区の順に記述する。第4図①の図は大手門地区北壁基本土層図である。

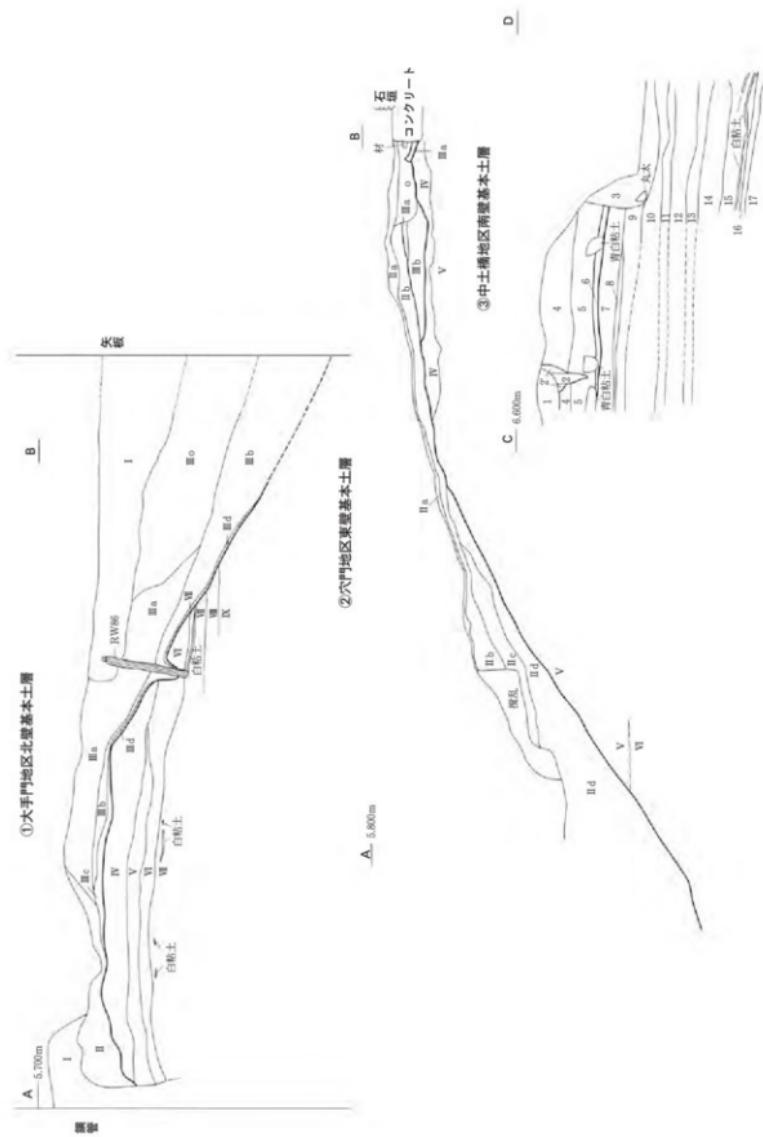
- I層 灰色土(7.5Y4/1) ヘドロ。しまり・粘性とも弱。主に昭和・平成期の遺物を含む。
- II層 黒褐色土(10YR3/1) 砂質土。しまり・粘性とも弱。主に明治・大正期の遺物を含む。
- III 0層 灰オリーブ色土(5Y5/2) 砂質土。
- III a層 灰オリーブ色土(5Y5/2) 砂質土。礫を多量に含む。しまり強、粘性弱。
- III b層 灰オリーブ色土(5Y5/2) 砂質土。主に江戸期の遺物を含む。
- III c層 黒褐色土(10YR3/2) 粘土(貼り付け)。しまり中、粘性強。
- III d層 黒色土(10YR1.7/1) 疊状遺物の腐植土。しまり中、粘性強。
- IV層 黑褐色土(10YR2/2) スクモ。植物遺体を含む。しまり弱、粘性中。
- V層 黒色土(10YR2/1) 粘土。しまり弱、粘性強。
- VI層 黑褐色土(10YR3/1) 粘土。しまり弱、粘性強。
- VII層 黑褐色土(10YR2/2) 粘土。しまり弱、粘性強。
- VIII層 黒色砂質土～粘土
- IX層 黄褐色粘土

第4図②の図は穴門地区東壁基本土層図である。

- 0層 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 砂礫土。小礫多量に含む。しまり強。石垣造成地に構築。
- I層 ヘドロ。
- II a層 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 砂利層。しまり弱。
- II b層 黑褐色土(10YR3/1) 砂利層。しまり弱。
- II c層 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 砂利層。しまり弱。
- II d層 灰色土(7.5Y4/1) 砂利層。
- III a層 灰色土(7.5Y4/1) やや砂質の粘土。しまり強、粘性中。
- III b層 灰オリーブ色土(7.5Y6/2) やや粘質の砂質土。全体に砂が縞状に混在する。
- IV層 灰色土(7.5Y6/1) 砂層。全体に粘土粒少量含む。ラミナが発達している。しまり強。
- V層 灰色土(7.5Y6/1) 砂礫層。小礫が多量混在する。ラミナが発達している。しまり強。
- VI層 灰色土(10YR6/1) 粘土。しまり・粘性とも強。

第4図③の図は中土橋地区南壁基本土層である。平成15年に行った確認調査時の基本土層表記と対応させて記述する。

- 1層 褐灰色土(10Y4/1) 粗砂。シルト・粘土を混在する。しまり中、粘性弱。
- 2層 オリーブ黒色土(7.5Y3/1) 粗砂。シルト・粘土を混在する。しまり・粘性とも弱。



第4図 大手門・穴門・中土橋地区基本土層

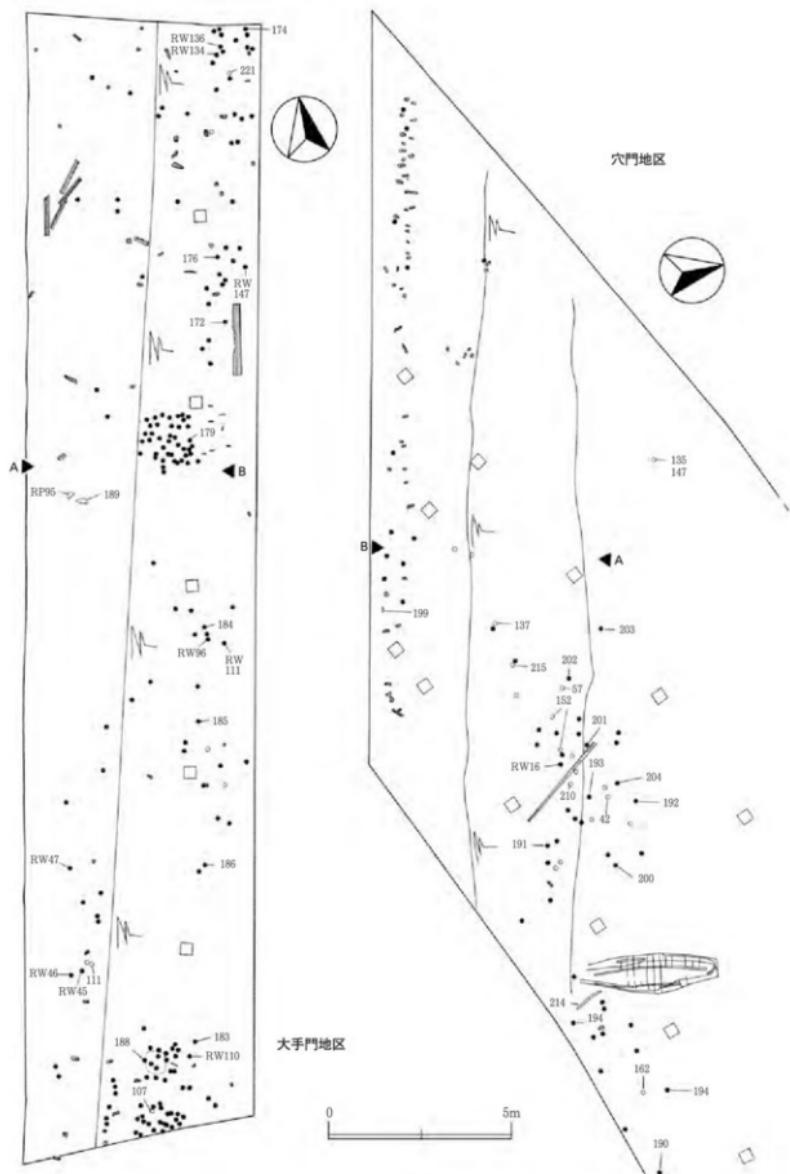
- 3層 黒褐色土（2.5Y3/1） 粘土。しまり弱、粘性強。
- 4層 緑灰色土（10G Y5/1） 粗砂層。礫を少量含む。しまり強、粘性弱。確認調査II層対応。
- 5層 黒褐色土（2.5Y3/1） 粘土。しまり中、粘性強。確認調査III・IV層対応。
- 6層 黒褐色土（2.5Y3/1） 粘土。しまり弱、粘性強。確認調査V層対応。
- 7層 黒褐色土（10Y R3/2） 粘土。スクモ。しまり弱、粘性強。
- 8層 黒色土（10Y R1.7/1） 粘土。しまり弱、粘性強。確認調査V層対応。
- 9層 灰オリーブ色土（5Y4/2） 粘土。しまり弱、粘性強。確認調査VI層対応。
- 10層 黒褐色土（10Y R3/2） 粘土。スクモ。しまり弱、粘性強。
- 11層 黄灰色土（2.5Y4/1） 粘土。しまり弱、粘性強。
- 12層 黒褐色土（2.5Y3/1） 粘土。植物遺体を含む。しまり弱、粘性強。
- 13層 灰色土（5Y4/1） 粘土。しまり弱、粘性強。
- 14層 黒色土（10Y R2/1） 粘土。しまり弱、粘性強。
- 15層 黒褐色土（10Y R3/1） シルト・粘土。植物遺体を含む。しまり弱、粘性強。
- 16層 黒色土（10Y R1.7/1） 粘土。しまり弱、粘性強。
- 17層 黄灰色（2.5Y4/） 粘土。しまり弱、粘性強。

第2節 検出遺構と出土遺物(第5・6図、図版1~20)

今回調査した大手門地区の堀・穴門地区的堀・中土橋地区の中土橋はそれぞれ久保田城跡の一角を占めており、杭を埋め込んだ痕跡や柱穴様ピットなど個別の小さな遺構も検出されているものの、各々の地区をそれぞれ大きな遺構として扱うことも可能である。本文では、個別の小さな遺構は僅かな数なので各地区ごとに総体に記述することにし、その枠内で個別の小さな遺構も扱うことにして。また堀の端にあたる護岸部は、本来道路や建造物に伴うものであるが、調査区域ごとに説明している。3地区から出土した遺物は、2つの堀や中土橋を遺構として捉えていることから、それらの遺構関連遺物として扱うことも可能であるが、ここでは遺構外出土遺物として記述する。

大手門地区は、南北の長さが約30m×東西の幅が約6mの広さがある(第1図)。東西のほぼ中央には、南北に中土橋の肩部のおよそのラインが南北に確認され、その東側が旧大手門の堀の護岸として機能していた。第4図の大手門地区基本土層は、大手門地区中央部の北壁断面である。IV層以下は自然堆積層で、III層が不整合に入り込み、IV層以下の水平な堆積層を斜めに切り込んだことが理解される。これが大手門の堀西側の掘削面と想定される。護岸部斜面の角度は約30°で、大手門の堀の深さは1.8m以上である。IV層上面には、III c層とした粘土を貼り付けている。斜面の護岸部にはIII dとした延状の腐食土が覆い、留め杭が見られる。護岸部に筵を敷いて杭で留めたものである(図版6-2)。堀の西側には、幅3m以上の平坦面が旧中土橋に沿って造られている。調査区の北側と南側には、直徑5~10cm程の杭がやまとまって検出された。大手門の堀からは、杭・建築部材・磁器・陶器・かわらけ・瓦・木製品・石製品・土製品が出土した。

穴門地区は、およそ東西方向に長い逆台形状の範囲で、北側が約40m×南側が約15m×幅が約14mの広さがある(第1図)。東側の護岸は旧中土橋地区西側に存在し、南側には東西方向の広小路に沿っ



第5図 大手門・穴門地区遺構配置図

た護岸が確認できた。第4図の穴門地区土層は、広小路直下の平坦面肩部から護岸にかけての東壁断面である。Ⅲ層以下は自然堆積層でⅡ層が不整合に入り込み、Ⅲ層以下の水平な堆積層を斜めに切り込んだことが理解される。これが穴門の堀南側の掘削面と想定される。南側護岸斜面の角度は約35°で、穴門の堀の深さは2.2m以上である。ここでは、大手門地区のような埴状腐植土や留め杭は確認できなかった。調査区の南側には、平坦面肩部の東西方向に沿って、直径5~10cm程の杭が列を成すように検出された。また、堀を中心に建築部材や磁器・陶器・かわらけ・土師質土器・ミニチュア土器・瓦・木製品・鉄製品・石製品・土製品が出土した。

中土橋地区は、東西約20m、これに直行する幅が約16mの菱形を呈する範囲である（第1図）。第3図では、この調査区のうち南と北で囲われた区域を除いたのが今回の調査区域（第6図）である。南と北の区域のうち、南北の幅約2m分の中央域は、平成14年に確認調査（南が1、北が2トレンチ）を実施しているが、その際土留め用パイプ設置等で各トレンチの北と南側は掘削されてしまった。

第6図の斜線部分はガス・水道・下水管などの埋設工事で破壊された区域であり、これを除いた範囲が実際に調査できた区域である。第3図の点線は、確認調査で確認できた旧中土橋西側肩部の推定ラインである。肩部は、確認調査時に平・断面の一部で確認できたのみであり、この西側には0.6m前後の等間隔の杭にしがらみを絡んだ痕跡が見つかっている。つまり、肩部より西側は旧中土橋の護岸部及び旧穴門の堀になる。一方調査区の東端では、大手門の堀側へ傾斜していることが確認できた。つまり、旧中土橋の東側は、旧中土橋路面より約1.5m深さで幅の狭い護岸部があり、さらに東側に幅5m程の平坦面を形成して深い護岸部に至る、2段に構築された護岸と理解された。したがって、旧中土橋の幅は11mで、現在の中土橋は、旧中土橋の西側にずらして構築したものである。

第4図は中土橋地区東側の断面図である。4層から17層のうち、4層上面が江戸期の路面、7層以下が自然堆積層である。6層から4層は路盤を形成している盛土で、盛土より黄瀬戸・絵唐津が出土した。このうち、黄瀬戸は5層中（確認調査時のⅢ・Ⅳ層の境）から出土した。これより、旧中土橋の造成は江戸初期に実施されたことが裏付けられる。

第6図の調査区東側より、7基の柱穴様ピットのまとまりと、その付近より2つの杭が確認された。P8は長軸0.22m×短軸0.18mの楕円形、P11も長軸0.25m×短軸0.23mの楕円形で、その他のP6・P7・P9・P10・P13は長軸0.08~0.12m×短軸0.06~0.1mの円形もしくは楕円形である。杭の直径はPW3が約6cm、PW4が約10cmである。遺物は、灰釉を含んだ丸皿（164~166）の陶器が出土している。

第3節 遺構外出土遺物（第7~28図、第2~7表、巻頭図版3・4）

出土遺物を地区ごとに記述する。

（大手門地区）

大手門地区からは、前述したように磁器・陶器・かわらけ・瓦・木製品・石製品・土製品の多くの遺物が出土している。磁器には皿・鉢・碗・猪口・壺蓋・油壺・瓶・戸車が、陶器には皿・鉢・碗・甕があり、後にやや詳しく述べる。かわらけは皿（221・222）、瓦は棟瓦（208）のみである。木製品には漆塗りの椀蓋（167~171）・椀（172~174）、底板（175）・櫛（176）・刷毛（177）・杓子（178）

・板杓子（179～181）・行燈台（183）・刀形（184・185）・鳥形（186～188）・舟形（189）があり、刀形・鳥形は祭祀遺物である。石製品には砥石（219）、土製品には泥面子と呼ばれる土面（228）がある。以下に陶磁器を概観する。

磁器は、染付折縁皿（1～3）・染付菊花形皿（5）・染付丸皿（4・6～8）・色絵鉢（9）・染付七角碗（10）・染付丸碗（11～16）・染付猪口（17）・染付壺蓋（18）・染付油壺（19）・染付瓶（20）・染付角鉢（21）・白磁戸車（22）・鉄釉製品（23）・青磁丸鉢（61）が出土した。陶器は、灰釉丸皿（105）・鉢（106）・刷毛目文鉢（107）・なまこ釉鉢（109）・長石釉鉢（110）・素焼受付皿（111）・長石釉丸碗（112）・鉄釉丸碗（114）・長石釉甌（115）・鉄釉甌（116）が出土した。

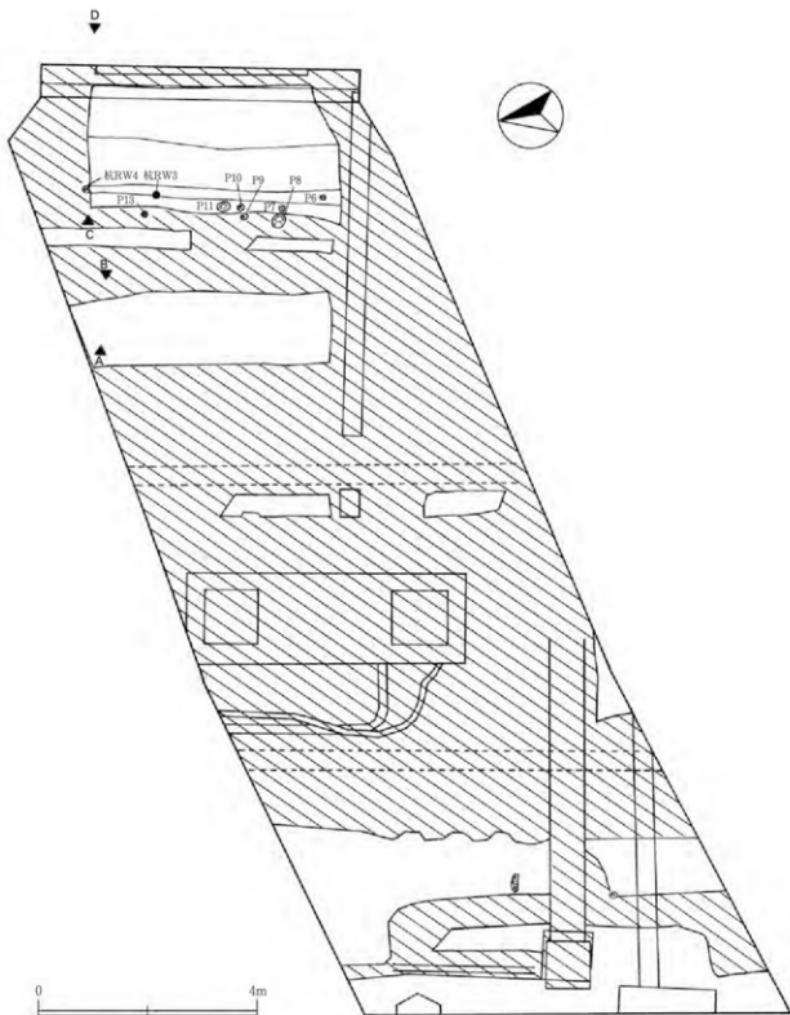
（穴門地区）

穴門地区からは、前述したように磁器・陶器・かわらけ・土師質土器・ミニチュア土器・瓦・木製品・鉄製品・石製品・土製品が出土した。磁器には瓶・皿・鉢・蓋・碗・盃・猪口・仏飯器・醤油瓶・油壺・香炉・唾壺・戸車が、陶器には盤・皿・鉢・蓋・碗・壺・把手付壺・甌・火入・貝風呂土瓶があり、後にやや詳しく述べる。かわらには皿（220・223）があり、土師質土器には焙烙（225）、ミニチュア土器には片口鉢（224）がある。瓦には、棟瓦（206・207）・棟軒瓦（209）・軒丸瓦（210）熨斗瓦（211・212）がある。木製品には漆塗りの椀蓋（190・191）・椀（192～194）、櫛（195・196）・鞘（198）・独楽（199・200）・斎串（201～204）・籠状製品（205）がある。4点の斎串は祭祀遺物である。鉄製品には脇差（214）がある。脇差は鞘に納まった状態で長さ79.6cm・鞘幅4.1cmで、刀身が51cm・反りが1.8cm・厚さが0.8cmである。锷は5つ木瓜の透かし様式で、鞘は漆塗り柄は鮫皮を用いて、锷の下と柄の頭には松葉文の象嵌をあしらっている。石製品は、硯（215～217）・砥石（218）・サイコロ（226）・垂飾品（227）がある。土製品には磚（213）や泥面子の土面（229）がある。

磁器は、染付瓶（24）・色絵丸皿（25）・染付丸皿（26・27、29～31、33～48、54・58・59）・染付折縁輪花皿（28）・染付輪花皿（32、49～52）・白磁丸皿（53）・染付角皿（55・56）・青磁丸鉢（57）・青磁輪花鉢（60）・染付蓋（62・63）・色絵蓋（64）・瑠璃釉丸碗（65）・染付丸碗（66・68～75、77～81）・色絵丸碗（76）・灰釉丸碗（82）・染付盃（83・84）・染付猪口（85～87）・色絵猪口（88・89）・染付仏飯器（91）・染付瓶（92・95、98～100）・醤油瓶（93・94）・色絵油壺（96）・染付香炉（102）・白磁唾壺（103）・白磁戸車（104）が出土した。陶器は、灰釉丸盤（117）・銅緑釉丸皿（118）・刷毛目文丸皿（119）・長石釉丸皿（120・121・128）・灰釉丸皿（122～124）・鉄釉丸皿（127・129）・素焼丸皿（125・126）・長石釉溝縁皿（130）・刷毛目文溝縁丸鉢（132）・鉄釉丸鉢（133）・素焼丸碗（135）・長石釉丸蓋（136・138）・灰釉丸蓋（137）・京焼風丸碗（140）・長石釉丸碗（144）・灰釉壺（147・148）・長石釉壺（150）・把手付壺（151）・鉄釉壺（152～155、157）・銅緑釉甌（156）・銅緑釉火入（159）・長石釉角鉢（161）・素焼貝風呂（162）・土瓶（163）が出土した。

（中土橋地区）

中土橋地区からは、黄瀬戸灰釉丸皿（164）と絵唐津の破片（165・166）が出土した。



第6図 中土橋地区遺構配置図

引用・参考文献

秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第365集 2003(平成15)年

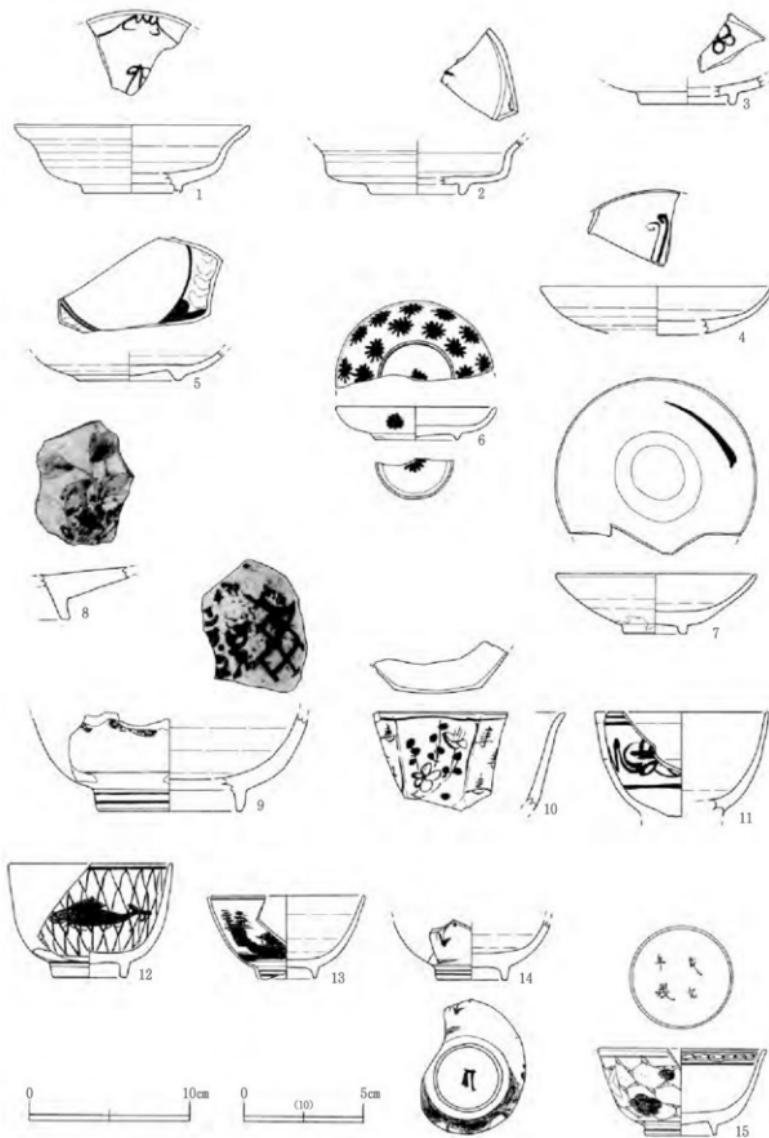
秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書第387集 2005(平成17)年

秋田市教育委員会『藩校明徳館跡－市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書－』 2002(平成14)年

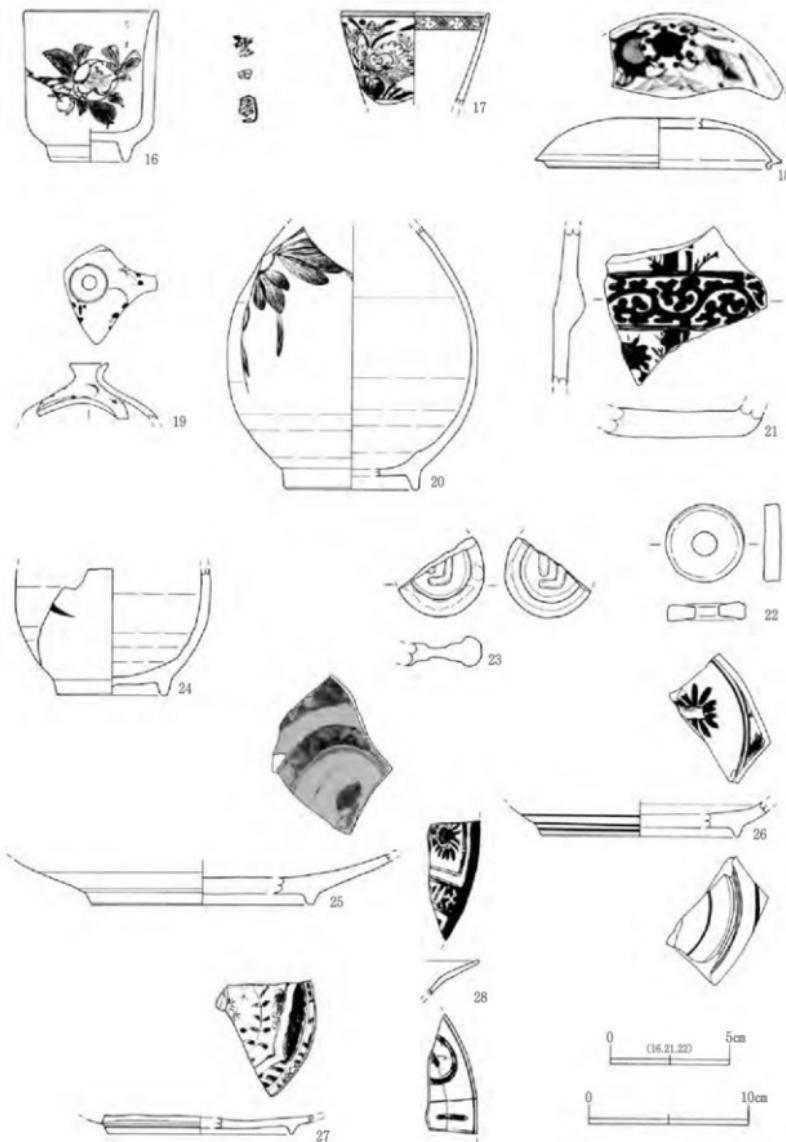
大橋康二『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社 1993(平成5)年

佐賀県立九州陶磁文化館『シリーズ「古伊万里の見方」v o 1, 1』 2004(平成6)年

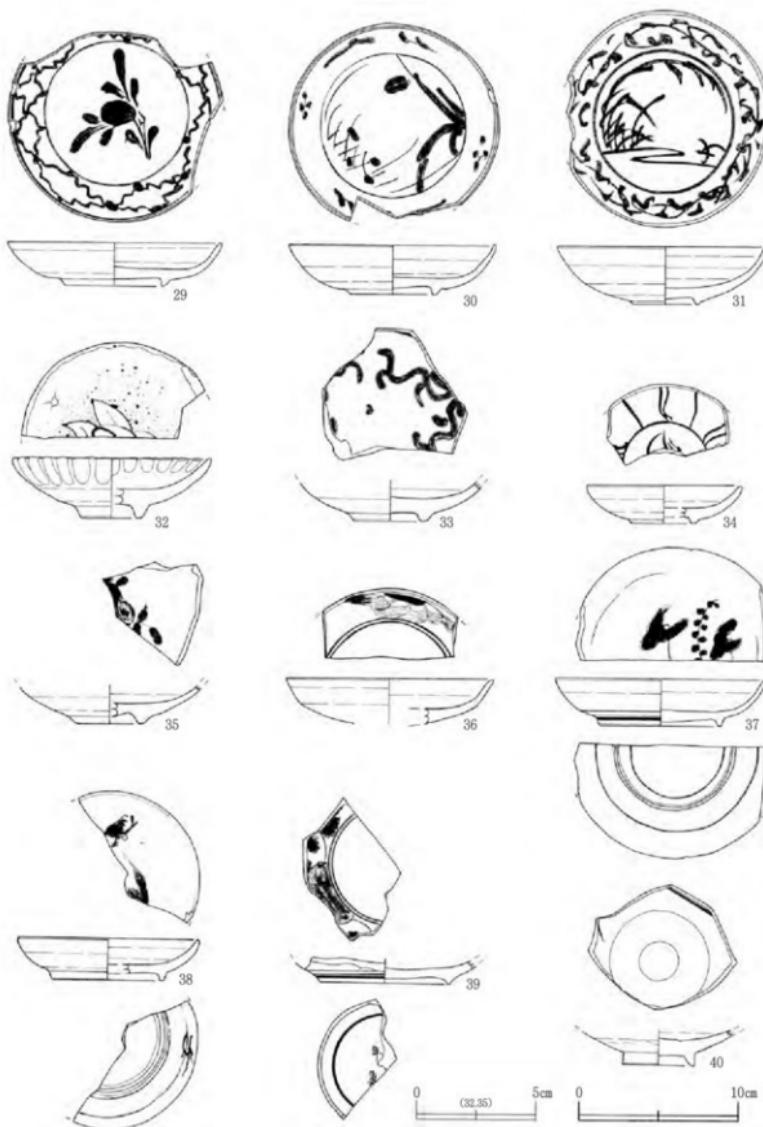
佐々木達夫『陶磁』日本史小百科29 近藤出版社 1991(平成3)年



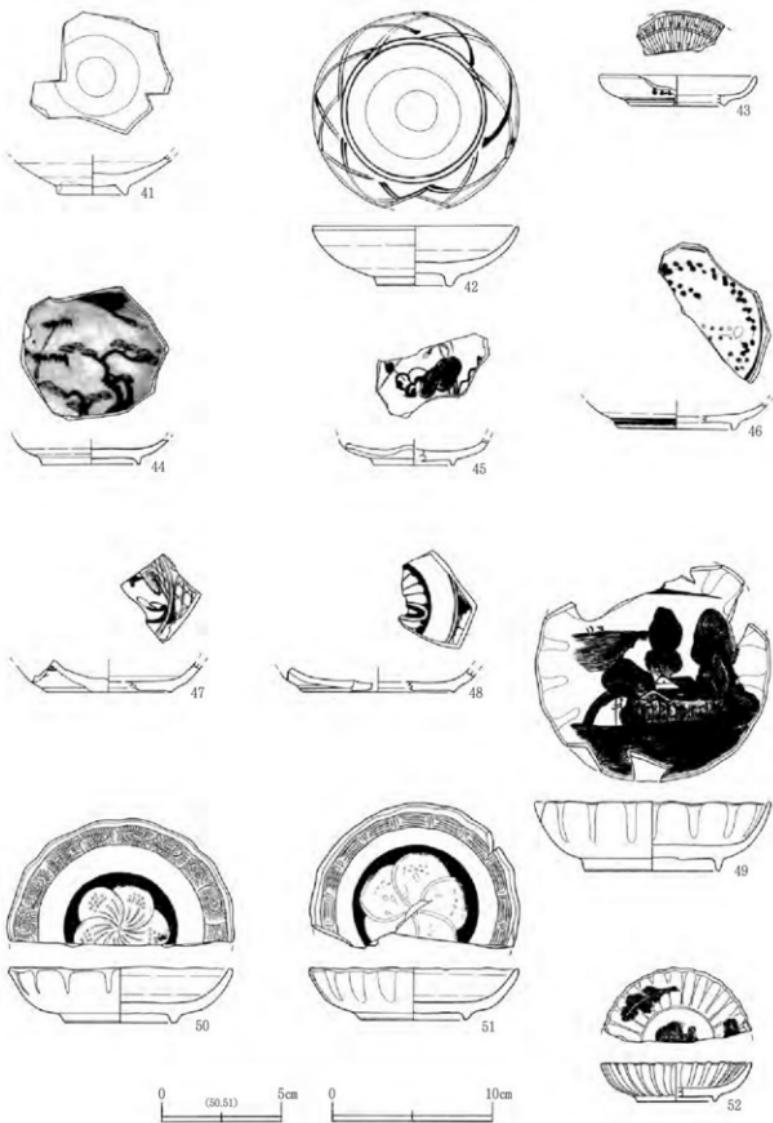
第7図 城跡出土遺物(1)…磁器①



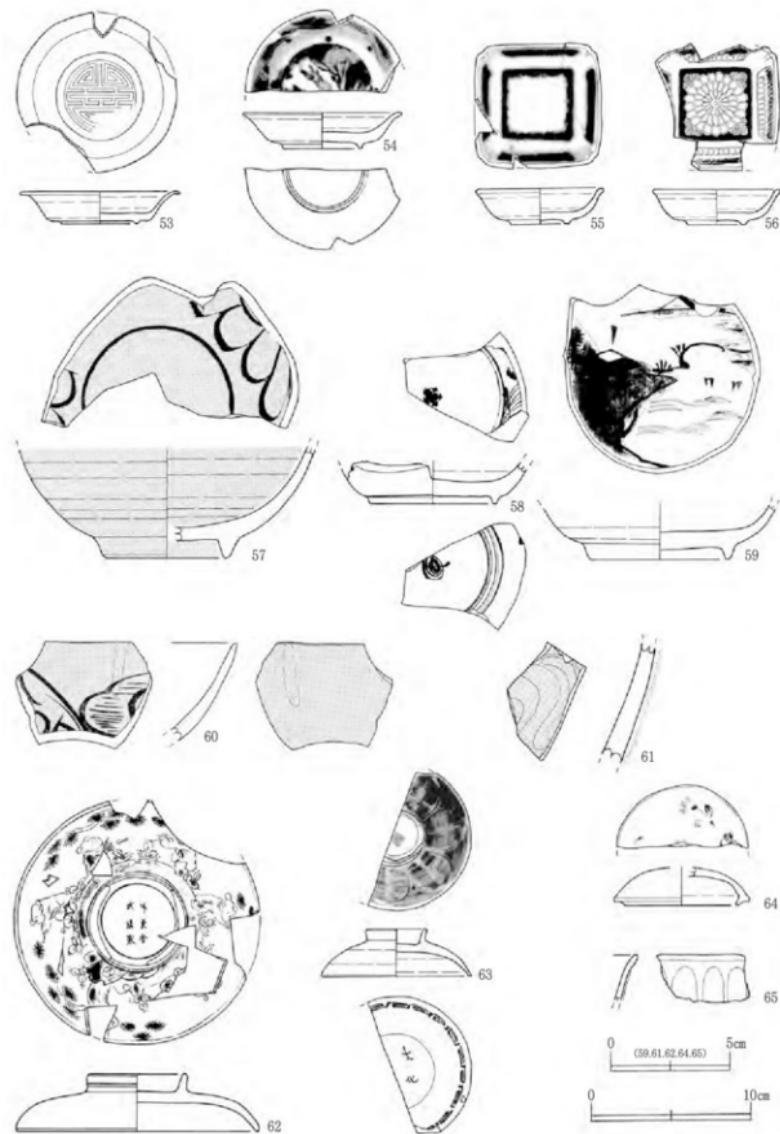
第8図 城跡出土遺物(2) 磁器…(2)



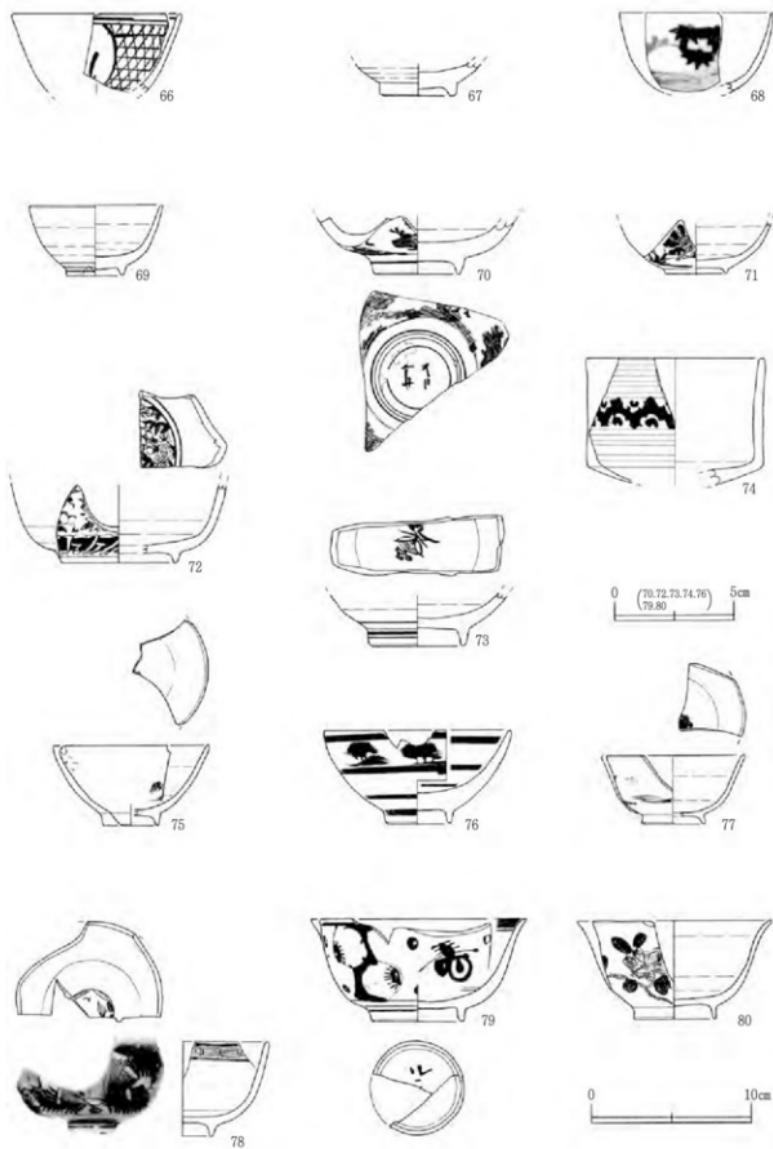
第9図 城跡出土遺物(3)…磁器③



第10図 城跡出土遺物 (4) …磁器④



第11図 城跡出土遺物 (5) …磁器(5)



第12図 城跡出土遺物 (6) …磁器 ⑥



第13図 城跡出土遺物(7)…磁器⑦

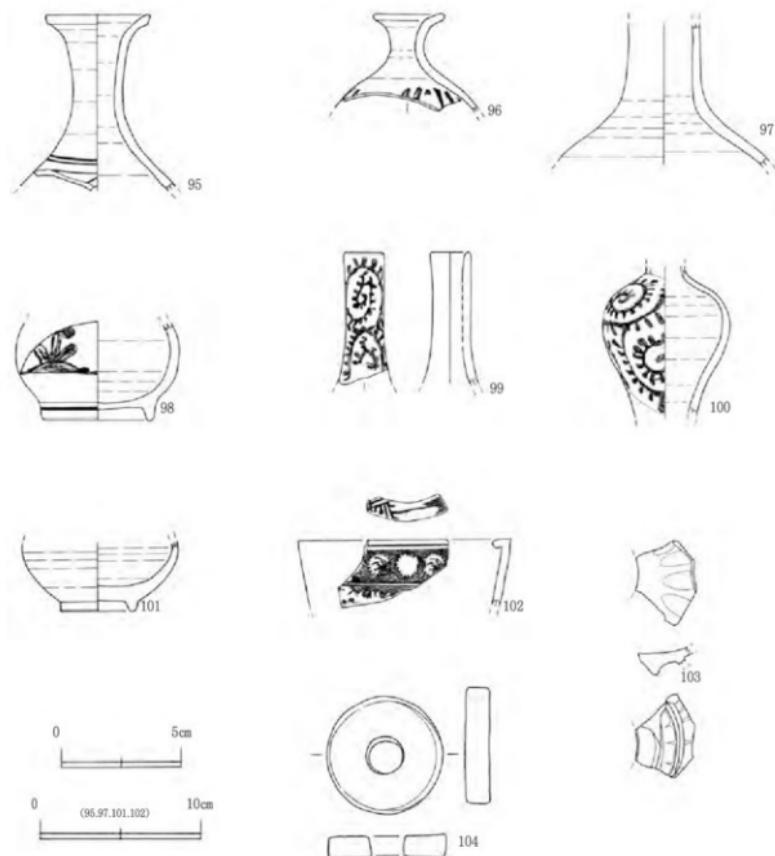


93

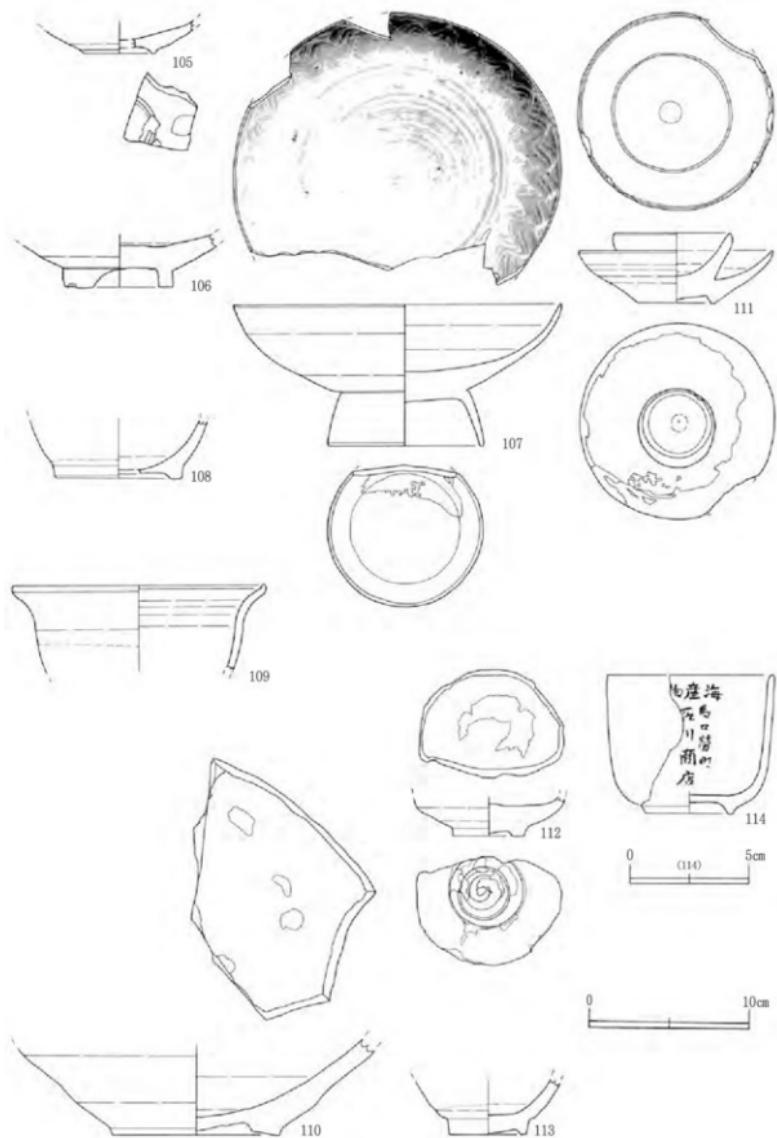


94

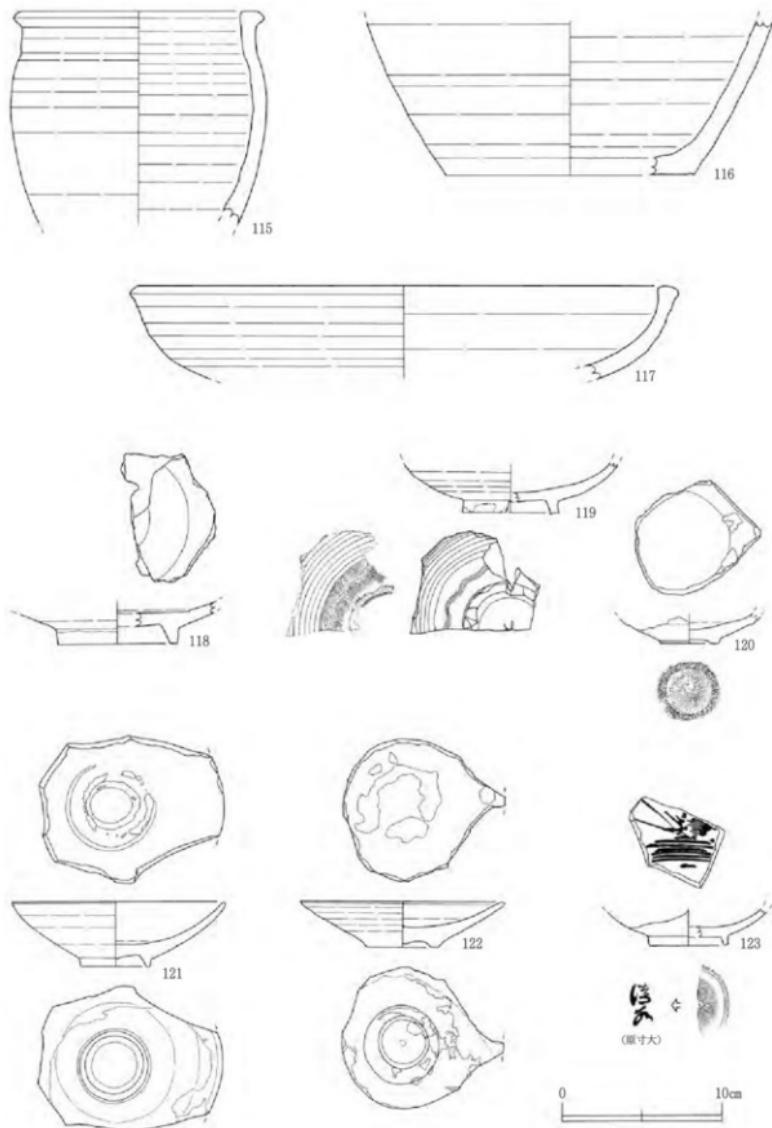
第14図 城跡出土遺物 (8) …磁器 8)



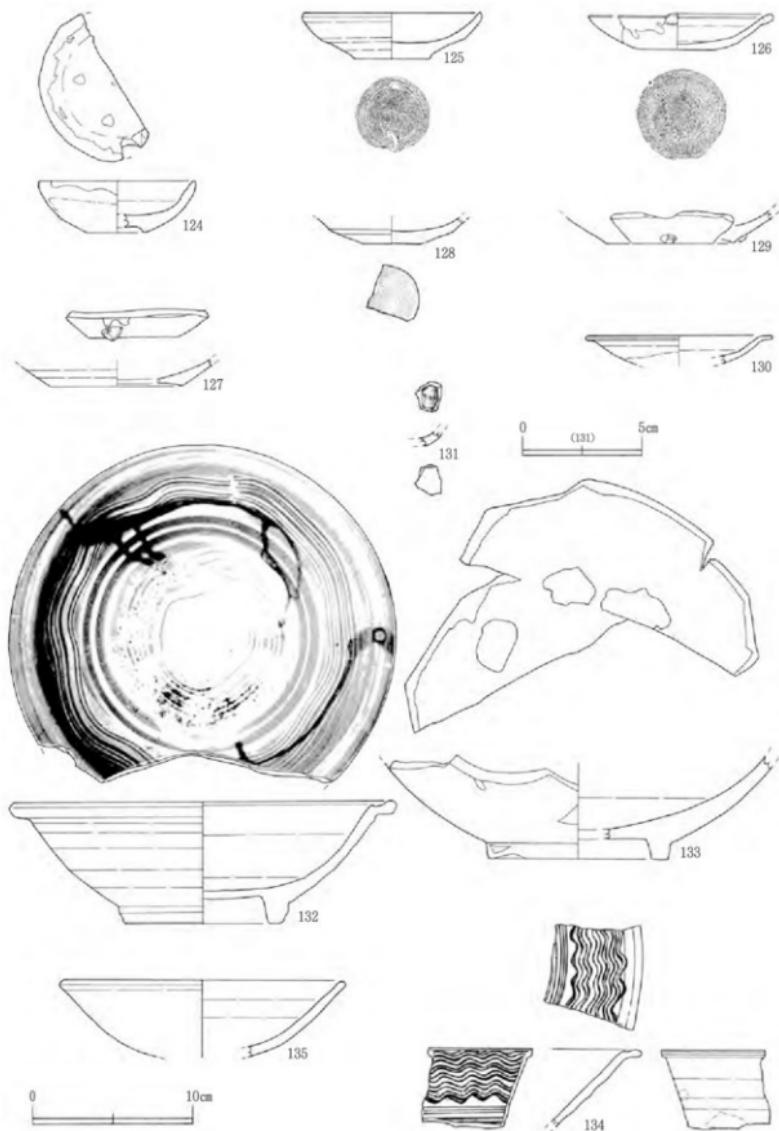
第15図 城跡出土遺物(9)…磁器 9



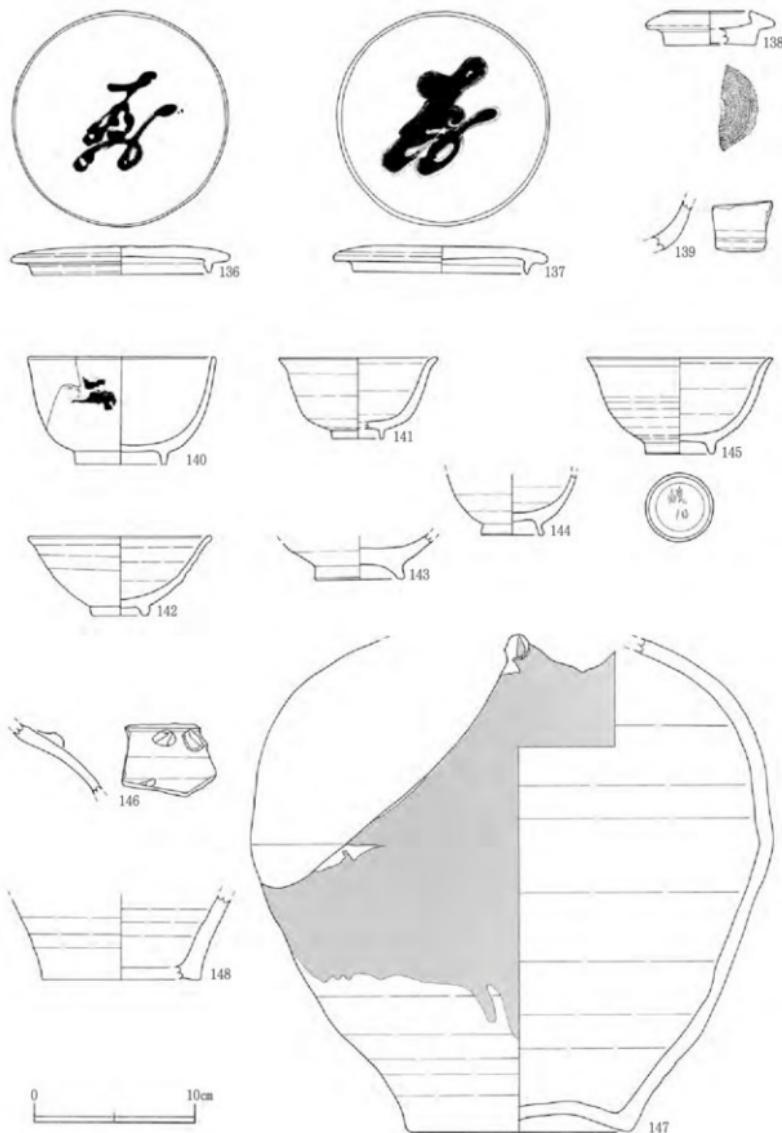
第16図 城跡出土遺物 (10) …磁器10・陶器①



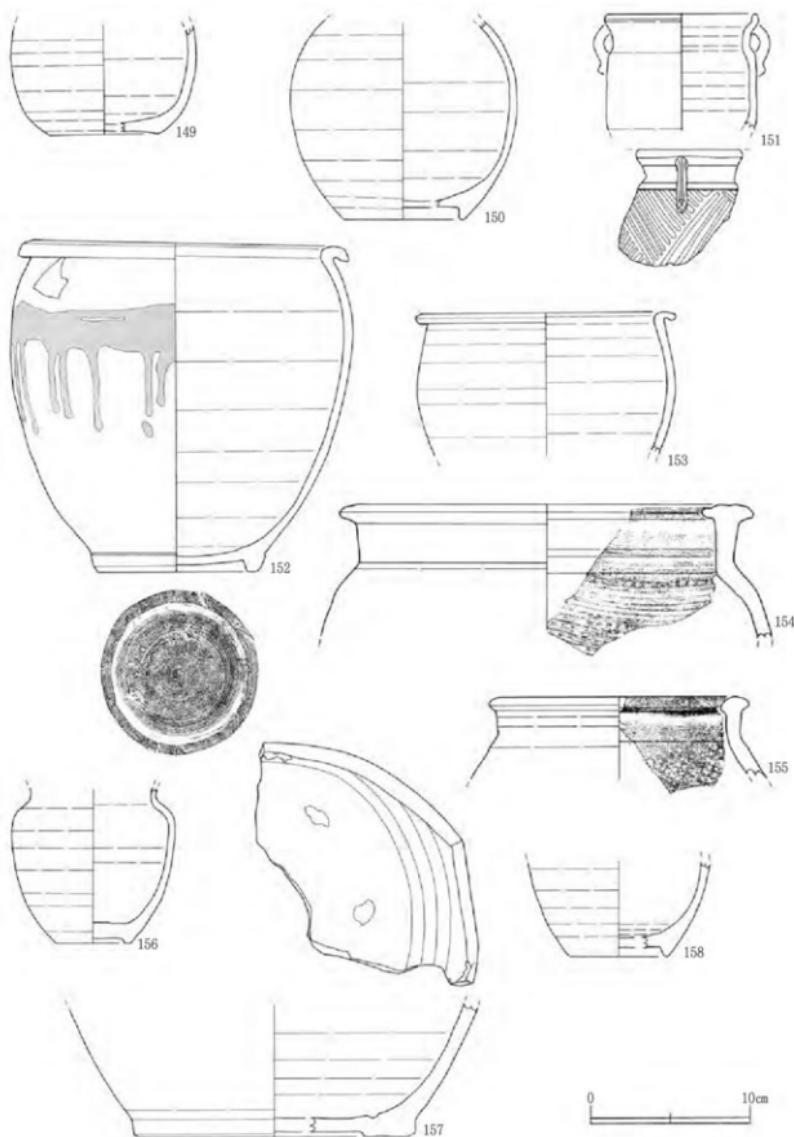
第17図 城跡出土遺物 (11) …陶器②



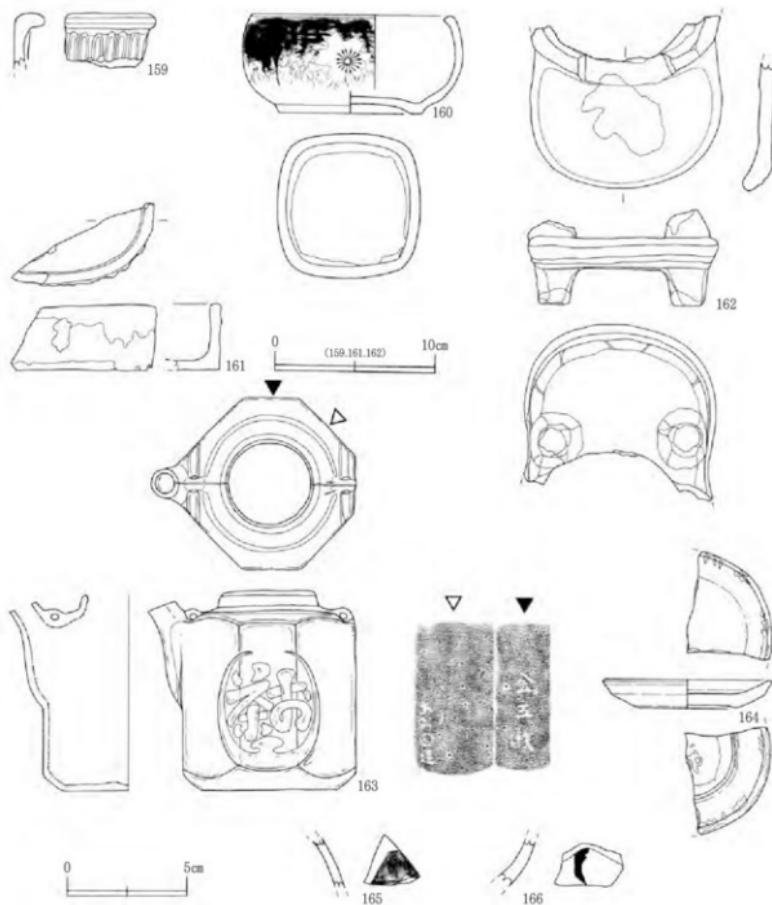
第18図 城跡出土遺物 (12) …陶器 3



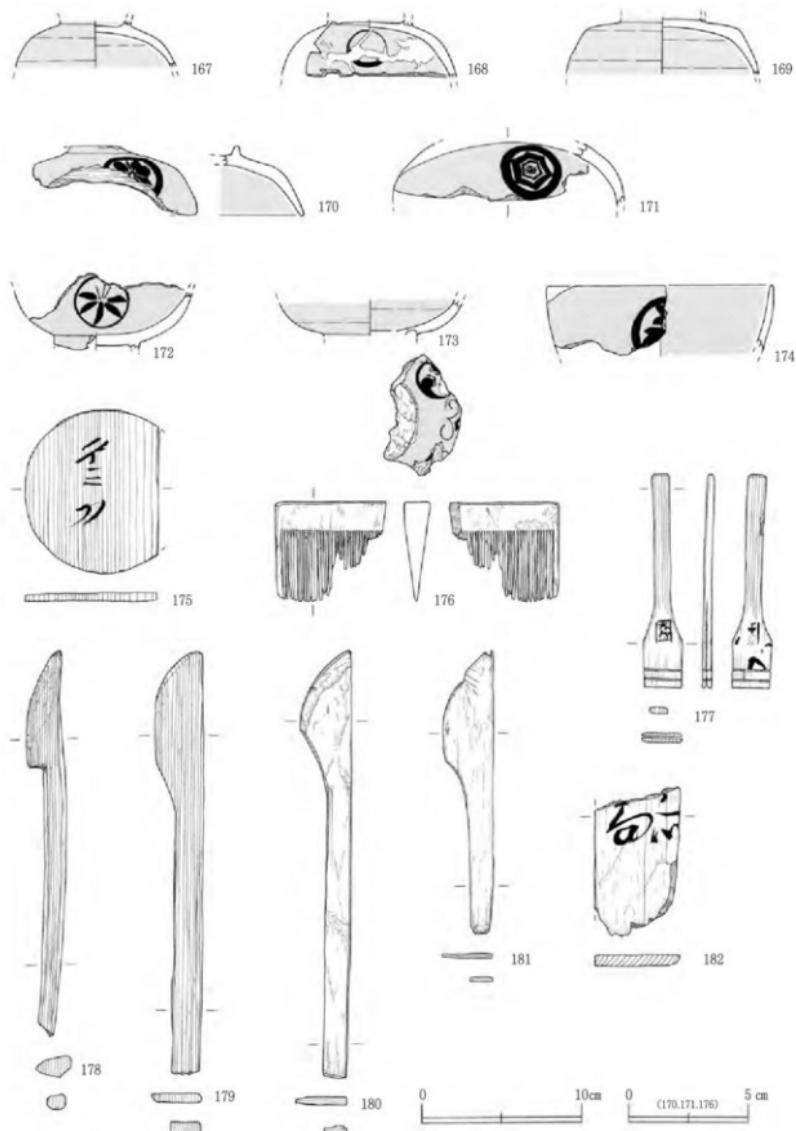
第19図 城跡出土遺物 (13) …陶器④



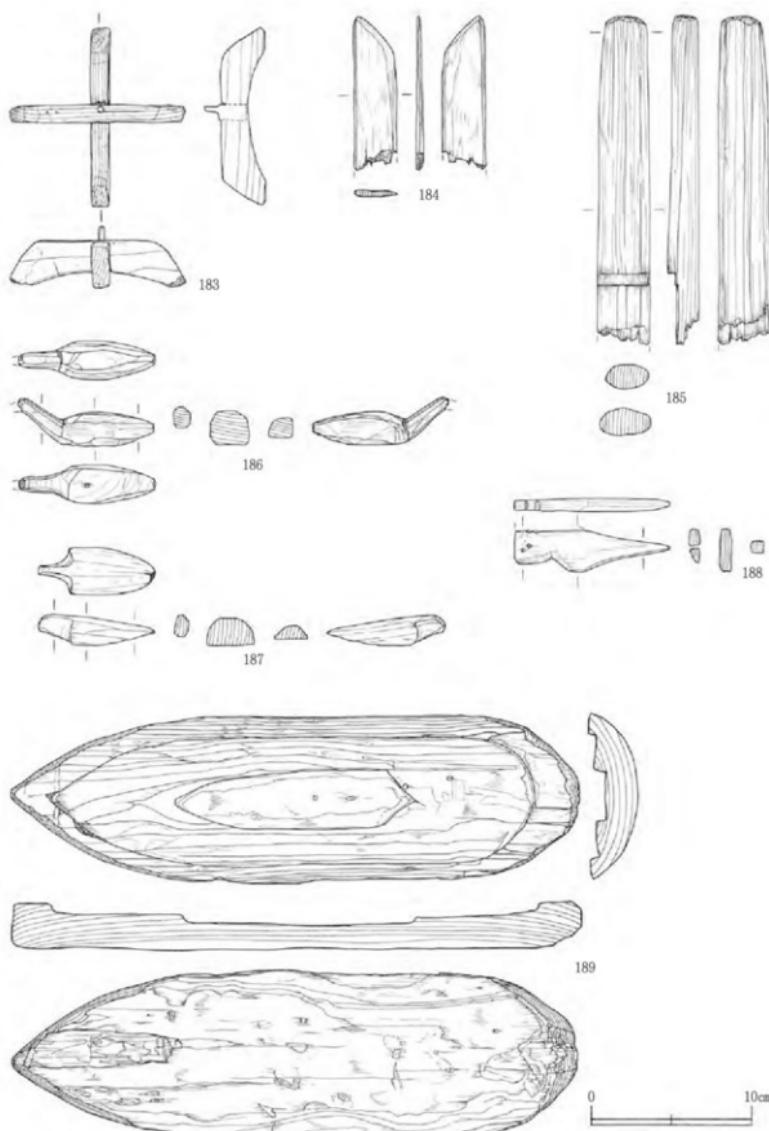
第20図 城跡出土遺物 (14) …陶器 5



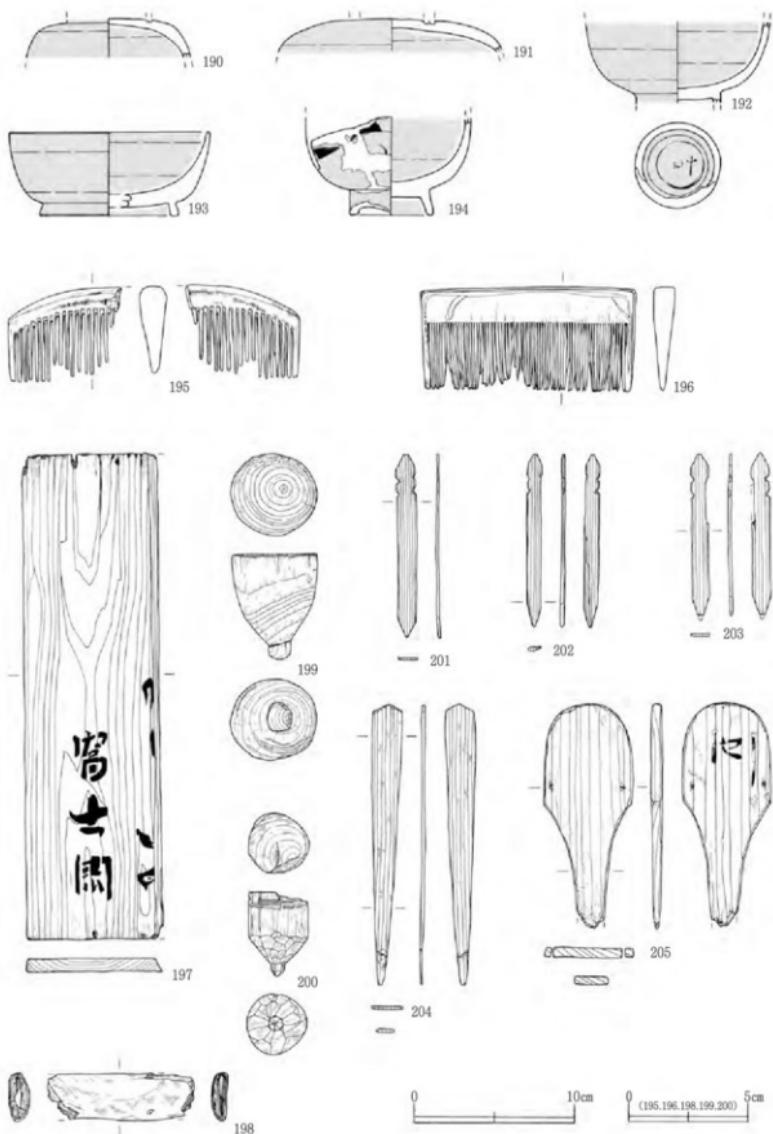
第21図 城跡出土遺物 (15) …陶器⑥



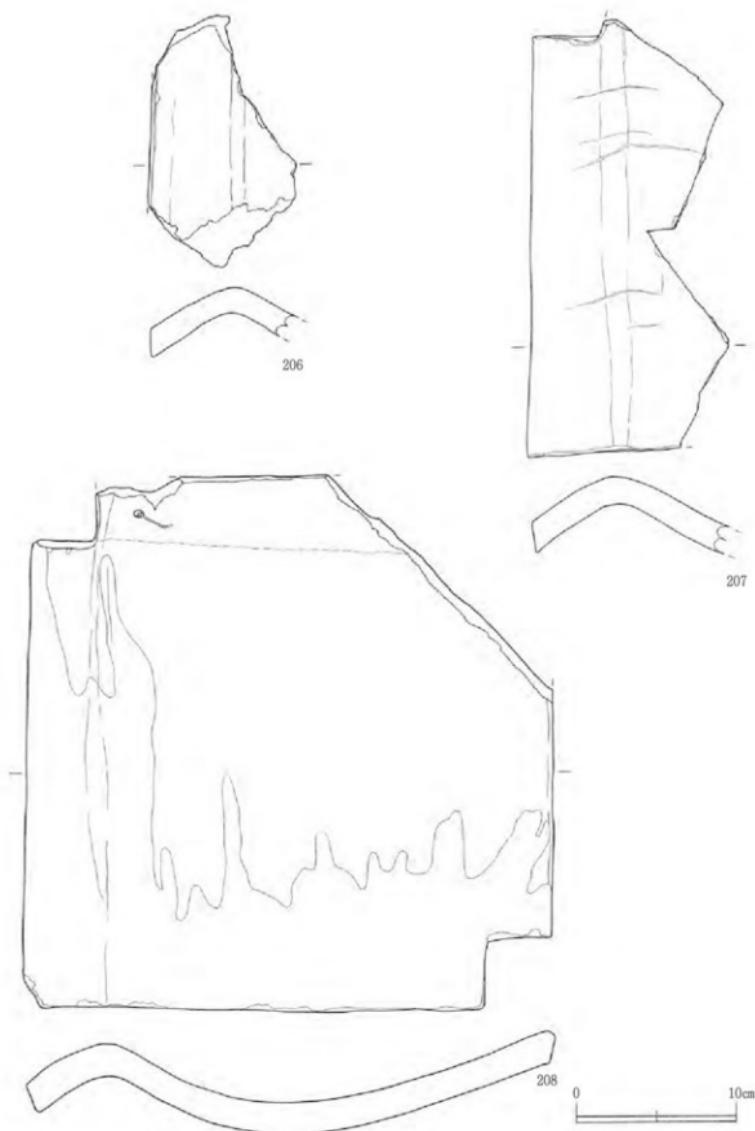
第22図 城跡出土遺物 (16) …木製品①



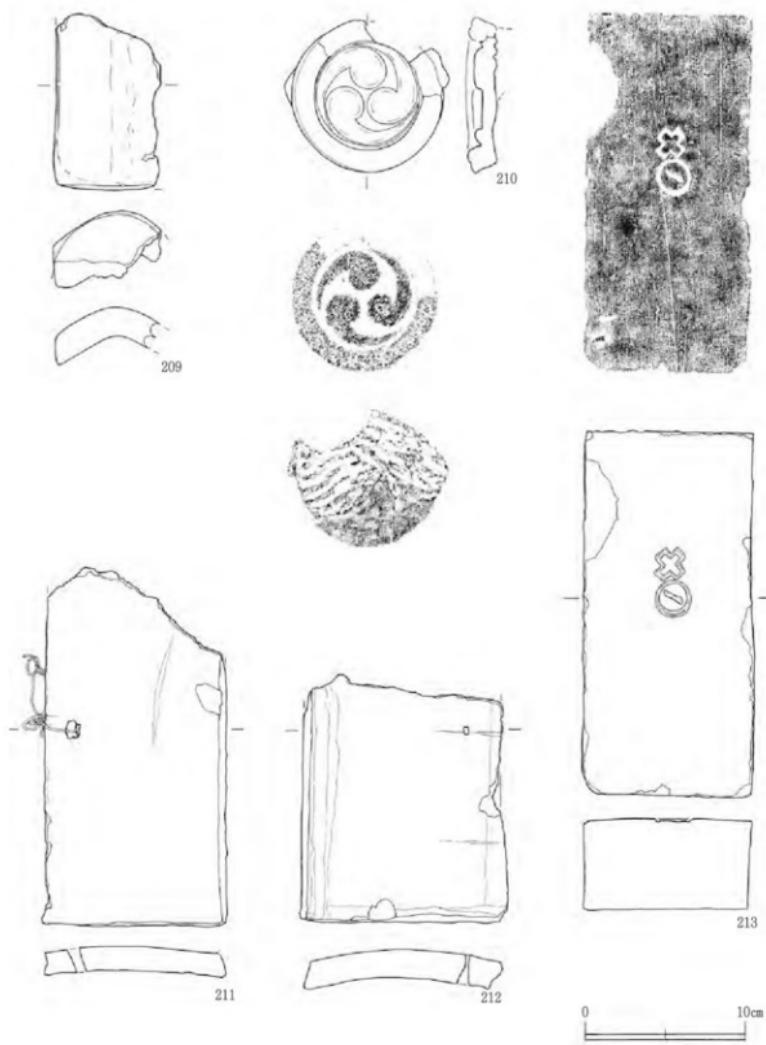
第23図 城跡出土遺物 (17) …木製品②



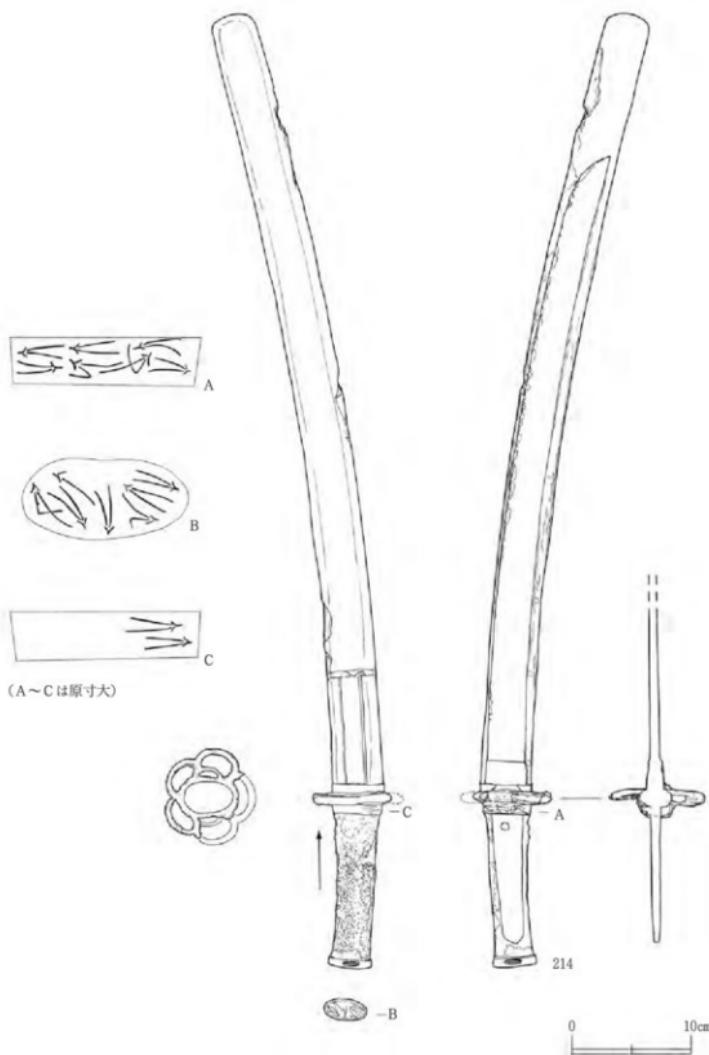
第24図 城跡出土遺物 (18) …木製品③



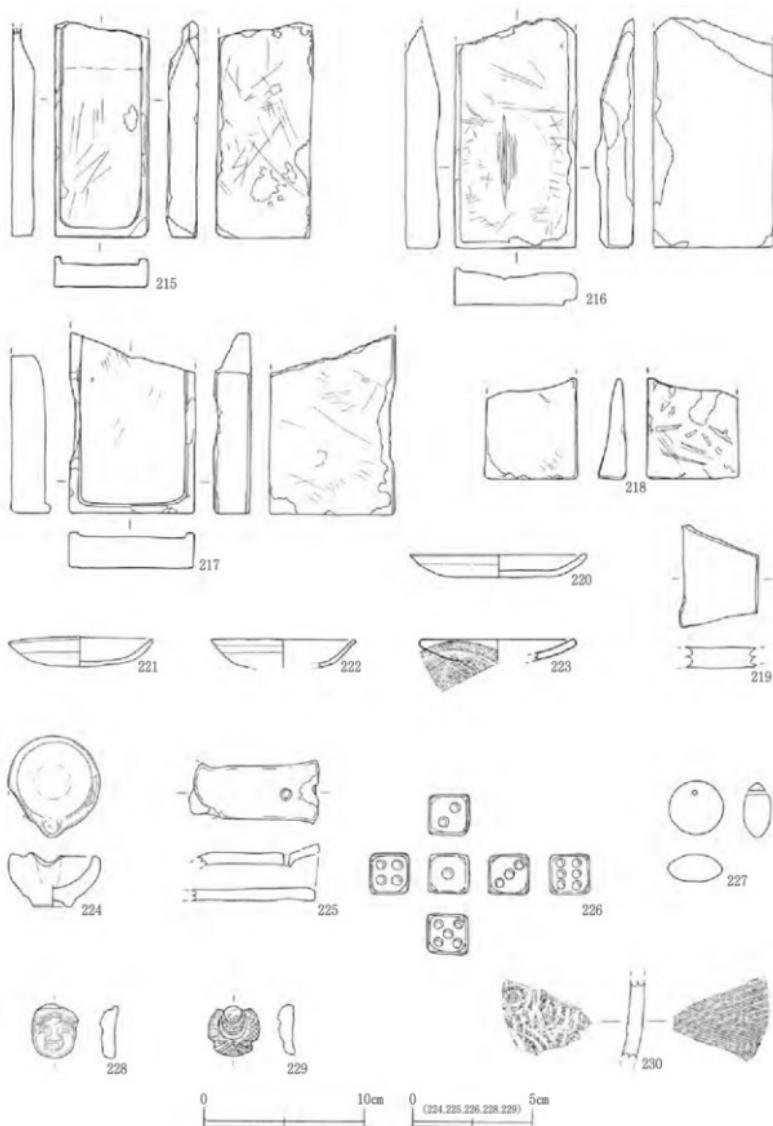
第25図 城跡出土遺物 (19) …瓦①



第26図 城跡出土遺物 (20) …瓦②・煉瓦



第27図 城跡出土遺物 (21) …鉄器



第28図 城跡出土遺物 (22) …その他

第2表 遺物観察一覧(1)

単位(cm)

| 番号 | 種類 | 種類 | 出土地点 | 口径 | 底(高台)径 | 高さ | 年代・時代 | 備考 |
|----|----|----|---------|--------------|--------|-------|--------|----------------------------|
| 1 | 7回 | 織部 | 染付折緑皿 | 大手門・北端・Ⅲ層 | 14.6 | (6.2) | 4.2 | 1610~1630年代 肥前系、2・3回 个体 |
| 2 | 7回 | 織部 | 染付折緑皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | — | (5.8) | (3.4) | 1610~1630年代 肥前系、1・2回 个体 |
| 3 | 7回 | 織部 | 染付折緑皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | — | (5.9) | (1.7) | 1610~1630年代 肥前系、1・2回 个体 |
| 4 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | (14.4) | — | (3.0) | 1610~1630年代 肥前系 |
| 5 | 7回 | 織部 | 染付菊花形皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | (14.8) | (6.4) | (1.8) | 1640~1650 肥前系 |
| 6 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | (10.6) | (5.2) | 2.0 | C18前半 肥前系、薄済ぎ |
| 7 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | 12.6 | 3.9 | 3.7 | C18後半 波佐見系、蛇/目録剥ぎ |
| 8 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | — | — | (3.4) | 1630~1640 肥前系、吹墨 |
| 9 | 7回 | 織部 | 色絵鉢 | 大手門・南端・Ⅲ層 | (17.2) | (8.8) | (6.2) | 1640~1650 肥前系、初期色絵 |
| 10 | 7回 | 織部 | 染付七角皿 | 大手門・北端・Ⅲ層 | — | — | (1.1) | 近世 肥前系、「卯」 |
| 11 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・北端・Ⅲ層 | (10.7) | — | (6.5) | 1610~1630 肥前系 |
| 12 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・北端・Ⅲ層 | 10.1 | 4.6 | 7.1 | 1650~1660 肥前系 |
| 13 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・中央・Ⅲ層 | 9.8 | 3.6 | 5.2 | C17後半 肥前系 |
| 14 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・東側・Ⅰ層 | — | 4.3 | (3.6) | C18後半 波佐見系 |
| 15 | 7回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | 10.4 | 4.4 | 5.1 | 1620~1660 肥前系、「成化年製」落 |
| 16 | 8回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・東側・Ⅰ層 | 5.1 | 3.2 | 6.1 | 萬葉明治鉢 「篠川園」落 |
| 17 | 8回 | 織部 | 染付猪口 | 大手門・北端・Ⅲ層 | (9.1) | — | (3.8) | C18前~中 肥前系 |
| 18 | 8回 | 織部 | 染付丸皿 | 大手門・南端・Ⅲ層 | (15.4) | — | (3.1) | C19前 肥前系 |
| 19 | 8回 | 織部 | 染付油滴 | 大手門・南端・Ⅲ層 | 2.2 | — | (2.5) | C18前~中 肥前系 |
| 20 | 8回 | 織部 | 染付瓶 | 大手門・東側・Ⅰ層 | — | (8.2) | (16.0) | 近代以降 |
| 21 | 8回 | 織部 | 染付角鉢 | 大手門・北端・Ⅲ層 | — | — | (6.5) | C17末~18初 肥前系 |
| 22 | 8回 | 織部 | 白磁戸車 | 大手門・北端・Ⅲ層 | 3.3 | 3.3 | 0.7 | 萬葉~明治鉢 |
| 23 | 8回 | 織部 | 真仙製品 | 大手門・北端・Ⅰ~Ⅱ層 | (5.7) | (3.7) | 1.9 | 製造以降 |
| 24 | 8回 | 織部 | 染付瓶 | 穴門・枝根・Ⅱc層 | — | 6.8 | (7.8) | C17後半 肥前系 |
| 25 | 8回 | 織部 | 色絵丸皿 | 穴門・枝根・Ⅰ層 | — | (3.7) | (2.2) | 1640~1650 吉九谷手 |
| 26 | 8回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・外広・Ⅱ層 | — | (2.2) | (2.5) | C17後半 肥前系 |
| 27 | 8回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・楕圓・埋土 | — | (1.5) | (1.2) | C17後半 美作手 |
| 28 | 8回 | 織部 | 染付折緑輪花皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | — | — | (2.2) | C17後半 肥前系、輪出用 |
| 29 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | 13.4 | 6.2 | 2.7 | 1630~1640 |
| 30 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | 12.9 | 5.3 | 3.1 | 1630~1640 |
| 31 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | 13.3 | 4.2 | 3.6 | 1630~1640 |
| 32 | 9回 | 織部 | 染付輪花皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | (8.2) | 2.4 | 2.5 | 1630~1640 肥前系、手塙、墨書き |
| 33 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅰ層 | — | 1.6 | (2.6) | 1630~1640 肥前系 |
| 34 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅰ層 | (9.5) | (1.1) | 2.1 | 1630~1640 肥前系、手塙皿 |
| 35 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | — | (3.0) | (1.6) | 1630~1640 肥前系、手塙皿 |
| 36 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱd層 | (12.9) | — | (2.8) | 1630~1640 肥前系 |
| 37 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・外広・Ⅱd層 | (13.6) | 7.6 | 2.9 | C17後半 肥前系 |
| 38 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅱb層 | (11.2) | (7.0) | 2.6 | C17末~18初 肥前系 |
| 39 | 9回 | 織部 | 染付丸皿 | 穴門・枝根・Ⅰ層 | — | (7.2) | (1.5) | C17末~18初 肥前系、「口口年製」 |

第3表 遺物観察一覧(2)

単位(cm)

| 番号 | 種類 | 種類 | 器種など | 山土地点 | 口径 | 底(高さ)径 | 器高 | 年代・時代 | 備考 |
|----|-----|----|-------|-----------|--------|---------------|-------|------------|-------------|
| 40 | 碗 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | — | 4.5 | (2.5) | C17後半 | 波佐見系、紀/月鉢斜面 |
| 41 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | — | 4.3 | (2.5) | C18 | 波佐見系、紀/日輪斜面 |
| 42 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | 12.8 | 4.6 | 3.7 | C18後半 | 波佐見系、紀/月鉢斜面 |
| 43 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外底・Ⅱ層 | 6.7 | (6.0) | 1.9 | 1780~1820 | 肥前系 |
| 44 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅰ層 | — | 6.1 | (1.6) | C18末~19初 | 肥前系 |
| 45 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横壁・Ⅰ層 | — | (5.0) | (1.7) | C18末~19初 | 肥前系 |
| 46 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・東端・堆土 | — | (7.0) | (1.8) | — | — |
| 47 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横壁・Ⅰ層 | — | (7.8) | (1.7) | C18後半 | 肥前系、紀/日高台 |
| 48 | 16回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅰ層 | — | (9.5) | (1.5) | C18末~19初 | 肥前系 |
| 49 | 16回 | 磁器 | 染付輪花皿 | 穴門・外込・Ⅱ層 | 14.6 | 8.4 | 4.3 | 寛永~明治 | 紀/日高、口等較稍 |
| 50 | 16回 | 磁器 | 染付輪花皿 | 穴門・後壁・Ⅱa層 | 9.2 | 4.6 | 2.3 | 近代以降 | 湘戸美濃系 |
| 51 | 16回 | 磁器 | 染付輪花皿 | 穴門・外込・Ⅱ層 | 8.8 | 4.4 | 2.2 | 近代以降 | 湘戸美濃系 |
| 52 | 16回 | 磁器 | 染付輪花皿 | 穴門・東端・堆土 | 9.1 | (4.9) | 2.4 | 近代以降 | 湘戸美濃系 |
| 53 | 11回 | 磁器 | 白磁丸皿 | 穴門・外込・Ⅱ層 | 10.0 | 4.7 | 2.0 | — | 湘戸美濃系、陰刻 |
| 54 | 11回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外底・Ⅱ層 | 9.9 | 4.8 | 2.3 | — | 湘戸美濃系、陰刻 |
| 55 | 11回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外込・Ⅱ層 | 7.8 | 3.6 | 2.2 | 近代以降 | 湘戸美濃系 |
| 56 | 11回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | (7.8) | 3.6 | 2.2 | 近代以降 | — |
| 57 | 11回 | 磁器 | 青磁丸鉢 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | — | (7.6) | (6.8) | 1630~1660 | — |
| 58 | 11回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外中・Ⅰ層下 | — | (7.8) | (2.6) | C18後半 | — |
| 59 | 11回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅱd層 | — | 5.8 | 2.4 | C19初~幕末 | — |
| 60 | 11回 | 磁器 | 青磁輪花鉢 | 穴門・横中・Ⅱd層 | — | — | (6.2) | C17中~末 | 波佐見系 |
| 61 | 11回 | 磁器 | 青磁丸鉢 | 大手門・東側・埋上 | — | — | (5.0) | C17中~末 | — |
| 62 | 11回 | 磁器 | 染付益 | 穴門・外底・Ⅱ層 | 10.1 | “つまみ棒” 1.1 | 2.4 | 寛永~明治頃 | “升?宋呂式造製” |
| 63 | 11回 | 磁器 | 染付蓋 | 穴門・後壁・Ⅱ層 | 9.4 | 3.8 | 3.0 | 幕末 | “大口□□”口、鉢 |
| 64 | 11回 | 磁器 | 色絵益 | 穴門・横中・Ⅱd層 | (5.6) | — | (1.6) | C17後半~18前半 | — |
| 65 | 11回 | 磁器 | 耀窯釉丸碗 | 穴門・後壁・Ⅱa層 | — | — | (1.9) | 1610~1630 | 肥前系 |
| 66 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横中・Ⅱd層 | (10.6) | — | (4.9) | 1630~1640 | 肥前系 |
| 67 | 12回 | 磁器 | 碗 | 穴門・外底・Ⅱ層 | — | (4.7) | (2.0) | 1630~1640 | 肥前系 |
| 68 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横中・Ⅱd層 | (9.5) | — | (5.0) | 1680~C18前半 | 肥前系 |
| 69 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外底・Ⅱd層 | 8.2 | 3.5 | 4.1 | C18後半 | 肥前系 |
| 70 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅰ層 | — | 3.6 | (2.4) | C18前半 | 肥前系、「口」鉢 |
| 71 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外底・Ⅱd層 | — | 3.8 | (3.1) | C18中~末 | 肥前系 |
| 72 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅰ層 | — | (4.8) | (3.3) | C18第2・3四半期 | 肥前系 |
| 73 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・後壁・Ⅰ層 | — | 3.9 | (2.1) | 1770~1810 | 肥前系 |
| 74 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横中・Ⅰ層 | (7.3) | — | (5.3) | 1780~1810 | 肥前系 |
| 75 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外中・Ⅰ層下 | (9.6) | (3.4) | 5.9 | 1770~1810 | 肥前系 |
| 76 | 12回 | 磁器 | 色絵丸鉢 | 穴門・外込・Ⅱ層 | 7.8 | 2.7 | 3.9 | C18後半~19初 | — |
| 77 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・外底・Ⅰ層 | (8.8) | (4.0) | 4.3 | 1820~1860 | — |
| 78 | 12回 | 磁器 | 染付丸皿 | 穴門・横中・Ⅰ層 | (10.0) | (3.8) | 5.9 | 1820~1860 | 肥前系 |

第4表 遺物観察一覧(3)

単位(cm)

| 番号 | 蔵目 | 種類 | 變種など | 出土地点 | 口径 | 底(高台)積 | 高さ | 年代・時代 | 備考 |
|----|-----|----|-------|------------|-------------|------------|------------|--------------|--------------------|
| 29 | 12回 | 竈器 | 染付丸鍋 | 六門・後庭・I層 | 9.0 | 3.8 | 4.3 | 幕末～明治初 | 鶴戸窯産、口縁「ルロ」 |
| 30 | 12回 | 竈器 | 染付丸鍋 | 六門・後庭・I層 | (8.0) | 3.4 | 4.1 | 幕末～明治初 | 鶴戸窯産 |
| 31 | 13回 | 竈器 | 染付丸鍋 | 六門・後庭・I層 | 8.3 | 3.4 | 4.8 | — | 「金輪口縁」「入明底唇口縁」 |
| 32 | 13回 | 竈器 | 灰釉丸鍋 | 六門・後庭・I層 | (1.0) | 3.0 | 4.6 | 近代以降 | 相模窯、「和田窯」 |
| 33 | 13回 | 竈器 | 染付茶碗 | 六門・後庭・II層 | 6.9 | 2.4 | 2.7 | 近代以降 | |
| 34 | 13回 | 竈器 | 染付茶碗 | 六門・外庭・II層 | 6.8 | 2.4 | 2.6 | 近代以降 | 阿波 |
| 35 | 13回 | 竈器 | 染付猪口 | 六門・後庭・IIc層 | 6.0 | 4.5 | 5.3 | C18後半 | 肥前系、深堀型 |
| 36 | 13回 | 竈器 | 染付猪口 | 六門・後庭・IIc層 | — | 4.0 | (3.0) | C18前半 | 肥前系 |
| 37 | 13回 | 竈器 | 染付猪口 | 六門・後庭・IId層 | — | (5.8) | (5.0) | C18後半 | 肥前系、蛇口貝形 |
| 38 | 13回 | 竈器 | 色絵猪口 | 六門・外庭・II層 | — | (5.0) | (3.2) | C18後半 | 肥前系、蛇口貝形 |
| 39 | 13回 | 竈器 | 色絵猪口 | 六門・外庭・II層 | 6.2 | 2.6 | 4.6 | — | 「日日」 |
| 40 | 13回 | 竈器 | 猪口 | 六門・後庭・I層 | (6.8) | — | (5.0) | 近代以降 | 「雄太窯」 |
| 41 | 13回 | 竈器 | 染付伝瓶 | 六門・後庭・II層 | — | 3.1 | (4.6) | C18 | 肥前系 |
| 42 | 13回 | 竈器 | 染付瓶 | 六門・後庭・III層 | — | 3.8 | (5.0) | C18末～幕末 | 土瓶「リナ」 |
| 43 | 14回 | 竈器 | 黄油瓶 | 六門・後庭・IIb層 | 2.6 | 10.2 | 26.3 | 幕末以降 | 鳥取「太賀油」田中屋、喜木入～ |
| 44 | 14回 | 竈器 | 醬油瓶 | 六門・後庭・IIa層 | 2.8 | 11.4 | 35.5 | 幕末以降 | 勝浦「太賀油」田中屋口秀 |
| 45 | 15回 | 竈器 | 染付瓶 | 六門・後庭・IIc層 | 6.2 | — | (4.0) | C17後半 | 肥前系 |
| 46 | 15回 | 竈器 | 色絵油瓶 | 六門・外庭・IId層 | 2.9 | — | (4.0) | C17後半 | |
| 47 | 15回 | 竈器 | 瓶 | 六門・後庭・IIc層 | — | — | (6.9) | C18後半～19前半 | 肥前系 |
| 48 | 15回 | 竈器 | 染付瓶 | 六門・後庭・IIc層 | — | 4.6 | (4.1) | C17末～18前半 | |
| 49 | 15回 | 竈器 | 染付瓶 | 六門・外側区 | 1.6 | — | (5.0) | C18第4四半期～19 | 肥前系 |
| 50 | 15回 | 竈器 | 染付瓶 | 六門・外庭・II層 | — | — | (5.0) | C18第4四半期～19 | 肥前系 |
| 51 | 15回 | 竈器 | 油壺 | 六門・外庭・II層 | — | 4.6 | (4.3) | C18 | |
| 52 | 15回 | 竈器 | 染付香炉 | 六門・外庭・I層 | (13.2) | — | (4.2) | 1870～1900 | |
| 53 | 15回 | 竈器 | 白絵繪畫 | 六門・外庭・IIc層 | — | — | (1.2) | C17末～18初 | |
| 54 | 15回 | 竈器 | 白絵戸車 | 六門・後庭・II層 | 4.9 | 4.9 | 1.0 | 幕末明治頃 | |
| 55 | 16回 | 陶器 | 灰釉大鉢 | 大手門・北庭・皿店 | — | (4.4) | (2.1) | C17前半 | 近藤作舟 |
| 56 | 16回 | 陶器 | 鉢 | 大手門・北庭・皿店 | — | 6.7 | (3.0) | — | 高台にスリット、蓋付に名切款 |
| 57 | 16回 | 陶器 | 刷毛目文鉢 | 大手門・南庭・皿店 | 29.5 | 9.8 | 8.8 | C17第4四半期～18初 | 唐津系 |
| 58 | 16回 | 陶器 | 鉢 | 大手門・北庭・皿店 | — | (3.6) | (7.6) | 近代以降 | |
| 59 | 16回 | 陶器 | な虹種鉢 | 大手門・中央・I層 | (15.8) | — | (5.0) | 幕末以降 | 白岩焼 |
| 60 | 16回 | 陶器 | 長石釉鉢 | 大手門・北庭・皿店 | — | (10.4) | (6.0) | C17前半 | 駿土目 |
| 61 | 16回 | 陶器 | 赤焼受付皿 | 大手門・南庭・皿店 | 7.2 12.2 | 4.8 3.3 | 4.4 3.3 | C17後半～18前半 | 灯火皿 |
| 62 | 16回 | 陶器 | 長石釉丸鍋 | 大手門・中央・皿店 | — | 4.4 | (2.4) | — | 砂貝殻、削出高台 |
| 63 | 16回 | 陶器 | 丸鍋 | 大手門・北庭・皿店 | — | 4.8 | (3.5) | — | 天日茶碗、削出高台 |
| 64 | 16回 | 陶器 | 淡釉丸鍋 | 大手門・南庭・皿店 | 7.0 | 3.7 | 5.8 | 近代以降 | 「月瀬所物」「石島口安町・石川商店」 |
| 65 | 17回 | 陶器 | 長石釉壺 | 大手門・東面・I層 | (14.8) | — | (3.3) | — | |
| 66 | 17回 | 陶器 | 淡釉壺 | 大手門・中央・I層 | — | (15.4) | (9.6) | — | |
| 67 | 17回 | 陶器 | 灰釉丸壺 | 六門・後庭・III層 | (33.0) | — | (5.0) | — | |

第5表 遺物観察一覧(4)

単位(cm)

| 番号 | 種類 | 地層 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(高台)径 | 深さ | 年代・時代 | 備考 |
|-----|-----|----|----------|---------------|--------|--------|--------|---------------|--------------|
| 118 | 17回 | 陶器 | 網紋丸皿 | 穴門・棧場・I層 | — | 6.5 | 62.6 | 近世 | 蛇口粘土 |
| 119 | 17回 | 陶器 | 刷毛目文大皿 | 穴門・窓場・I層 | — | 6.0 | 63.2 | 近世 | 窓口スリット |
| 120 | 17回 | 陶器 | 長石練丸皿 | 穴門・外店・II層 | — | 1.85 | 1.99 | 近世 | 窓口高台 |
| 121 | 17回 | 陶器 | 長石練丸皿 | 穴門・棧場・IIc層 | (13.6) | 4.3 | 4.1 | 近世 | 崎先 |
| 122 | 17回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 穴門・棧場・IId層 | (12.7) | 4.1 | 2.85 | C17後半 | 新日 |
| 123 | 17回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 穴門・窓場・埋土 | — | 4.9 | 62.0 | C17後半～18前半 | 筋目 |
| 124 | 18回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 穴門・棧場・IId層 | (9.6) | 6.8 | 3.2 | C17後半 | 窓口・右側面、削出高台 |
| 125 | 18回 | 陶器 | 素燒丸皿 | 穴門・棧場・IIa層 | 11.0 | 4.6 | 2.9 | 近世 | 糸切目、灯刷目 |
| 126 | 18回 | 陶器 | 素燒丸皿 | 穴門・窓場・IIb層 | 11.6 | 5.1 | 2.3 | 近世 | 糸切目～前引、灯刷目 |
| 127 | 18回 | 陶器 | 鉢輪丸皿 | 穴門・棧場・IId層 | — | 6.2 | 1.7 | 近世 | 粘土斜 |
| 128 | 18回 | 陶器 | 長石練丸皿 | 穴門・窓場・IIe層 | — | 6.6 | 1.7 | 近世 | 糸切目、火透目 |
| 129 | 18回 | 陶器 | 鉢輪丸皿 | 穴門・窓場・IIf層 | — | 6.0 | 2.1 | 近世 | 粘土粒 |
| 130 | 18回 | 陶器 | 長石練青磁盤 | 穴門・棧場・IIg層 | (11.6) | — | 0.8 | 近世 | 見込み跡に沈没 |
| 131 | 18回 | 陶器 | 灰釉陶器 | 穴門・窓場・III・IV層 | — | — | (0.6) | — | 縦部模 |
| 132 | 18回 | 陶器 | 刷毛目文備様鉢 | 穴門・窓場・埋土 | 24.2 | 9.7 | 7.6 | G11第4段半期～18前半 | 肥前系、砂目 |
| 133 | 18回 | 陶器 | 鉢輪丸皿 | 穴門・棧場・IIh層 | — | (11.2) | 6.6 | C17 | 近前系、砂目 |
| 134 | 18回 | 陶器 | 刷毛目文備様丸皿 | 穴門・棧場・IIi層 | — | — | (4.9) | 近世 | 近前系 |
| 135 | 18回 | 陶器 | 素燒丸皿 | 穴門・窓場・IIj層 | (17.8) | — | (4.8) | 近世 | |
| 136 | 19回 | 陶器 | 長石練丸皿 | 穴門・棧場・IIk層 | 11.0 | — | 1.8 | — | 新 |
| 137 | 19回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 穴門・棧場・IIl層 | 10.8 | — | 1.7 | — | 新 |
| 138 | 19回 | 陶器 | 長石練丸皿 | 穴門・窓場・埋土 | (6.0) | (6.6) | 2.1 | — | |
| 139 | 19回 | 陶器 | 丸瓶 | 穴門・棧場・IIm層 | — | — | (3.4) | 近世 | 天目茶碗 |
| 140 | 19回 | 陶器 | 京焼風丸瓶 | 穴門・棧場・IIo層 | 11.5 | 5.6 | 6.8 | C17後半 | |
| 141 | 19回 | 陶器 | 丸瓶 | 穴門・窓場・排土 | (6.8) | (6.2) | 5.1 | — | |
| 142 | 19回 | 陶器 | 丸瓶 | 穴門・窓場・IIp層 | (11.2) | 3.5 | 5.0 | — | |
| 143 | 19回 | 陶器 | 丸瓶 | 穴門・棧場・IIq層 | — | 5.2 | (2.8) | — | |
| 144 | 19回 | 陶器 | 長石練丸瓶 | 穴門・窓場・IIr層 | — | (3.8) | (3.8) | — | |
| 145 | 19回 | 陶器 | 丸瓶 | 穴門・棧場・I層 | (11.1) | 4.2 | 6.0 | 現代 | 昭和10J、戰時中統制品 |
| 146 | 19回 | 陶器 | 壺 | 穴門・棧場・IIs層 | — | — | (3.5) | — | |
| 147 | 19回 | 陶器 | 灰釉壺 | 穴門・窓場・IIt層 | — | 12.8 | (31.0) | — | 革壺 |
| 148 | 19回 | 陶器 | 灰釉壺 | 穴門・窓場・排土 | — | (9.8) | (6.2) | — | |
| 149 | 20回 | 陶器 | 壺 | 穴門・棧場・IIu層 | — | (6.8) | (6.8) | — | |
| 150 | 20回 | 陶器 | 長石練壺 | 穴門・窓場・IIv層 | — | (7.6) | 12.5 | — | |
| 151 | 20回 | 陶器 | 把手付壺 | 穴門・棧場・IIw層 | (9.2) | — | 7.50 | 近代以降 | |
| 152 | 20回 | 陶器 | 鉢輪壺 | 穴門・窓場・IIx層 | 18.7 | 10.0 | 20.7 | | |
| 153 | 20回 | 陶器 | 鉢輪壺 | 穴門・窓場・IIy層 | (16.3) | — | 6.90 | — | |
| 154 | 20回 | 陶器 | 鉢輪壺 | 穴門・窓場・IIz層 | (23.8) | — | 6.2 | C17後半 | 肥前系 |
| 155 | 20回 | 陶器 | 鉢輪壺 | 穴門・棧場・IIa層 | (34.8) | — | (5.1) | C18～19 | 肥前系 |
| 156 | 20回 | 陶器 | 弱壁壺 | 穴門・棧場・IIb層 | — | (4.7) | (9.7) | 近世 | |

第6表 遺物観察一覧(5)

単位(cm)

| 番号 | 掉回 | 種類 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(高台)径 | 高さ | 年代・時代 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|----------------|---------------|---------------|------------|-------|------------------------|
| 157 | 20回 | 陶器 | 鉢軸窓 | 穴門・東端・埋上 | — | (6.6) | (8.3) | — | 砂土目、蛇口直窓 |
| 158 | 20回 | 陶器 | 甕 | 穴門・後中・II層 | — | (6.2) | (6.0) | 近世 | |
| 159 | 21回 | 陶器 | 鍋跡袖火入 | 穴門・東端・埋土 | — | — | (3.5) | — | |
| 160 | 21回 | 陶器 | 角鉢 | 穴門・横中・I層 | 8.4 | 5.9 | 4.1 | 近代以降 | |
| 161 | 21回 | 陶器 | 長石袖角鉢 | 穴門・東端・埋土 | (9.9) | (5.1) | 4.1 | | |
| 162 | 21回 | 陶器 | 素焼き日風瓦 | 穴門・横中・IId層 | 長 (10.9) | 幅 (11.9) | 厚 (6.0) | — | |
| 163 | 21回 | 陶器 | 土瓶 | 穴門・外広・II層 | 3.6 | 3.7 | 8.3 | 近代以降 | 結合: 21系「金五段」(21C口) |
| 164 | 21回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 中土焼・中央・III~IV層 | (7.1) | (4.1) | 1.2 | | 瀬戸米濃系、黄錆戸 |
| 165 | 21回 | 陶器 | — | 中土焼・東端・埋上 | — | — | (2.0) | — | 肥前系、燒唐津 |
| 166 | 21回 | 陶器 | — | 中土焼・東端・埋上 | — | — | (1.8) | — | 肥前系、燒唐津 |
| 167 | 22回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 大手門・南端・III層 | つまみ縁 (1.1) | — | (2.9) | — | 内外面墨跡 |
| 168 | 22回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 大手門・南端・III層 | — | つまみ縁 (1.1) | (3.5) | — | 内面赤・外面墨跡、文様(不明) |
| 169 | 22回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 大手門・北端・III層 | — | つまみ縁 (1.1) | (3.5) | — | 内外面赤(増粘器)漆 |
| 170 | 22回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 大手門・北端・III層 | — | — | (2.9) | — | 内面赤・外面墨跡、家紋 (オリーブ型) |
| 171 | 22回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 大手門・中央・III層 | — | — | (2.4) | — | 内面赤・外面墨跡、家紋(赤) |
| 172 | 22回 | 木製品 | 漆椀 | 大手門・北端・III層 | — | (5.3) | (4.7) | — | 内面赤・外面墨跡、家紋 (オリーブ型) |
| 173 | 22回 | 木製品 | 漆椀 | 大手門・表採 | — | (5.8) | (2.3) | — | 内外面墨跡、家紋(赤) |
| 174 | 22回 | 木製品 | 漆椀 | 大手門・北端・III層 | (14.2) | — | (4.2) | — | 内面赤・外面墨跡、家紋(赤) |
| 175 | 22回 | 木製品 | 漆器 | 大手門・底板 | 長 (9.7) | 幅 (8.4) | 厚 (0.5) | — | 墨跡 |
| 176 | 22回 | 木製品 | 桶 | 大手門・北端・III層 | 長 (4.1) | 幅 (4.7) | 厚 (1.1) | — | 細磨 |
| 177 | 22回 | 木製品 | 刷毛 | 大手門・南端・III層 | 長 (13.3) | 幅 (2.5) | 厚 (0.6) | — | 墨跡 |
| 178 | 22回 | 木製品 | 杓子 | 大手門・南端・III層 | 長 (24.1) | 幅 (2.5) | 厚 (1.3) | — | |
| 179 | 22回 | 木製品 | 板杓子 | 大手門・—・III層 | 長 (26.3) | 幅 (3.1) | 厚 (0.9) | — | |
| 180 | 22回 | 木製品 | 板杓子 | 大手門・南端・III層 | 長 (26.6) | 幅 (3.2) | 厚 (0.7) | — | |
| 181 | 22回 | 木製品 | 板杓子 | 大手門・中央・III層 | 長 (17.6) | 幅 (3.2) | 厚 (0.3) | — | |
| 182 | 22回 | 木製品 | 部材 | 大手門・北端・III層 | 長 (9.5) | 幅 (4.4) | 厚 (0.7) | — | 墨跡 |
| 183 | 23回 | 木製品 | 有邊合 | 大手門・南端・III層 | 長 (11.2) | 幅 (11.0) | 厚 (3.8) | — | |
| 184 | 23回 | 木製品 | 刀形 | 大手門・中央・III層 | 長 (9.6) | 幅 (2.7) | 厚 (0.4) | — | |
| 185 | 23回 | 木製品 | 刀形 | 大手門・中央・III層 | 長 (20.4) | 幅 (3.3) | 厚 (1.9) | — | |
| 186 | 23回 | 木製品 | 鳥形 | 大手門・南端・III層 | 長 (6.5) | 幅 (2.4) | 厚 (0.9) | — | |
| 187 | 23回 | 木製品 | 鳥形 | 大手門・北端・III層 | 長 (7.3) | 幅 (3.0) | 厚 (1.9) | — | |
| 188 | 23回 | 木製品 | 鳥形 | 大手門・南端 | 長 (9.7) | 幅 (2.6) | 厚 (0.8) | — | |
| 189 | 23回 | 木製品 | 鳥形 | 大手門・中央・IV層 | 長 (35.4) | 幅 (19.5) | 厚 (2.9) | — | |
| 190 | 24回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 穴門・後中・II層 | つまみ縁 (5.2) | — | (2.4) | — | 内外面墨跡 |
| 191 | 24回 | 木製品 | 漆椀蓋 | 穴門・後中・II層 | つまみ縁 (5.1) | — | (2.4) | — | 内外面墨跡 |
| 192 | 24回 | 木製品 | 漆椀 | 穴門・後中・II層 | — | 5.3 | (5.0) | — | 内面赤・外面墨跡、文様(赤) |
| 193 | 24回 | 木製品 | 漆椀 | 穴門・後中・II層 | (12.4) | (8.6) | 5.2 | — | 内外面墨跡 |
| 194 | 24回 | 木製品 | 漆椀 | 穴門・後中・II層 | — | (5.2) | (5.1) | — | 内面赤・外面墨跡、文様(赤) |
| 195 | 24回 | 木製品 | 桶 | 穴門・後中・II層 | 長 (4.8) | 幅 (3.9) | 厚 (1.1) | — | 細磨 |

表7表 遺物観察一覧(6)

単位(cm)

| 番号 | 種類 | 種類 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(高台)径 | 壁高 | 年代・時代 | 備考 |
|-----|-----|-----|------|-------------|-------------|------------|------------|-------|--------|
| 196 | 24回 | 木製品 | 櫛 | 穴門・棟端・II層 | 長 9.0 | 幅 4.1 | 厚 0.9 | — | 研磨 |
| 197 | 24回 | 木製品 | 板 | 穴門・棟端・I層 | 長 20.3 | 幅 (8.5) | 厚 0.8 | — | 「富士回」 |
| 198 | 24回 | 木製品 | 箱 | 穴門・棟端・II層 | — | 幅 2.0 | 厚 0.8 | — | |
| 199 | 24回 | 木製品 | 漆桶 | 穴門・棟端・I層 | 底 4.4 | 幅 3.6 | 厚 — | — | |
| 200 | 24回 | 木製品 | 漆桶 | 穴門・棟端・I層 | 底 3.6 | 幅 2.5 | 厚 — | — | |
| 201 | 24回 | 木製品 | 貯米 | 穴門・棟端・II層 | 長 14.5 | 幅 1.2 | 厚 0.1 | — | |
| 202 | 24回 | 木製品 | 貯米 | 穴門・棟端・II層 | 長 19.8 | 幅 0.9 | 厚 0.3 | — | |
| 203 | 24回 | 木製品 | 貯米 | 穴門・棟端・II層 | 長 (10.1) | 幅 1.2 | 厚 0.2 | — | |
| 204 | 24回 | 木製品 | 貯米 | 穴門・棟端・II層 | 長 17.5 | 幅 1.9 | 厚 0.2 | — | |
| 205 | 24回 | 木製品 | 籠状器具 | 不明 | 底 (14.0) | 幅 5.5 | 厚 0.7 | — | |
| 206 | 25回 | 瓦 | 板瓦 | 穴門・東端・地上 | — | — | 厚 — | — | |
| 207 | 25回 | 瓦 | 板瓦 | 穴門・東端・地上 | 長 (27.2) | 幅 — | 厚 — | — | |
| 208 | 25回 | 瓦 | 板瓦 | 大手門・東側・地上 | 長 (41.0) | 幅 32.1 | 厚 2.0 | — | |
| 209 | 26回 | 瓦 | 板瓦 | 穴門・棟端・II層 | — | — | 厚 — | — | |
| 210 | 26回 | 瓦 | 軒瓦 | 穴門・東端・埋土 | 長 (9.5) | 幅 0.5 | 厚 1.8 | — | |
| 211 | 26回 | 瓦 | 軒瓦 | 穴門・東端・埋土 | — | 幅 — | 厚 — | — | |
| 212 | 26回 | 瓦 | 軒瓦 | 穴門・東端・埋土 | — | 幅 — | 厚 — | — | |
| 213 | 26回 | 土製品 | 磚 | 穴門・外法・I層 | 長 27.9 | 幅 10.7 | 厚 0.7 | — | |
| 214 | 27回 | 石製品 | 脇垂 | 穴門・棟端・II層 | 長 51.0 | 幅 1.8 | 厚 0.8 | — | 範長79.6 |
| 215 | 28回 | 石製品 | 磚 | 穴門・棟端・II層 | 長 (33.5) | 幅 5.9 | 厚 1.9 | — | |
| 216 | 28回 | 石製品 | 磚 | 穴門・棟端・II層 | 長 (14.0) | 幅 7.6 | 厚 2.9 | — | |
| 217 | 28回 | 石製品 | 磚 | 穴門・外法・II層 | 長 (11.0) | 幅 7.8 | 厚 2.3 | — | |
| 218 | 28回 | 石製品 | 蹴石 | 穴門・外法・I層 | 長 (6.0) | 幅 5.8 | 厚 1.8 | — | |
| 219 | 28回 | 石製品 | 蹴石 | 大手門・北端・田層 | 長 (5.5) | 幅 (4.9) | 厚 1.3 | — | |
| 220 | 28回 | 古矢矢 | 鐵 | 穴門・棟端・II層 | 底 (11.0) | 幅 (6.0) | 厚 1.4 | — | 壓押 |
| 221 | 28回 | 古矢矢 | 鐵 | 大手門・北端・III層 | 9.1 | 幅 3.0 | 厚 1.4 | — | 壓押 |
| 222 | 28回 | 古矢矢 | 鐵 | 大手門・中央 | 底 (9.0) | 幅 — | 厚 (1.8) | — | 壓押 |
| 223 | 28回 | 古矢矢 | 鐵 | 穴門・棟端・II層 | 底 (9.0) | 幅 — | 厚 (1.4) | — | 壓押 |
| 224 | 28回 | 古矢矢 | 鐵 | 穴門・棟端・II層 | 底 (9.0) | 幅 — | 厚 (1.4) | — | 壓押 |
| 225 | 28回 | 土器質 | 縁器 | 穴門・東端・I層 | 底 (5.0) | 幅 2.7 | 厚 2.5 | — | |
| 226 | 28回 | 石製品 | サイコロ | 穴門・棟端・I層 | 長 1.7 | 幅 1.8 | 厚 1.7 | — | |
| 227 | 28回 | 石製品 | 帯鉢 | 穴門・棟端・I層 | 長 2.5 | 幅 2.3 | 厚 1.3 | — | |
| 228 | 28回 | 土製品 | 土瓶 | 大手門・中央・田層 | 底 2.3 | 幅 1.9 | 厚 0.7 | — | 壓押 |
| 229 | 28回 | 土製品 | 土瓶 | 穴門・外法・II層 | 底 2.1 | 幅 2.2 | 厚 0.7 | — | 壓押 |
| 230 | 28回 | 草蓆器 | 襖 | 不明 | — | — | 厚 (0.6) | 平妻 | |

第3章 自然科学的分析

以下の報告は、株式会社京都科学保存技術研究所に委託したものであるが、分析については京都科学が財団法人元興寺文化財研究所に委託している。

第1節 漆塗脇差の修理報告書(図版30～35)

- 1 秋田県埋蔵文化財センター蔵 久保田城跡出土漆塗脇差
- 2 数量 1点
- 3 保管状態 水漬け
- 4 处理内容
 - a 处理前記録
35mmフィルムによる写真撮影及びX線透過画像撮影。象嵌部分については蛍光X線分析実施。
 - b 糖アルコール含浸処理
保護材として、ペーパータオル、包帯などを用い、遺物を梱包、含浸処理を実施した。糖アルコール（ラクチトールとトレハロースの混合薬剤（混合比10：1））の45%溶液に遺物を浸漬し、処理を開始。液温を50°Cに加温しながら、処理液濃度を少しづつ上昇させた。処理液糖度を80%まで上昇させ、含浸処理を終了した。
 - c 結晶化処理
保護材を開梱、遺物表面に付着した余分な糖アルコール溶液を拭い取る。その後、含浸した糖アルコールの結晶化を促進するため遺物表面にラクチトールの微粉末を散布する。散布後、含浸処理時と同じく遺物を梱包し、そのままの状態で結晶化処理を実施した。
 - d 表面洗浄
結晶化処理終了後、保護材を開梱、散布したラクチトールの微粉末を洗浄、除去する。洗浄には水を用いた。
 - e 金属部分クリーニング及び象嵌研磨
エアーブラシを用いて余分な鏽を除去し、また象嵌部分を研磨した。特に象嵌部分については損失に留意し、慎重に作業を進めた。作業後、アクリル樹脂（パラロイドNED-10）の10%溶液を塗布し、表面を保護した。
 - f 銛修復作業
銛の欠損部分については、構造補強を兼ねてエポキシ系樹脂を用いて形状の修復を行った。
 - g 漆膜修復作業
加熱したコテを使用し、浮き上がった漆膜を木胎に接合した。接着剤としてバオゲンPP-15を用いた。
 - h 接合
脱落していた破片を接合した。接合剤にはエポキシ系のハイスピードエボを用いた。

i 補彩

接合作業用に用いた接着剤をアクリル絵具（ホルベインアクリラ）にて補彩した。

j 処理後記録

35mmフィルムによる写真撮影。

第2節 漆塗脇差の分析報告書

1 調査対象 刀装具 1点

2 調査内容

刀装具の象嵌部分の材質を蛍光X線分析（以下、XRF）により分析を行う。

3 使用機器及び測定条件

エネルギー分散型蛍光X線分析装置（セイコーインスツルメンツ（株）製SEA5230）を用いた。この装置は試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有の蛍光X線を検出し、元素を同定することができる。条件はモリブデン管球を使用、大気圧下、コリメータ0.1mm、管電圧50kVで分析を行った。

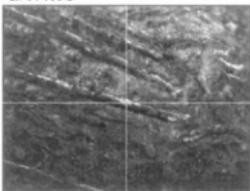
4 結果

XRF分析で象嵌部の主成分として鉄（Fe）、銀（Ag）を検出した（第29図）。また、微量元素として、マンガン（Mn）、銅（Cu）、金（Au）、鉛（Pb）を検出した（第29図）。次に地金部分は主成分として鉄（Fe）を微量元素としてマンガン（Mn）、銀（Ag）、スズ（Sn）を検出した（第29図）。

[測定条件]

| | |
|----------|---------|
| 測定装置 | SEA5230 |
| 測定時間(秒) | 300 |
| 有効時間(秒) | 290 |
| 試料室雰囲気 | 大気 |
| コリメータ | φ0.1mm |
| 励起電圧(kV) | 50 |
| 管電流(μA) | 1000 |
| コメント | |

[試料像]

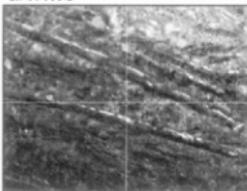


視野 : [X Y] 6.60 4.95 (mm)

[測定条件]

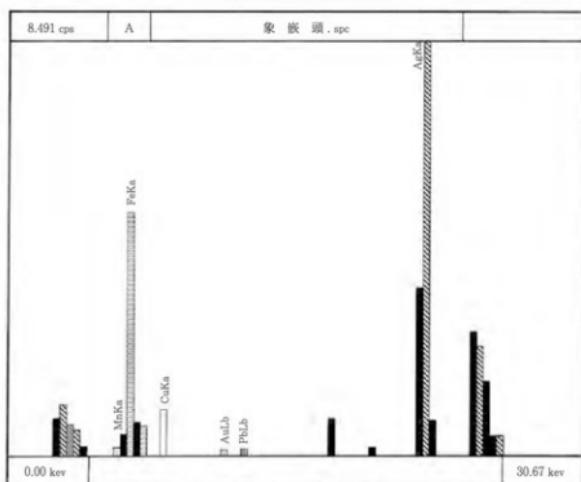
| | |
|----------|---------|
| 測定装置 | SEA5230 |
| 測定時間(秒) | 117 |
| 有効時間(秒) | 113 |
| 試料室雰囲気 | 大気 |
| コリメータ | φ0.1mm |
| 励起電圧(kV) | 50 |
| 管電流(μA) | 1000 |
| コメント | |

[試料像]

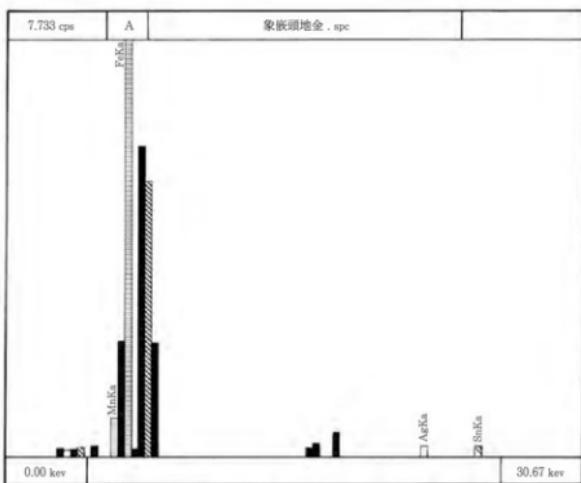


視野 : [X Y] 6.60 4.95 (mm)

象嵌部のXRFスペクトル



象嵌部のXRFスペクトル



第29図 地金部分と象嵌部のXRFスペクトル

第4章　まとめ

久保田城は、常陸国水戸城から転封された佐竹義宣が、慶長8（1603）年5月に着工し、翌年9月湊城を破却して移り住み、その後も整備を継続した近世城郭である。

久保田城跡の調査は、昭和63（1988）年に本丸御隅櫓跡、平成3・4（1991・1992）年に二の丸跡、平成9（1997）年に本丸の表門跡などが、秋田市教育委員会によって行われている。これらの近世城郭内中心部の調査に対して、今回の調査は城郭内外辺部の堀及びそれを横切る土橋が対象になった。

調査区域は、城郭の南側で広小路に面した東側大手門の堀（大手門地区）、西側穴門の堀（穴門地区）、これらを東西に分断した中土橋（中土橋地区）に分けられ、各々の地区は久保田城跡の一角を占めそれぞれの機能を担っていた。以下に今回の調査成果をいくつかまとめてみたい。

1つには、旧中土橋や旧大手門の堀・穴門の堀の東西際が確認できた点である。大手門地区からは旧中土橋の東側肩部と護岸部が検出された。確認調査時には、旧中土橋地区西側肩部と護岸部が確認できており、旧中土橋の幅員が11mに及ぶことが判明した。さらに、穴門地区の調査によって現広小路北側護岸部も明瞭になった。3か所の護岸部と肩部には杭が多用されていたが、大手門地区では護岸傾斜部に短い杭で留めた甌状のものが覆われていた。

2つ目には、旧中土橋や旧大手門の堀・旧穴門の堀の構築状況が理解された点である。旧中土橋東側肩部と旧大手門の堀西側、現広小路下の肩部と旧穴門の堀南側の断面土層から、自然堆積層を前者では約30°、後者では約35°削り込んでいることが分かった。また、旧中土橋の上面は路面と考えられ、50～60cmの厚さで盛土されていた。盛土中に、新しい陶磁器を含まず黄瀬戸や絵唐津の陶器が出土したことから、旧中土橋構築年代を江戸初期に想定することができる。

3つ目には豊富な遺物が出土した点である。日常生活に関わる陶磁器・土師質土器・木製品・祭祀に関わる木製品・かわらけ・仏事に関わる磁器・装飾に関わる石製品・文具に関わる石製品・玩具に関わる土製品・石製品・建築・構築物に関わる瓦・土製品など、江戸時代を中心とした生活全般に関する遺物が見つかった。このうち日常品の陶磁器が最も多く、江戸時代初期から幕末までの肥前系や瀬戸美濃産の陶磁器が多量に認められる。17世紀前半の肥前系磁器が多く認められることは、近世城郭築城に伴って、城内に日常雑器としての磁器をいち早く取り入れた様子が窺える。東根小屋町遺跡や古川堀反町遺跡の城外武家屋敷においても、同じことが言える。

最後に、祭祀関連遺物について記述する。大手門地区の南側では、刀形（184・185）・鳥形（186・188）同区北端からも鳥形（187）が出土した。また、北端と中央からはかわらけ（221・222）が、中央からは小型の行燈台や舟形も見つかっている。穴門地区では、棧堀地区より斎串が集中するように出土した（201～204）。同棧堀地区からはかわらけ（220・223）も見つかっている。このように、大手門地区と穴門地区的祭祀に関わる木製品とかわらけの在り方から、旧中土橋地区近辺で祭祀が行われていたと考えられる。なお、両地区のかわらけを比較すれば、大手門地区の2点のかわらけは、胎土・焼成・色調・製作技法が共通した薄い作りで、穴門地区の2点のかわらけは、色調はやや共通するが、胎土・焼成・製作技法の異なるやや分厚い作りである。両地区のかわらけの相違以外に、祭祀関連木製品の相違も勘案すれば、両地区ごとに祭祀が執り行われていたと推定される。

久保田城跡

引用・参考文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡—秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田県埋蔵文化財センター『平成17年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会資料』 2006（平成18）年

秋田市教育委員会『久保田城跡一本丸御隅櫓跡発掘調査報告書—』 1989（平成元）年

秋田市教育委員会『久保田城跡 表門復元に伴う発掘調査報告書』 1997（平成9）年

秋田市教育委員会『久保田城跡—佐竹史料館増設に伴う二の丸発掘調査報告書—』 2002（平成4）年

秋田市教育委員会『藩校明徳館跡—市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書—』 2002（平成14）年

大橋康二『肥前陶磁』考古学ライブリー55 ニュー・サイエンス社 1993（平成5）年

藩 校 明 德 館 跡

(5 H K M T K)

第1章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観（第30～35図、巻頭図版2）

藩校明徳館は、1790（寛政2）年学館の名称で開校し、明道館を経て1843（天保14）年明徳館の名で新たに再建された。調査区は久保田城南端の中土橋から南西約100mにあり、これより南側の一帯は平成12年に秋田市教育委員会によって発掘調査が実施された。しかし、秋田赤十字病院などの建物による掘削でかなりの範囲が調査対象区域から除外されている。今回の調査も、近世の遺構が残されていた200m²（約8m×約25m）の狭い範囲が発掘対象区域である。

調査の結果、17世紀のIV層からI層（近代以降現代）までの基本土層が確認でき、それぞれの層に関わって遺構や遺物が見つかった。I層からは溝跡が多く検出されたが、土管埋設用の溝もいくつかあり全般に新しい。II層では、土坑や柱穴様ピットが僅かに見つかったのみである。III層では柱穴様ピットが、IV層でも柱穴様ピットと土坑が集中して検出された。遺物は4層にわたって出土しており、肥前系の陶磁器や木製品・石製品・かわらけなど多くの遺物が出土した。磁器の中には、近世中国産の染付も出土している。

III・IV層の柱穴様ピットの一部には、建物跡を想定させる遺構も存在するが、明確に藩校明徳館の一部と見られる遺構は確認できなかった。第3章のまとめ述べているが、今回の調査区域は、藩校明徳館から外れた区域と考えられ、近世の遺構や遺物の多くは武家屋敷に関わるものと想定している。

第2節 調査の方法（第30図）

調査区域は、千秋公園の南端入り口から南西約100mにあり、キャッスルホテル正面道路に隣接している市街地である。そのため、粉塵や重機の搬入など、周辺に配慮しながら発掘調査を行った。

調査は、堆積層が厚く複数の基本土層が確認されることから、当初4m方眼のグリッド法を用いたが、主としてトータルステーションによる実測方法を採用した。遺構では、遺構付近に2つの仮のポイントを設置し、断面図は手取り実測、平面図は仮ポイントを含めて機械実測を行った。また遺物では、種類によってRP（陶磁器）・RW（木製品）などの記号と番号を付し、機械で地点を測量した。

遺構名は、発見順に番号を付け遺構の種類によってSK（土坑）・SD（溝跡）などの表記と併せて用いた。調査の途中で遺構でないと判断されたものは、欠番にしてある。遺物の取り上げに際しては、遺跡名・取り上げ番号・層位・年月日をラベルに記入した。

写真撮影は、35mmのモノクロフィルム・カラーリバーサルフィルムを中心にネガカラーフィルムを併用した。また、空中写真撮影を行い遺跡及び周辺の様子も記録した。筆録では、遺構・遺物の状態、土層観察などに主眼を置いていた。また日誌には、日々の作業の進捗状況や特記すべき事柄を記載した。

発掘当初はバックホーを用いて表土除去を行ったが、I層で遺構が検出され精査を行った後は、人力で下の層を掘り下げていった。IV層の遺構精査が終了した後、発掘以前の状態に復するため、バックホーによって埋め戻しを行い調査を終了した。



第30図 調査区遺構配置図

第3節 調査の経過

7月8日、バックホーによる表土除去を行った。翌日、コンテナハウスを設置し杭の打設を行う。

7月10日、作業員説明会を行い調査の安全対策や調査の進め方について説明する。

7月11日、調査区全域にジョレンがけを行い本格的な調査を開始する。排水用の溝切り排土から17世紀前半の陶器が出土し、藩校明徳館以前の武家屋敷に関連した遺物として把握した。

7月16日、II層上面遺構群の断ち割りを開始する。遺構の覆土には、焼土粒や炭化物粒が顕著に見られ、明治期に火災が繰り返された師範学校に関連するものかと、想定した。条件が整わなかった空中写真撮影が、やっとの思いで終了した。

7月23日、一部IV層上面の遺構を含みながら、III層上面の遺構群の精査を開始する。遺構群は、調査区中央部にまとまっていることが確認できた。SKP52より、砂目の痕跡をもつ唐津系陶器が出土し、先に出土した例も含み17世紀前半の武家屋敷の一部が存在することが確信された。

7月29日、IV層上面遺構群の精査を本格的に開始する。4つの基本土層中では、遺構が最も多く確認されており17世紀前半の陶磁器も見受けられた。

7月31日、遺構の調査はすべて終了し、コンテナハウスの撤収を行った。8月1日、重機による埋め戻しを行い、藩校明徳館跡の調査をすべて終了した。

第4節 整理作業の方法と経過

整理作業は、藩校明徳館跡の調査が終了した後の平成15年8月より開始した。

出土遺物は、洗浄・注記・接合の後、分類作業を行い実測図の必要な遺物を選択した。次に、遺物の実測・拓本、トレース等の作業を行った。特に陶磁器や漆器等では、図柄や文字が忠実に再現されるように留意した。そのため、遺物の挿図は3分の1を基調としたが、2分の1で表現したものもある。また、一覧表を作成して遺物の特徴を通覧できるように配慮した。

遺構は、トータルステーションによる実測の委託を行い、I層からIV層まで層位ごとに実施した。それらの断面図は手実測を行っているが、平面図との関係で誤差が生じており、それらを修正した第二原図を作成した。遺構の挿図は40分の1を基調とし、その他の挿図は、縮尺を適宜考慮した。

報告書の体裁は、前段に遺跡に関する記述を述べ、後段に遺構・遺物の記述をまとめた。この他35mmのモノクロを中心に、なるべく多くの写真を掲載できるように努め、カラー写真を口絵として掲載した。また、久保田城跡の報告と合冊の形態を採っている。

なお、整理作業は調査担当の五十嵐をはじめとして遠藤・田村が進めていたが、平成16年度定期人事異動に伴い五十嵐が異動、遠藤・田村が退職となり、後の整理を利部が引き継いだ。

引用・参考文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田市教育委員会『藩校明徳館跡－市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書－』2002（平成14）年

第2章 調査の記録

第1節 基本土層（第31図）

基本土層は、確認調査時に南北に掘削したトレーナーの東側断面と西側断面を利用して作図した。I層は砂利層で重機によって除去したが、その下II層～IV層（地山）までを確認した。第36～第39図の造構配置図は、I層～III層までの各層に帰属していたと判断されるもので、IV層は上面で確認された造構群である。

I層 砂利層。

II層 黒褐色土（10Y R3/2）にぶい黄褐色土（10Y R4/3）と灰黄褐色土（10Y R6/2）が斑状に混入する。5～10mmの炭化物粒・明赤褐色粒（5Y R5/6）・炭化物粒を少量含む。整地層である。しまり・粘性とも強。

III層 黒褐色（10Y R3/2）褐色土（10Y R4/4）・灰黄褐色土（10Y R6/2）が斑状に混入する。炭化物粒を微量に含む。しまり・粘性とも強。

IV層 にぶい黄褐色土（10Y R5/4）～灰黄褐色土（10Y R6/2）若干砂質の地山層。グライ化部分はオリーブ灰色（2.5G Y5/1）である。しまり・粘性とも強。

I層に帰属している溝跡には、土管を埋設する時に掘削されたものも多い。I層帰属の造構によって江戸期の造構がかなり破壊されていた。

第2節 検出造構と出土遺物（第32～50図、表8～12、図版21～29）

調査によって、土坑・溝跡・柱穴様ピット・性格不明造構を検出し、それらに伴う近世陶磁器などが出土した。

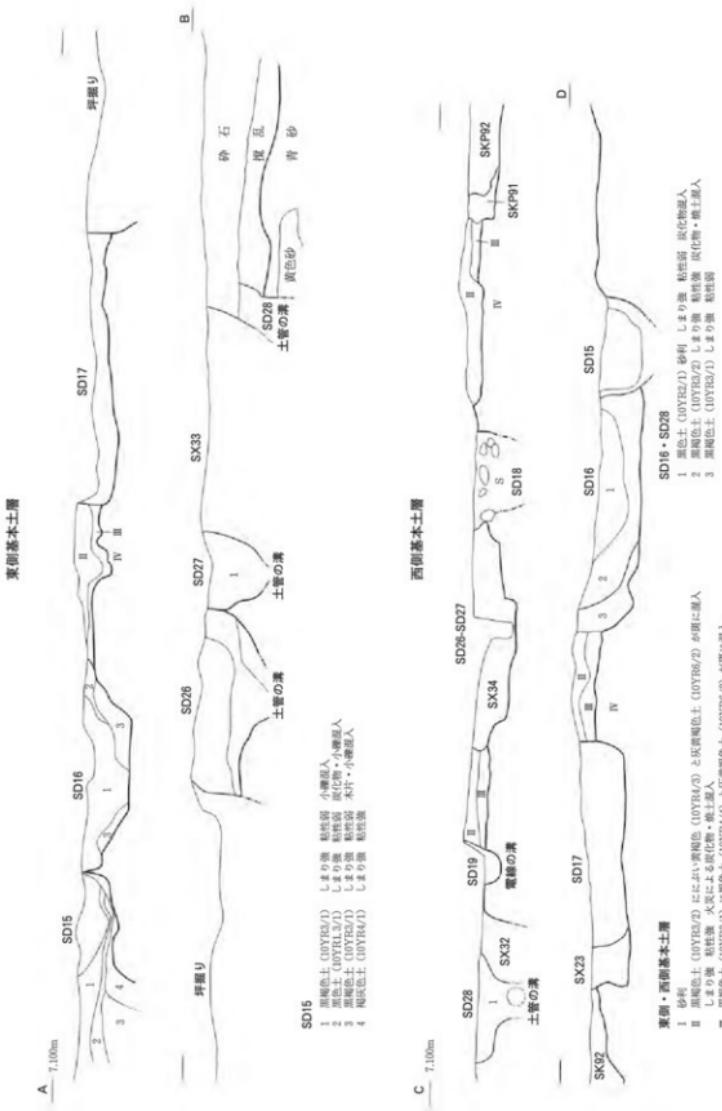
1 土坑

S K21（第40・53図、表11）

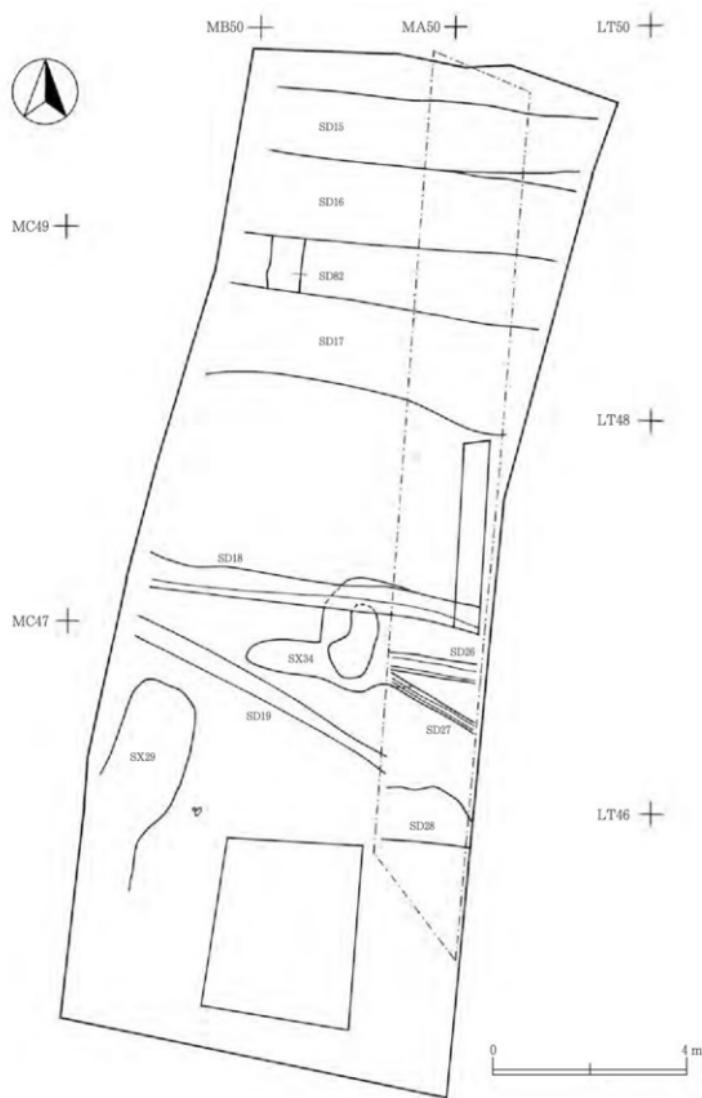
M B47グリッド南東に位置し、II層で確認した。形状は長軸0.64m×短軸0.5mの不整橢円形で、深さは0.8mである。底面は中央部が最も深く、中央部から開口部にかけて直線的に湾曲する。埋土は灰黄褐色土の粘質土で中に1～7cmの礫を多量に含む。陶器の甕（75）が出土した。75は17世紀と考えられる。

S K33（第40・48・50～53図、表10～12）

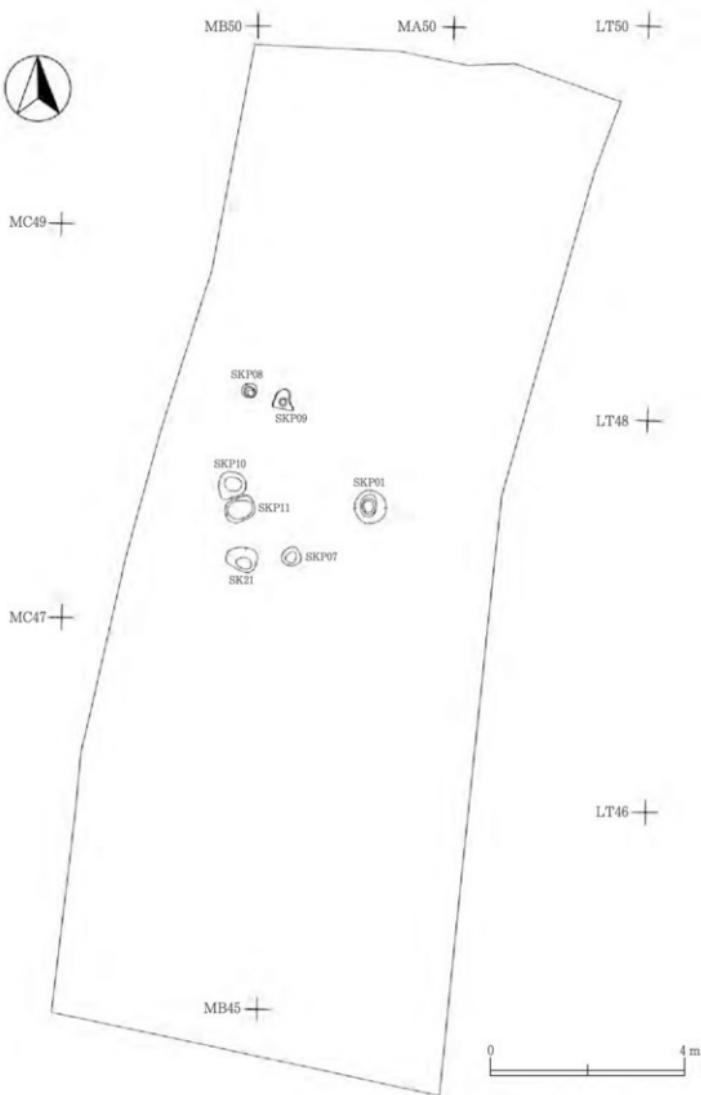
L T・M A46グリッドに位置し、IV層で確認した。形状は長軸2.22m×短軸1.54mの菱形様椭円形で深さは0.76mである。底面は中央から壁際にかけて緩く立ち上がり、壁はオーバーハングしている北側を除いて急な角度で立ち上がる。埋土は砂質土が主体的で、下半分が水平に近い堆積状態を示す。磁器の丸皿（4・41・51・52）、溝縁皿（53）、丸碗（20）、陶器の皿（55）、擂鉢（58）・花瓶（71）、素焼きの鉢（59）・擂鉢（60）・甕（77）、木簡（88）が出土した。20・58～60・77は17世紀前半で、51～53も17世紀前半と考えられる。



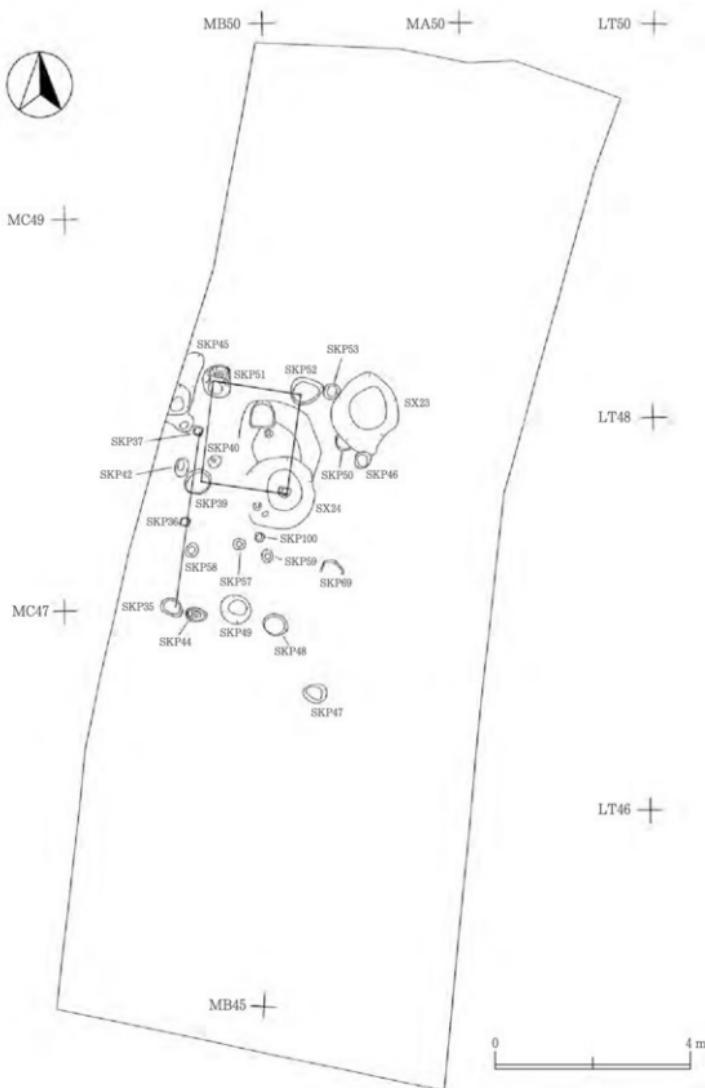
第31図 東西基本土層



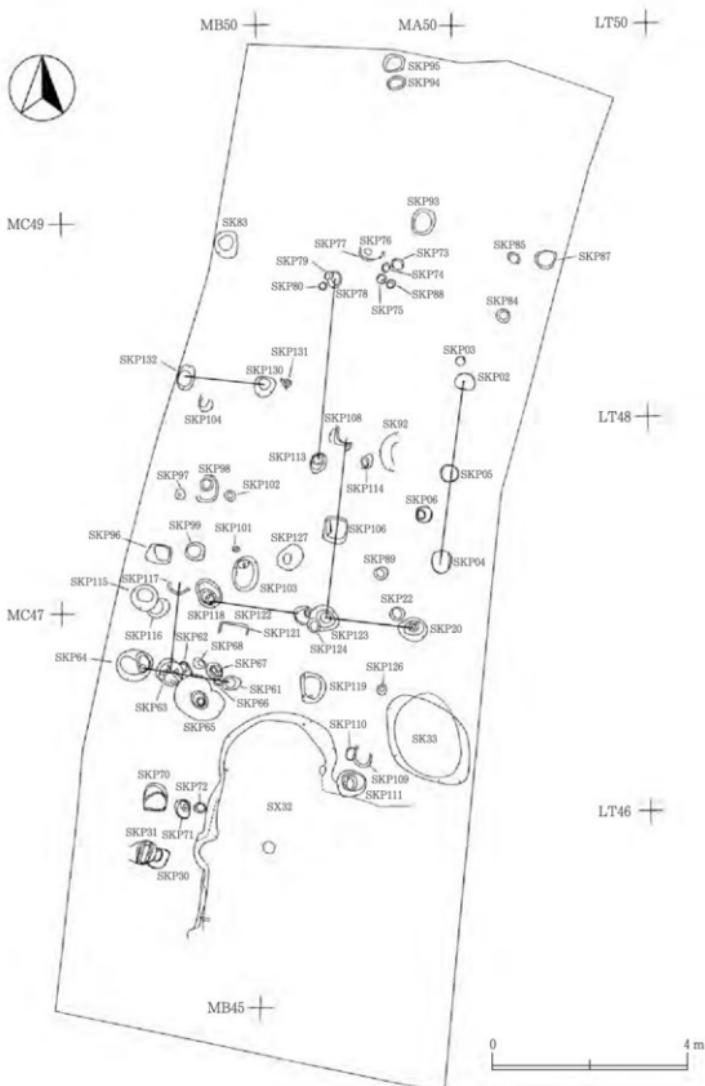
第32図 調査区I層構造配置図



第33図 調査区Ⅱ 墓遺構配置図



第34図 調査区III層遺構配置図



第35図 調査区IV層遺構配置図

S K83 (第40・48図、表10)

MB48グリッド北東に位置し、IV層で確認した。形状は長軸0.56m×短軸0.48mの不整梢円形で深さは不明。磁器の丸皿（9・11）が出土した。9は17世紀前半である。

S K92 (第40・53図、表11)

MA47グリッドに位置し、IV層で確認した。形状は現状の長さ7.5m×同幅0.4mの梢円形と推定される。深さや断面の形状は不明。土師器の杯（85）が出土した。

S K121 (第40図)

MB46グリッド北東に位置し、IV層で確認した。形状は東西軸が0.6m、これに直交する現存軸は0.24mの長方形と考えられ、深さは0.08mである。底面は平坦で壁は急な角度で立ち上がる。埋土は黒褐色土である。

2 溝跡

S D15 (第36・50図、表11)

LT・MA49グリッドに位置し、I層で確認した。SD16を切る。長さ6.6m×幅1.2～1.4mの東西方向に長い溝である。深さや断面の形状は不明。磁器の折縁丸皿（42）が出土した。埋土は黒褐色土である。42は17世紀前半と考えられる。

S D16 (第36図)

LT48・49、MA48・49グリッドに位置し、I層で確認した。SD82を切り、SD15に切られる。長さ6.5m×幅1.5～1.7mの東西方向に長い溝である。底面の幅は0.7m前後の平坦面で、壁は緩く直線的に立ち上がる。埋土は黒色や黒褐色主体の土である。

S D17 (第36・49図、表10)

LT48、MB・MA50グリッドに位置し、I層で確認した。SD82を切る。長さ6.4m×幅1.7～2.2m深さ0.3mの東西方向に長い溝である。底面には凹凸があるが概ね平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。埋土は黒褐色土である。磁器の丸碗（23）が出土した。23は17世紀前半である。

S D18 (第36図)

LT・MA48グリッドに位置し、I層で確認した。SKP103・117・118などを切る。長さ6.85m×幅0.5mの東西方向に長い溝である。深さや断面の形状は不明。

S D19 (第36図)

MA・MB46グリッドに位置し、I層で確認した。SKP109を切る。長さ5.9m×幅0.23～0.42m深さ0.3mの西北西一東南東方向に長い溝である。断面は底面が半円状でU字状を呈する。埋土は灰黄褐色土である。

S D26 (第36図)

LT・MA46グリッドに位置し、I層で確認した。SX34を切るがSD27との新旧関係は不明。長さ1.75m×幅0.4m深さ約0.3mの東西方向に長い溝である。断面はU字状を呈する。埋土は黒色土や黒褐色土主体の土で、土管埋設のための掘方である。

S D27 (第36図)

LT・MA46グリッドに位置し、I層で確認した。SK33を切るが、SD26との新旧関係は不明。長さ2m×幅0.17～0.22m深さ約0.3mの北西一南東方向に長い溝である。断面はU字状を呈する。埋

土は黒褐色土で、土管埋設のための掘方である。

S D28 (第36・51図、表11)

MA45・46グリッドに位置し、I層で確認した。長さ1.8m×幅0.4~1.16m深さ0.3m以上の東西に長い溝である。土管埋設のための掘方である。陶器の折縁丸皿(45)が出土した。45は17世紀前半と考えられる。

S D82 (第36・48・50・54図、表10・12、図版22-3)

MA48グリッド北西に位置し、I層で確認した。SD16・17に切られる。長さ1.1m×幅0.7mの南北方向に長い溝である。深さや断面の形状は不明。磁器の丸皿(13・14)・水滴(33)・シェーピングカップ(34・35)、陶器の丸皿(37)・大甕(89)が出土した。

3 柱穴様ピット (第38、43~49図、第10~12表)

本調査区域では91基の柱穴様ピットを検出した。各層位ごとの内訳は、II層で6基、III層で21基、IV層で64基で、層位が古くなる程多く見つかっている。これら層位ごとの明確な建物跡は検出されていないが、III層とIV層において南北の軸線とこれに直行する東西の軸線が認められる。

III層では、SKP51・SKP39・SX24の中央部・SKP52・SKP51を結んだ形状が、建物を表す可能性があり、この場合東西が約1.8m南北が約2mの間尺である。SKP37・SKP36・SKP35を結ぶと直線になり、この場合も柱間が約1.8mになり堀もしくは建物の一部の可能性を示唆している。これらによって、南北の軸線とこれに直交する東西の軸線が確かめられる。

またIV層では、約1.8mの間尺を基準にすると、SKP132・SKP130・SKP118・SKP122、SKP64・SKP61、SKP117・SKP63、SKP78・SKP113、SKP108・SKP106・SKP123・SKP22、SKP02・SKP05・SKP04は各々関連すると考えられる。これらの場合も、南北線と東西線はそれぞれ直行し、南北の軸線とこれに直交する東西の軸線が確かめられる。

III・IV層で確認できた南北の軸線は、座標北から東に7・8度の角度で振れており、2つの時期は共通の規制を受けていたことが理解できる。

各々の層位から出土した遺物は以下のとおりである。II層のSKP01からは磁器の丸皿(5)・SKP09からは陶器の丸碗(68)が出土した。III層のSKP44からは陶器の甕(73)・SKP45からは陶器の丸皿(48)・SKP47からは陶器の折縁丸皿(46)・SKP51からは青磁(1)・SKP52からは陶器の丸皿(50)・SKP53からは陶器片(40)が出土した。IV層のSKP61からは砾石(83)・SKP63からは磁器の丸皿(10)・SKP64からは陶器の丸皿(66)・SKP65からは陶器の丸皿(36)・SKP76からは磁器の丸碗(29)・SKP96からは陶器の甕(76)・SKP99からは磁器の丸碗(28)・SKP103からは磁器の丸碗(25)・SKP106からは陶器の丸皿(38)・SKP111からは青磁(1)が出土した。1・5・28・50・68は17世紀前半、25は17世紀中頃、10は17世紀後半、73は17世紀で、46・48は17世紀前半と考えられる。

4 性格不明遺構

S X23 (第37・45・48・49図、第10~12表)

MA47・48グリッドに位置し、III層で確認した。SKP50を切りSKP46に切られる。形状は長軸1.7m×短軸1.4mの不整形で深さは1mである。断面は底面が半円状でU字状を呈する。埋土は南側から堆積しており、中央が暗灰黄色で上下層を二分している。磁器の丸碗(27)、陶器の丸碗(67)・

かわらけの皿（81）、土師器の甕（86）が出土した。27は17世紀前半である。

S X 24（第36・44・46・48・49図、第10～12表）

MA 47・48、MC 47・48グリッドに位置し、Ⅲ層で確認した。形状は長軸2.7m×推定短軸1.7mの北側に段が付く不整形で、深さは北側が0.44m南側が0.65mである。北側底面は平坦で壁は緩い角度で立ち上がる。南側底面は捕鉢状に湾曲し壁は南側が急な角度で立ち上がる。北側の埋土には、焼土や炭化物が含まれる。磁器の丸皿（15）・瓶（32）、陶器の丸皿（61）・甕（74）、砥石（82）が出土した。61は1600年頃、32は17世紀前半、15は18世紀後半で、74は17世紀前半と考えられる。

S X 29（第32・48図、第11表）

MB 45・46グリッドに位置し、I層で確認した。形状は長軸4.3m×短軸1.6mの不整形である。深さや断面の形状は不明。陶器の花瓶（70）が出土した。70は17世紀後半である。

S X 32（第37、44～46、48・49図、第10～12表、図版29）

MA 50、MB 45・46グリッドに位置し、IV層で確認した。SD 26に切られる。形状は縦4.8m以上×横4.2m以上の広がりのある不整形で、深さは0.6mである。埋土は黒褐色土が主体である。磁器の丸皿（6・12）・丸碗（17・19・21・26・30）、陶器の皿（62）・折縁丸皿（43・44）・蓋（63）・丸碗（65）・捕鉢（57）・壺（69）、素焼きの壺（79）、木器の椀蓋（87）が出土した。6・12・17・19・21・26・30は17世紀前半で、43・44は17世紀前半と考えられる。

S X 34（第32、44～49図、第10～12表）

MA 46・47グリッドに位置し、I層で確認した。形状は縦3.5m以上×横2.3m以上の広がりのある不整形である。深さや断面の形状は不明。磁器の丸皿（2・3）・折縁輪花丸皿（7）・丸碗（16・18・22・24）・仏飯器（31）、陶器の丸皿（39・54）・溝縁丸皿（49）・丸碗（64）・瓶（72）・陶器片（78）、素焼きの火入れ（80）が出土した。72は16世紀末～17世紀初頭、7・18・22・24は17世紀前半、31・7・8は17世紀中～末、16は1800年頃で、39・49・54は17世紀前半と考えられる。

第3節 遺構外出土遺物（第51～54図、第11～13表）

藩校明徳館跡の遺構外からは、近世を中心に一部近代以降を含む磁器・陶器・土製品・石製品、平安時代の土師器が出土した。

磁器には丸鉢・丸皿・端反皿・蓋・丸碗・蓋・瓶・花瓶・土瓶急須がある。90は赤絵である。丸皿はほとんどが肥前系の染付であるが、97は青磁である。98の蓋は染付で、幕末以降と考えられる。蓋はすべて染付で、101は「福」「寿」を文様としてちりばめている。丸碗はほとんどが染付であるが、116は青磁、109は内面が染付外面が鉄釉に掛け分けている。102は中国漳州の製品である。115の盃は幕末以降と考えられる。瓶はすべて肥前系の染付である。119の花瓶は腰が極端に角張った染付である。121は染付の土瓶急須である。

陶器には丸皿・折縁丸皿・丸碗・鉢・甕がある。丸皿には、長石釉（123・130）・透明釉（127）・灰釉（128・129）があり、123には鉄絵を施す。126は灰釉の折縁丸皿で、132は鉄銅緑釉の丸碗である。鉢には長石釉（133）と素焼きのもの（135）がある。甕には、内面に同心円文のある鉄釉（136）と、灰釉（137）がある。土製品には素焼きの五徳（140）、素焼きの貝風呂（141）、和服姿の婦人を

あしらった色絵の人形（142）がある。石製品には砥石（143）や碁石（144）がある。

この他に平安時代の土師器の杯（145・146）や甕（147）が出土している。

引用・参考文献

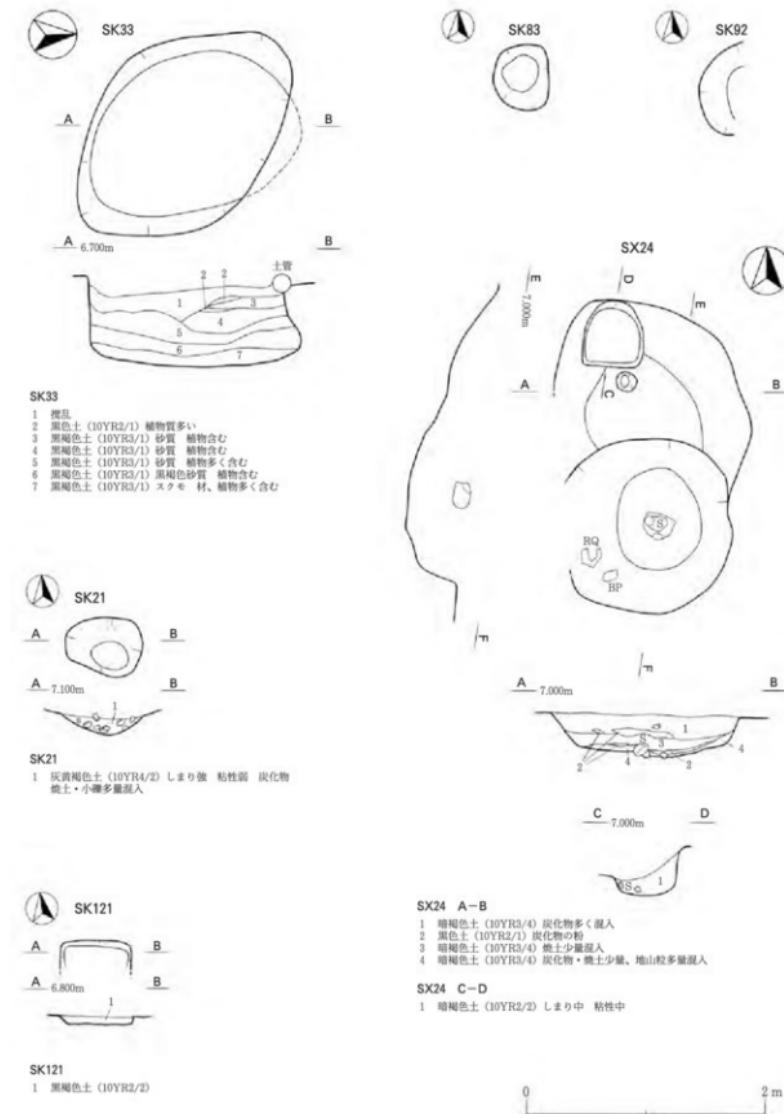
秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡一秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一』秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田市教育委員会『蒲校明徳館跡一市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書一』 2002（平成14）年

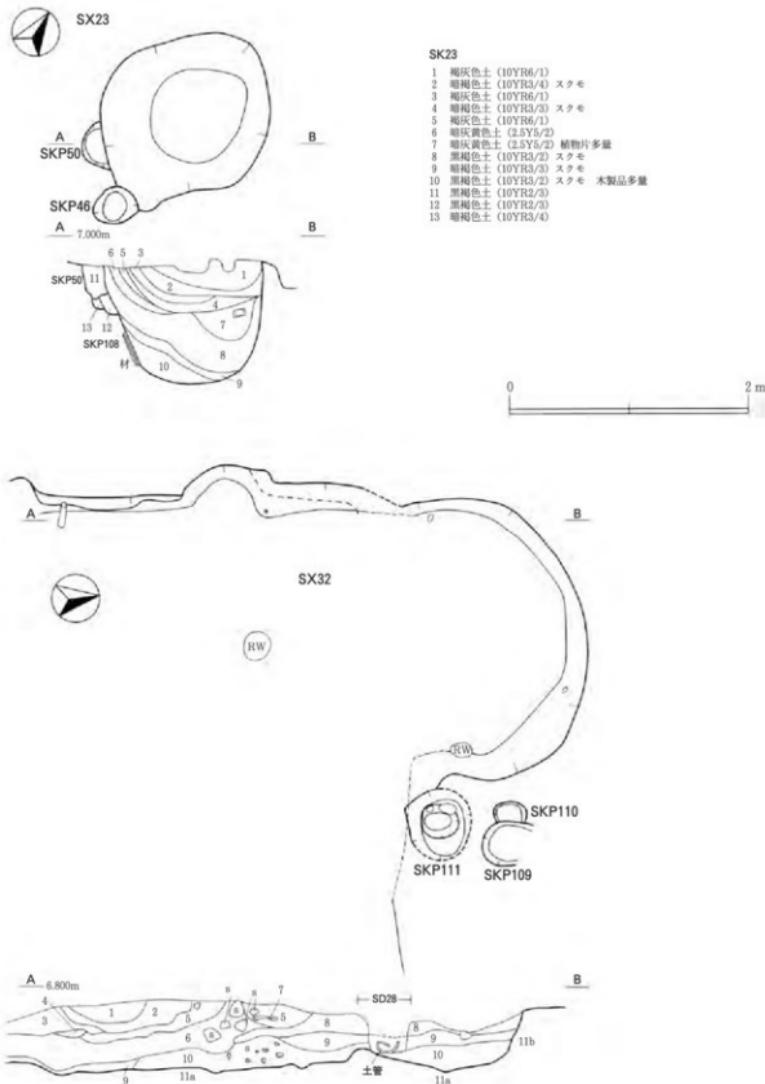
大橋康二『肥前陶磁』考古学ライブライ-55 ニュー・サイエンス社 1993（平成5）年

佐賀県立九州陶磁文化館『シリーズ「古伊万里の見方」v o 1, 1』 2004（平成6）年

佐々木達夫『陶磁』日本史小百科29 近藤出版社 1991（平成3）年

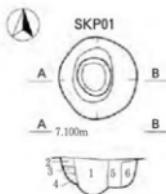


第36図 土坑と性格不明遺構



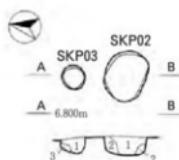
第37図 性格不明遺構

蓄校明徳館跡



SKP01

- 1 黒褐色土 (10Y R3/2) 柱状 しまり強
粘性弱 炭化物、焼土少量混入
- 2 にせい黄褐色 (10Y R5/4) しまり強
粘性強
- 3 にせい黄褐色 (10Y R6/4) しまり強
粘性強
- 4 黑褐色土 (10Y R3/1) しまり強
粘性強
- 5 黄褐色土 (10Y R4/1) しまり強
粘性強
- 6 黑褐色土 (10Y R3/2) しまり強
粘性弱



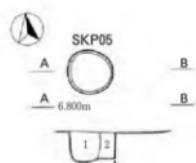
SKP02・SKP03

- 1 黒褐色土 (10Y R2/2) 柱状 しまり中
粘性弱 炭化物、焼土少量混入
- 2 にせい黄褐色粘土 (10Y R7/2)
3 2層に1層を少量含む



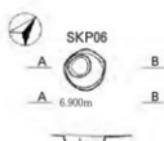
SKP04

- 1 黒褐色土 (10Y R3/1) 柱状 しまり中
粘性弱 炭化物、焼土少量混入
- 2 黑褐色土 (10Y R3/2) しまり強
粘性弱



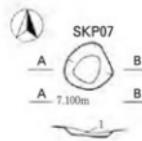
SKP05

- 1 黑褐色土 (10Y R3/2) 柱状 しまり中
2 にせい黄褐色 (10Y R4/3) しまり強 粘性中



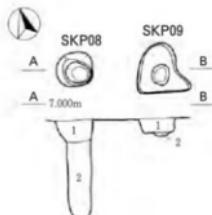
SKP06

- 1 黑褐色土 (10Y R3/2)



SKP07

- 1 黑褐色土 (10Y R3/2) しまり強
粘性弱 炭化物多量、焼土少量混入

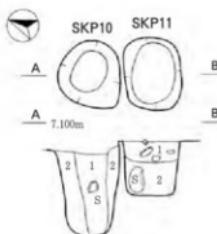


SKP08

- 1 黑褐色土 (10Y R2/1) しまり強 粘性弱
- 2 黑褐色土 (10Y R2/1) 柱状 しまり弱 粘性弱

SKP09

- 1 黑褐色土 (10Y R3/1) しまり強 粘性弱
- 2 灰黄褐色土 (10Y R4/2) 柱状 しまり中 粘性弱



SKP10

- 1 黑褐色土 (10Y R3/2) 柱状 しまり強 粘性弱
- 2 喜褐色土 (10Y R3/3) しまり強 粘性弱 地山塊多量混入

SKP11

- 1 灰黄褐色土 (10Y R4/2) しまり強 粘性弱
- 2 黑褐色土 (2.5Y R3/2) しまり強 粘性弱



第38図 柱穴様ピット (1)



SKP22

1 灰黃褐色土 (10Y R4/2) 地山塊多量 しまり強
2 黏性中

SKP31

1 黑褐色土 (10Y R3/2) しまり強 黏性弱

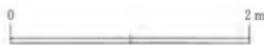
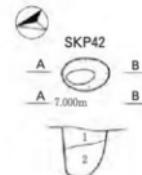
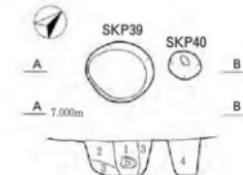
SKP35

1 暗褐色土 (10Y R3/3) 硫土多い

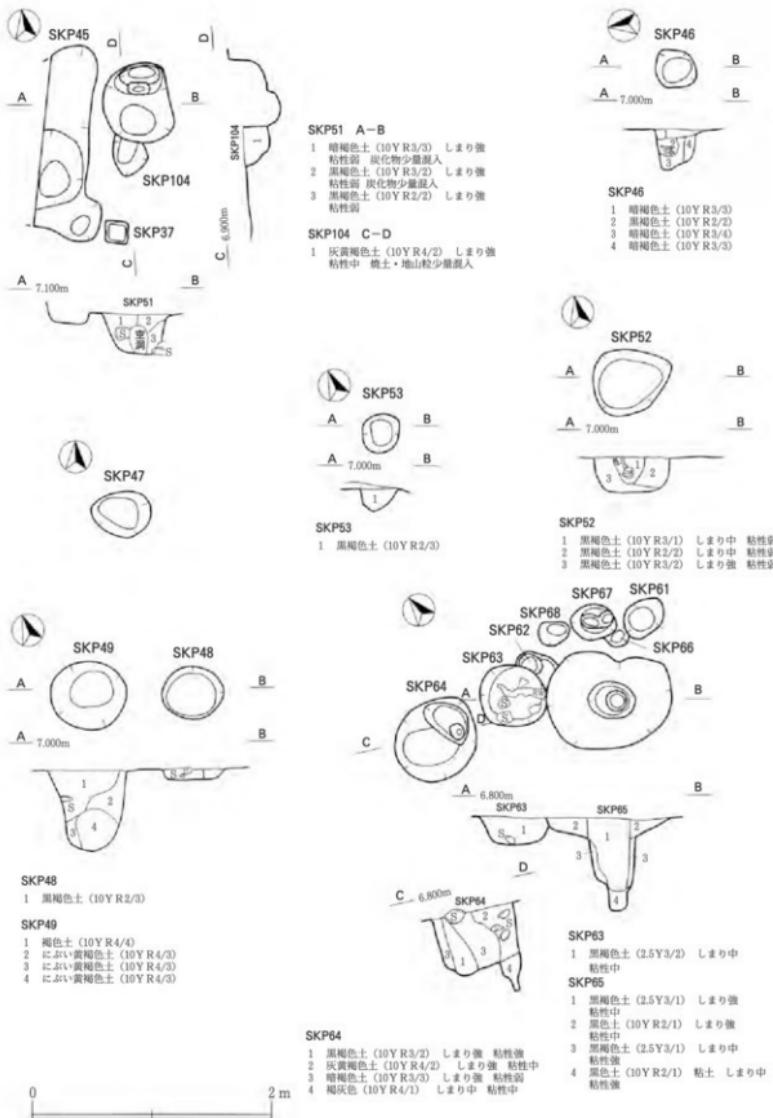
SKP44

1 黑褐色土 (10Y R3/2) 硫土少し
2 に近い黄褐色土 (10Y R4/2)
3 黑褐色土 (10Y R2/2)

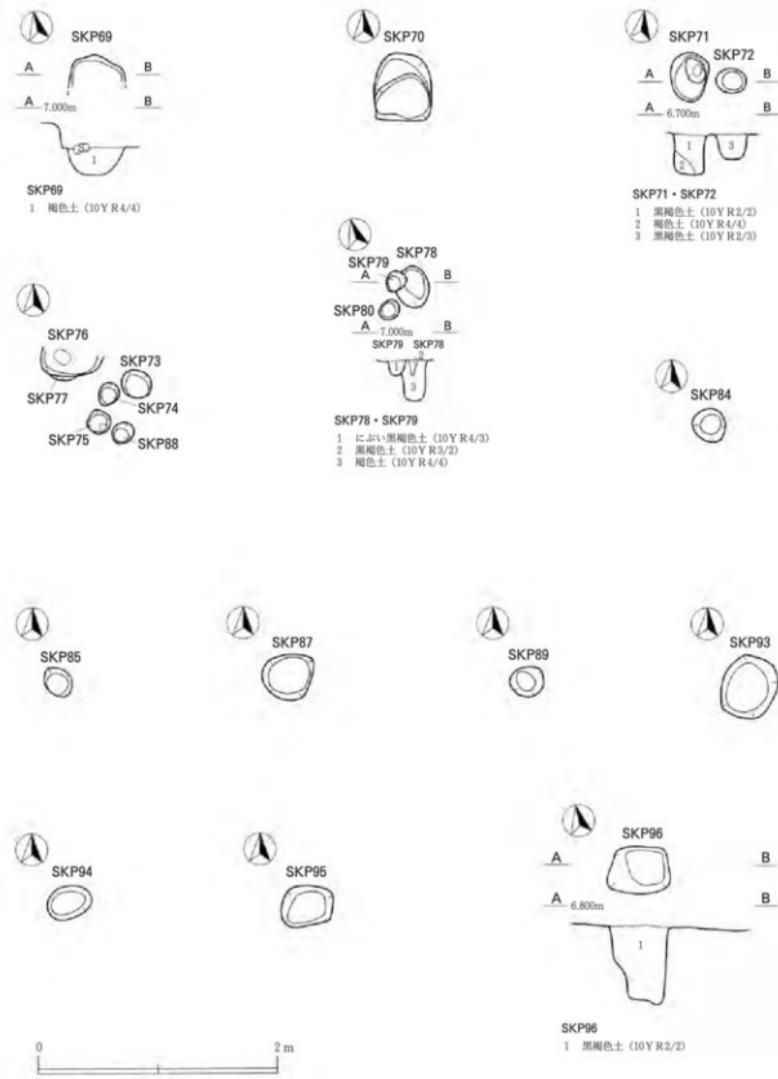
SKP36
SKP58
SKP57
SKP100
SKP59



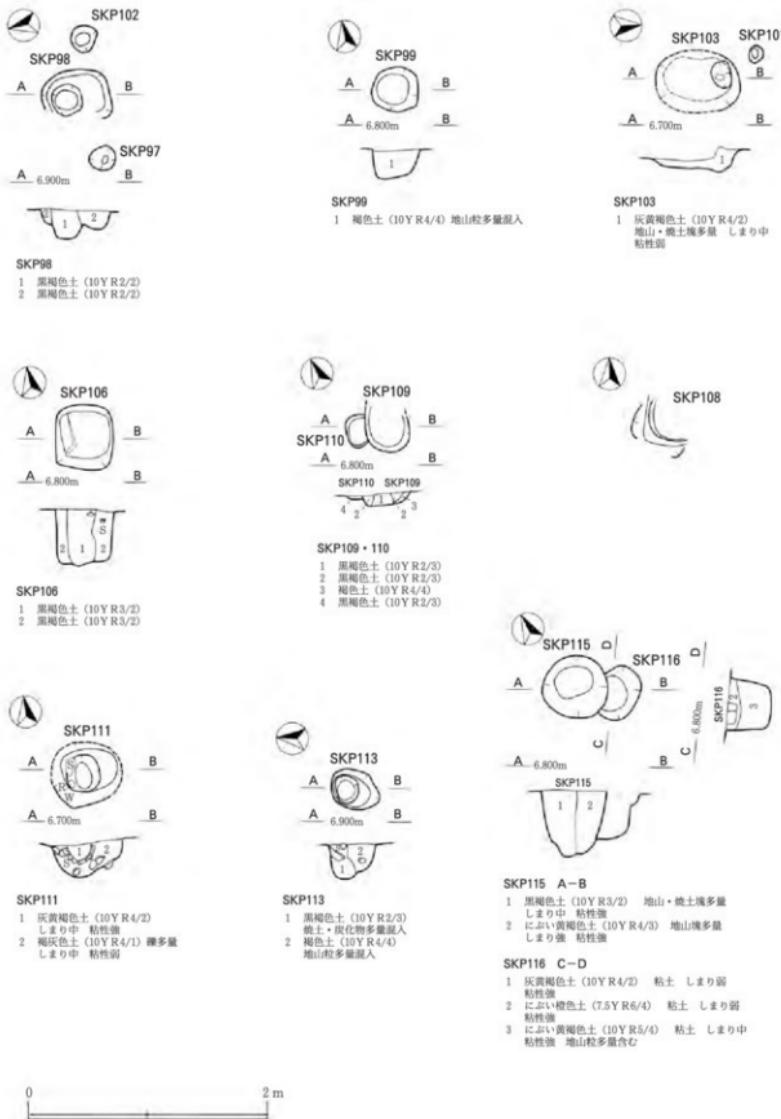
第39図 柱穴様ビット (2)



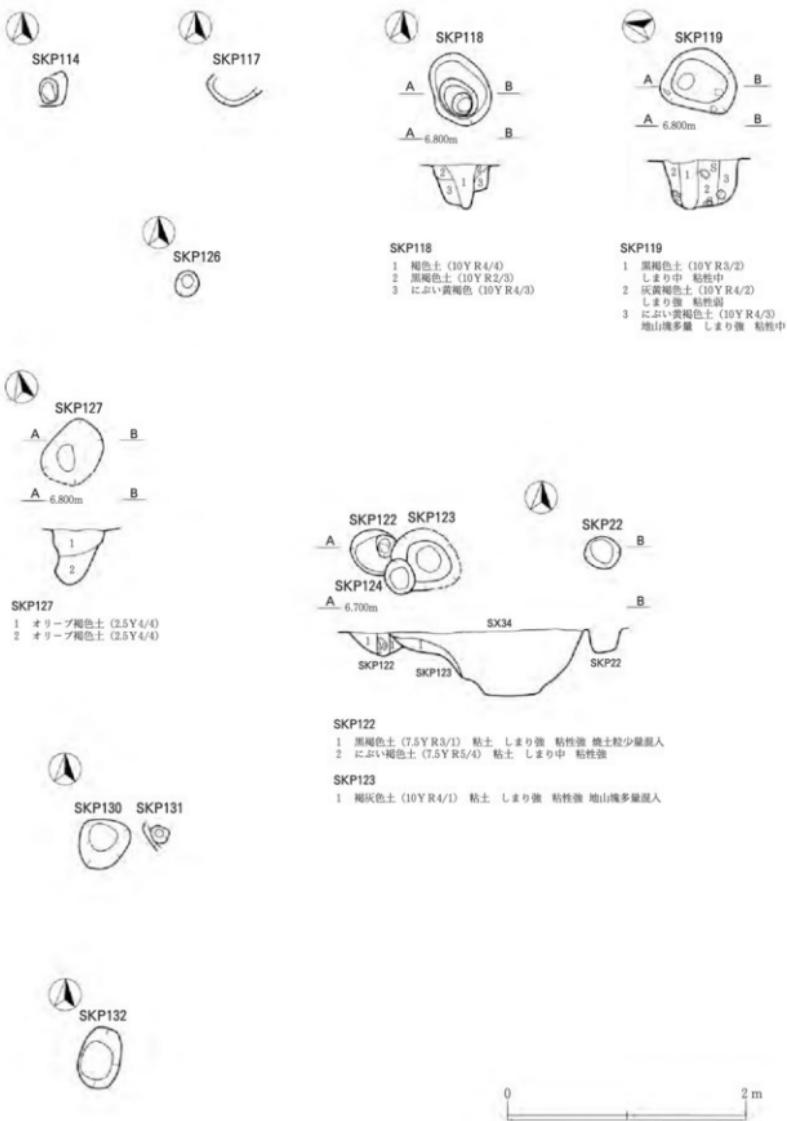
第40図 柱穴様ピット (3)



第41図 柱穴様ビット (4)



第42図 柱穴様ピット (5)



第43図 柱穴様ビット (6)

第8表 柱穴様ピット観察一覧(1)

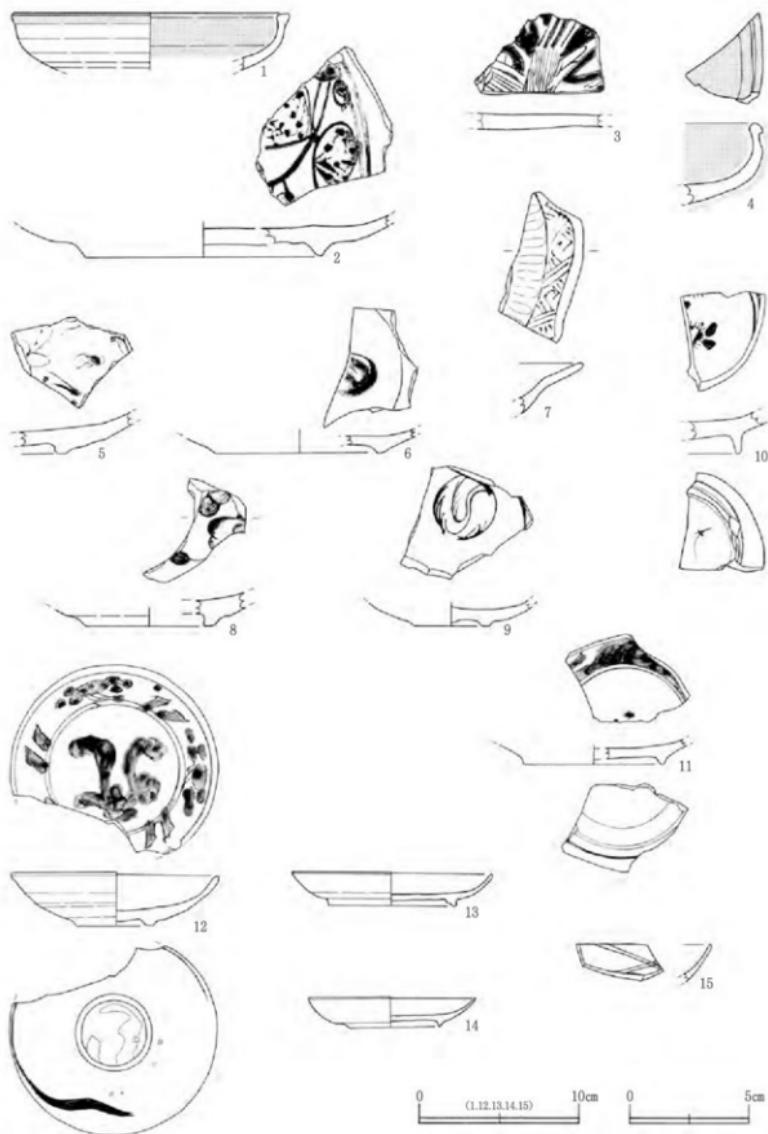
単位(m)

| 番号 | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ | 平面圖 | 土な上層 | 備考 |
|----|---------|--------|--------|------|-------|-------------|------------------------|
| 1 | MA47 | 0.68 | 0.65 | 0.32 | 略円形 | 黒褐色 | II層確認 |
| 2 | LT48 | 0.43 | 0.33 | 0.16 | 不整円形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 3 | LT48 | 0.19 | 0.18 | 0.14 | 円形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 4 | MA47 | 0.46 | 0.39 | 0.27 | 不整円形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 5 | LT・MA47 | 0.39 | 0.38 | 0.28 | 略円形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 6 | MA47 | 0.33 | 0.33 | 0.13 | 円形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 7 | MA47 | 0.38 | 0.36 | 0.09 | 略円形 | 黒褐色 | II層確認 |
| 8 | MB47 | 0.33 | 0.31 | 0.84 | 略円形 | 黒褐色 | II層確認 |
| 9 | MA48 | 0.48 | 0.44 | 0.16 | 不整形 | 黒褐色 | II層確認 |
| 10 | MB47 | 0.62 | 0.56 | 0.79 | 不整円形 | 黒褐色・暗褐色 | II層確認 |
| 11 | MB47 | 0.62 | 0.47 | 0.46 | 隅丸長方形 | 黒褐色 | II層確認 |
| 20 | MA46 | 0.60 | 0.49 | 0.44 | 不整円形 | 暗褐色 | IV層確認 |
| 22 | MA46・47 | 0.30 | 0.27 | 0.26 | 円形 | 灰褐色 | IV層確認 |
| 30 | MB45 | 0.44 | 0.35 | 0.22 | 不整形 | 極暗褐色 | IV層確認 SKP31に切られる |
| 31 | MB45 | (0.52) | 0.50 | 0.23 | 不整円形 | 黒褐色 | IV層確認 SKP30に切られる |
| 35 | MB16・47 | 0.47 | 0.33 | 0.11 | 椭円形 | 暗褐色 | III層確認 |
| 36 | MB17 | 0.19 | 0.18 | — | 方形 | — | III層確認 |
| 37 | MB17 | 0.25 | 0.23 | — | 方形 | — | III層確認 |
| 39 | MB47 | 0.57 | 0.51 | 0.31 | 不整円形 | 黒褐色 | III層確認 |
| 40 | MB47 | 0.28 | 0.23 | 0.33 | 不整円形 | 黒褐色 | III層確認 |
| 42 | MB47 | 0.40 | 0.27 | 0.43 | 椭円形 | 褐色 | III層確認 |
| 44 | MB46・47 | 0.44 | 0.30 | 0.25 | 椭円形 | 黒褐色 | III層確認 |
| 45 | MB47・48 | 1.62 | 0.55 | — | — | — | III層確認 |
| 46 | MA47 | 0.38 | 0.32 | 0.35 | 不整円形 | 暗褐色 | III層確認, SX23を切る |
| 47 | MA46 | 0.49 | 0.38 | — | 不整形 | — | III層確認 |
| 48 | MA46 | 0.53 | 0.45 | 0.09 | 椭円形 | 黒褐色 | III層確認 |
| 49 | MB46・47 | 0.64 | 0.57 | 0.69 | 略円形 | に赤い質・褐色 | III層確認 |
| 50 | MA47 | 0.40 | (0.19) | 0.29 | (円形) | — | III層確認 SX23に切られる |
| 51 | MB48 | 0.64 | 0.55 | 0.40 | 不整形 | 暗褐色 | III層確認 |
| 52 | MA48 | 0.67 | 0.56 | 0.30 | 不整形 | 黒褐色 | III層確認 |
| 53 | MA48 | 0.33 | 0.30 | 0.19 | 略円形 | 黒褐色 | III層確認 SX23に切られる |
| 57 | MB47 | 0.25 | 0.22 | — | 略円形 | — | III層確認 |
| 58 | MB47 | 0.30 | 0.25 | — | 不整円形 | — | III層確認 |
| 59 | MA47 | 0.26 | 0.22 | — | 椭円形 | — | III層確認 |
| 61 | MB46 | 0.39 | 0.29 | — | 不整圓形 | — | IV層確認, SKP66を切る |
| 62 | MB46 | (0.32) | (0.20) | — | 椭円形 | — | IV層確認 SKP63・65に切られる |
| 63 | MB46 | 0.58 | 0.55 | 0.23 | 略円形 | 黒褐色 | IV層確認 SKP65に切られる |
| 64 | MB46 | 0.75 | 0.64 | 0.71 | 略円形 | 黒褐色・暗褐色・灰褐色 | IV層確認 |
| 65 | MB46 | 1.04 | 0.80 | 0.78 | 不整形 | 黒褐色 | IV層確認 SKP62・63を切る |
| 66 | MB46 | (0.17) | (0.14) | — | (円形) | — | IV層確認 SKP61・67に切られる |
| 67 | MB46 | 0.38 | 0.30 | — | 不整椭円形 | — | IV層確認, SKP66を切る |
| 68 | MB46 | 0.27 | 0.20 | — | 不整椭円形 | — | IV層確認 |
| 69 | MA47 | 0.46 | (0.25) | 0.23 | 不整形 | 褐色 | III層確認 |
| 70 | MB46 | 0.56 | 0.48 | — | 不整形 | — | IV層確認 |
| 71 | MB45・46 | 0.40 | 0.30 | 0.36 | 不整椭円形 | — | IV層確認 |
| 72 | MB46 | 0.25 | 0.20 | 0.22 | 椭円形 | — | IV層確認 |
| 73 | MA48 | 0.25 | 0.21 | — | 略円形 | — | IV層確認 |
| 74 | MA48 | 0.21 | 0.16 | — | 略円形 | — | IV層確認 |

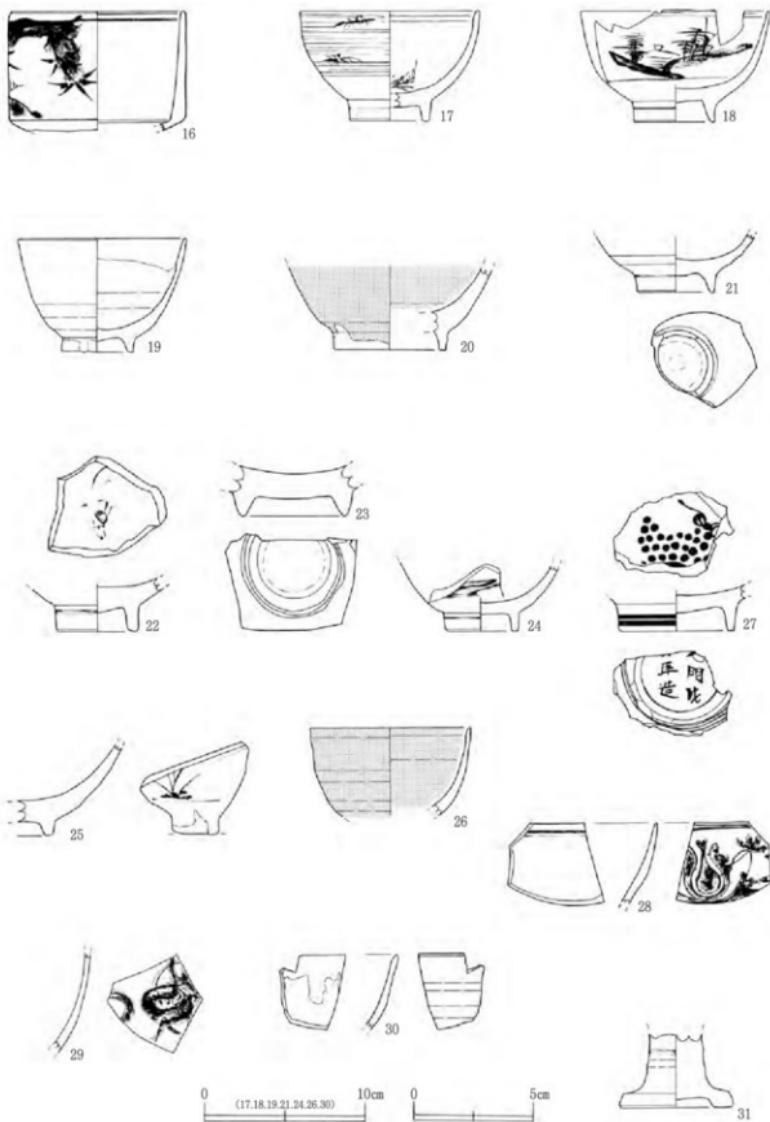
第9表 柱穴様ピット観察一覧(2)

単位(m)

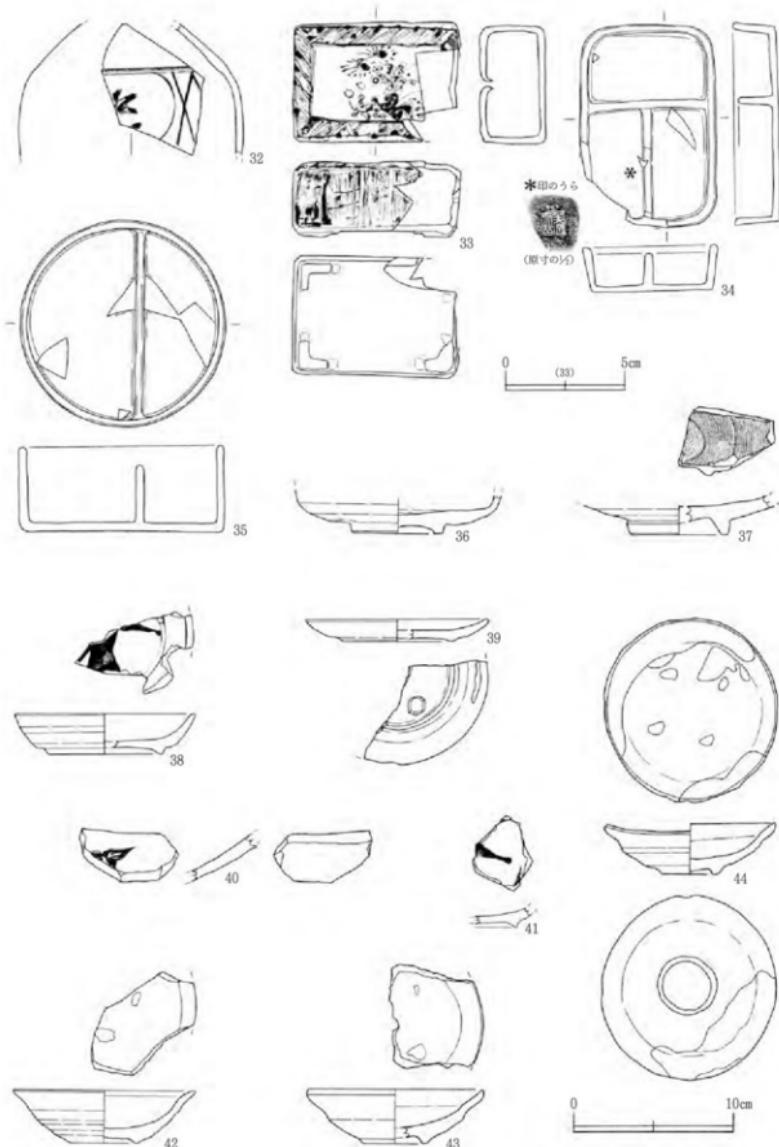
| 番号 | グリッド | 長径 | 短径 | 深さ | 平面図 | 主な土層 | 備考 |
|-----|---------|--------|--------|--------|--------|------------|-----------------------------------|
| 75 | MA48 | 0.21 | 0.20 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 76 | MA48 | 0.50 | (0.20) | - | 不整円形 | - | IV層確認 |
| 77 | MA48 | (0.25) | (0.05) | - | 不整形 | - | IV層確認 |
| 78 | MA48 | 0.34 | (0.28) | 0.36 | 椭円形 | 褐 | IV層確認 SKP79に切られる |
| 79 | MA48 | 0.17 | 0.16 | 0.14 | 円形 | にぶい黄 | IV層確認 SKP78を切る |
| 80 | MA48 | 0.17 | 0.16 | - | 円形 | - | IV層確認 |
| 81 | LT18 | 0.28 | 0.27 | - | 円形 | - | IV層確認 |
| 85 | LT48 | 0.27 | 0.21 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 87 | L148 | 0.44 | 0.39 | - | 不整形 | - | IV層確認 |
| 88 | MA48 | 0.19 | 0.17 | - | 円形 | - | IV層確認 |
| 89 | MA47 | 0.29 | 0.25 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 93 | MA48・49 | 0.52 | 0.45 | - | 椭円形 | - | IV層確認 |
| 94 | MA49 | 0.37 | 0.28 | - | 椭円形 | - | IV層確認 |
| 95 | MA49 | 0.42 | 0.34 | - | 不整楕丸方形 | - | IV層確認 |
| 96 | MB47 | 0.55 | 0.44 | 0.67 | 不整方形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 97 | MB47 | 0.22 | 0.20 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 98 | MB47 | 0.56 | (0.42) | 0.25 | 楕丸長方形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 99 | MB47 | 0.41 | 0.39 | 0.26 | 略円形 | 褐 | IV層確認 |
| 100 | MA・MB47 | 0.21 | 0.20 | - | 略円形 | - | III層確認 |
| 101 | MB47 | 0.14 | 0.12 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 102 | MB47 | 0.23 | 0.23 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 103 | MB47 | 0.71 | 0.52 | 0.22 | 椭円形 | 灰黄褐色 | IV層確認、SD18に切られる |
| 104 | MB48 | (0.33) | 0.29 | 0.22 | 不整形 | 灰黄褐色 | IV層確認 |
| 106 | MA47 | 0.53 | 0.48 | 0.48 | 楕丸長方形 | 黒褐色 | IV層確認 |
| 108 | MA47 | 0.50 | (0.33) | (0.42) | 不整形 | - | IV層確認 |
| 109 | MA46 | 0.38 | (0.34) | 0.12 | (椭円形) | 黒褐色 | IV層確認 SKP110を切る SD19に切られる |
| 110 | MA46 | 0.27 | (0.16) | 0.04 | (椭円形) | - | IV層確認 SKP109に切られる |
| 111 | MA46 | (0.60) | (0.53) | 0.32 | 不整円形 | 褐色 | IV層確認 |
| 113 | MA47 | 0.43 | 0.32 | 0.30 | 椭円形 | 褐・黒褐色 | IV層確認 |
| 114 | MA47 | 0.30 | (0.23) | - | 不整形 | - | IV層確認 |
| 115 | MB47 | 0.56 | 0.53 | 0.56 | 略円形 | 黒褐色・にぶい黄褐色 | IV層確認 SKP116を切る |
| 116 | MB46・47 | 0.46 | (0.32) | 0.37 | (椭円形) | にぶい黄褐色 | IV層確認 SKP115を切る |
| 117 | MB47 | (0.43) | (0.21) | - | 不整形 | - | IV層確認、SD18に切られる |
| 118 | MB47 | 0.63 | 0.47 | 0.37 | 略椭円形 | 褐 | IV層確認、SD18に切られる |
| 119 | MA46 | 0.63 | 0.50 | 0.42 | 不整形 | 灰黄褐色 | IV層確認 |
| 122 | MA46・47 | 0.38 | (0.34) | 0.21 | 略円形 | にぶい褐色 | IV層確認 SKP123・124に切られる |
| 123 | MA46・47 | (0.60) | (0.50) | (0.16) | 不整円形 | 褐色 | IV層確認 SKP122を切る SKP124に切られる |
| 124 | MA46 | 0.29 | 0.25 | - | 椭円形 | - | IV層確認 SKP122・123を切る |
| 126 | MA46 | 0.22 | 0.19 | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 127 | MA47 | (0.57) | 0.44 | 0.47 | 不整円形 | オリーブ褐色 | IV層確認 |
| 130 | MA48 | 0.46 | 0.42 | - | 不整円形 | - | IV層確認 |
| 131 | MA48 | (0.25) | (0.18) | - | 略円形 | - | IV層確認 |
| 132 | MB47 | 0.51 | 0.34 | - | 椭円形 | - | IV層確認 45Bが凌更 |



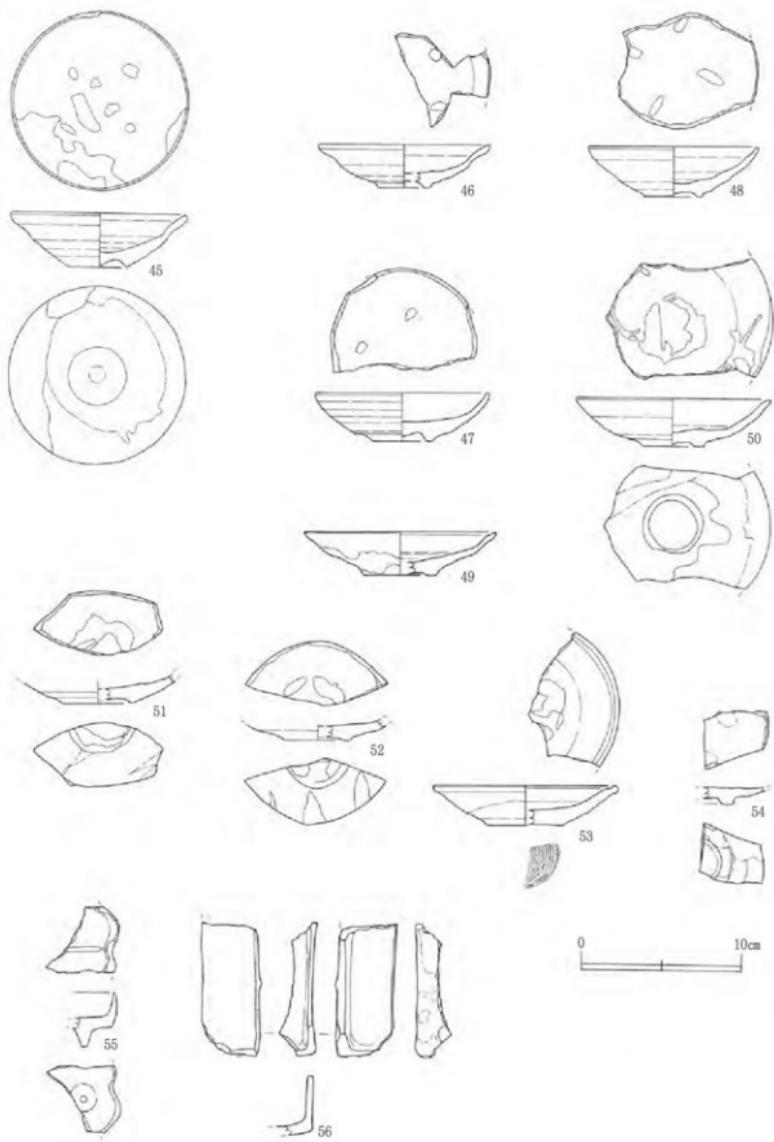
第44図 遺構内出土遺物 (1) …磁器①



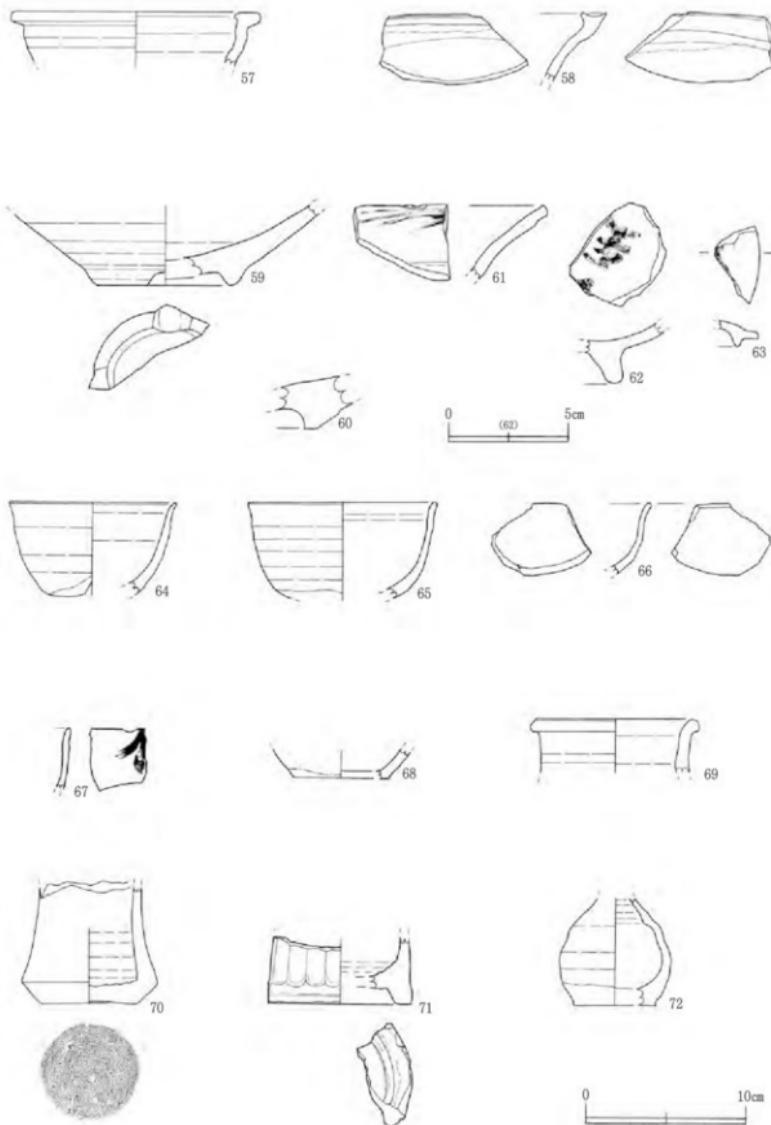
第45図 遺構内出土遺物（2）…磁器②



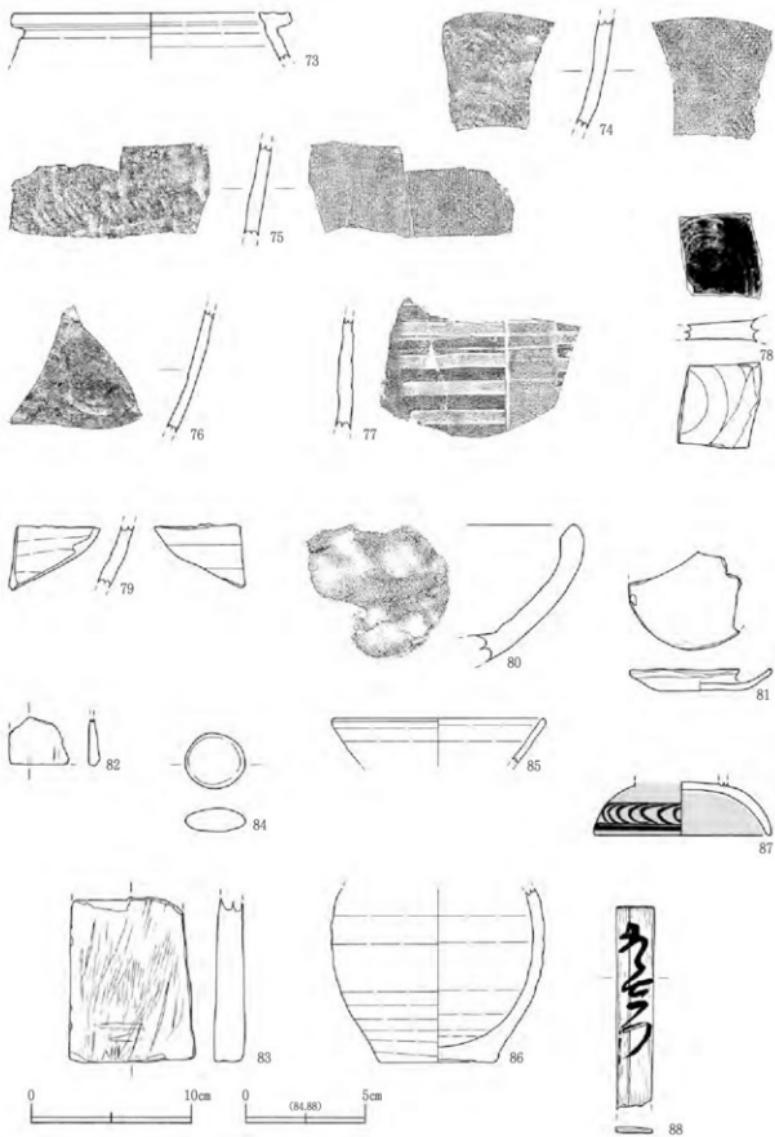
第46図 遺構内出土遺物（3）…磁器③・陶器①



第47図 遺構内出土遺物（4）…陶器②



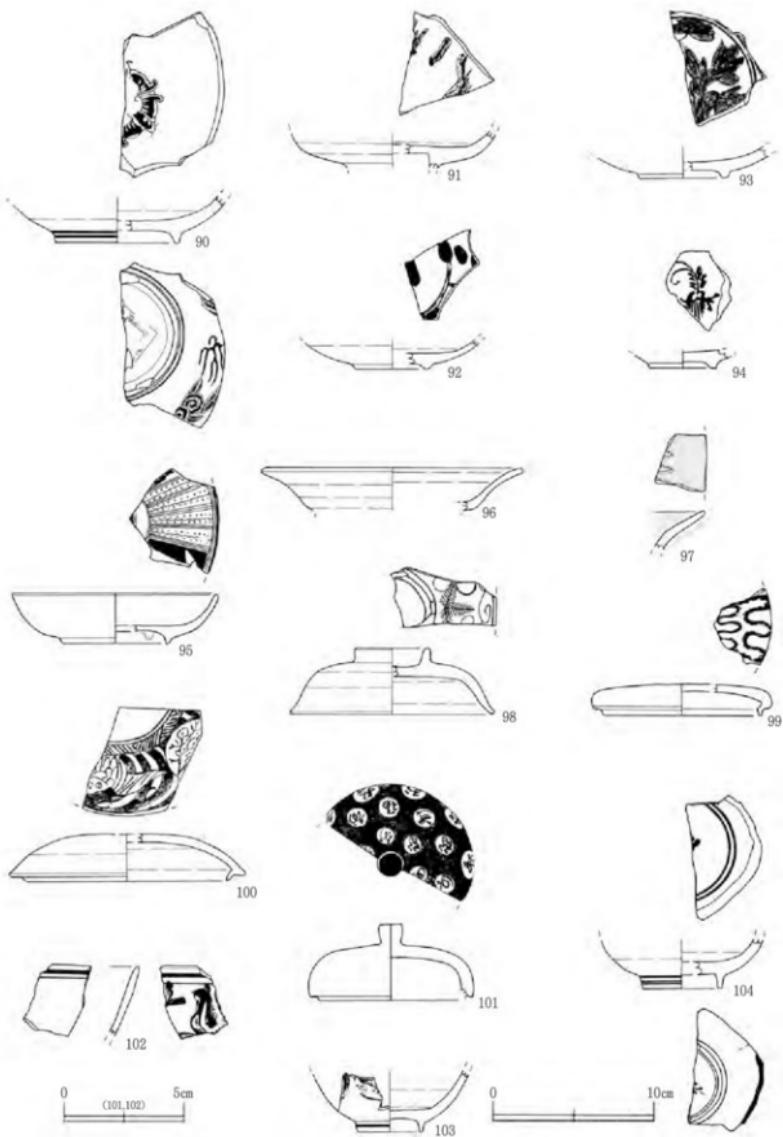
第48図 遺構内出土遺物(5)…陶器③



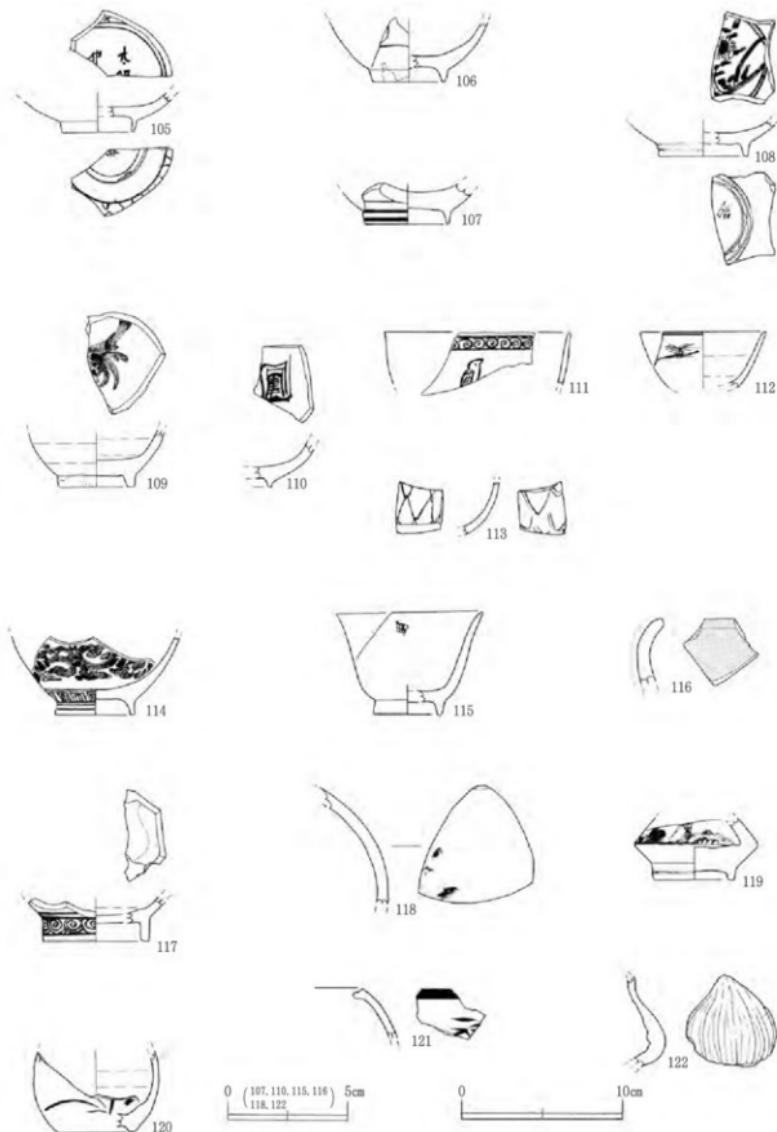
第49図 遺構内出土遺物 (6) …陶器④・その他



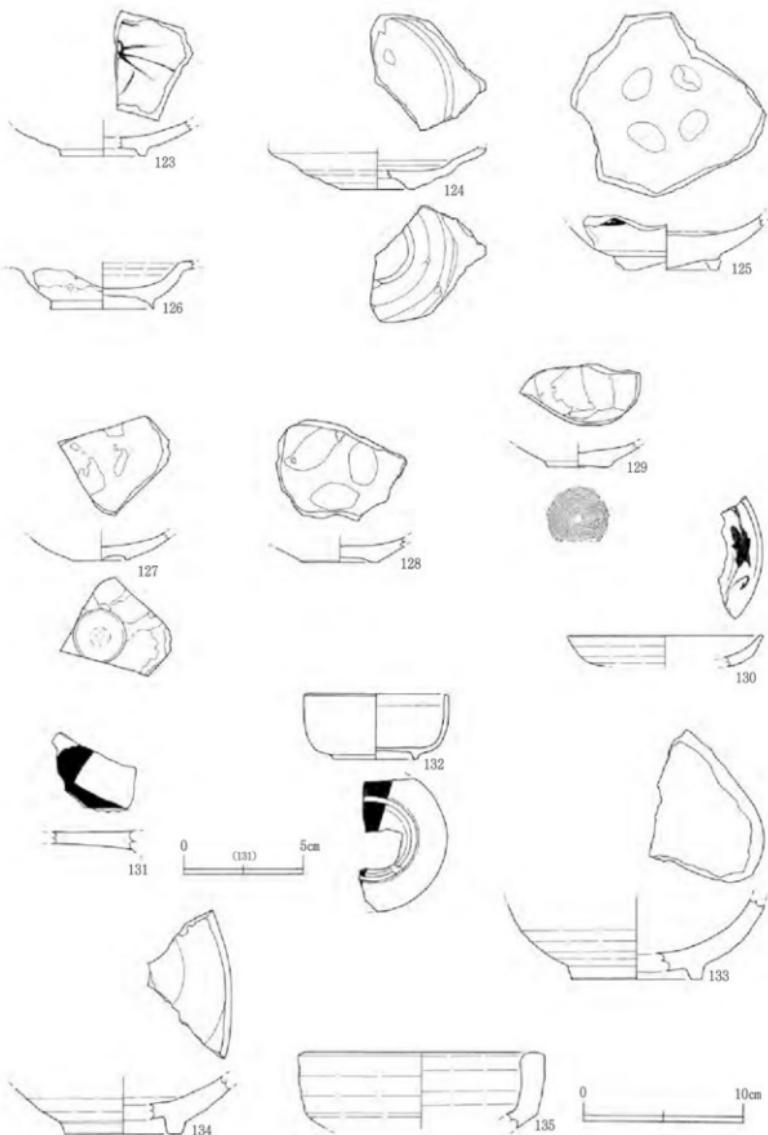
第50図 遺構内出土遺物 (7) …陶器⑤



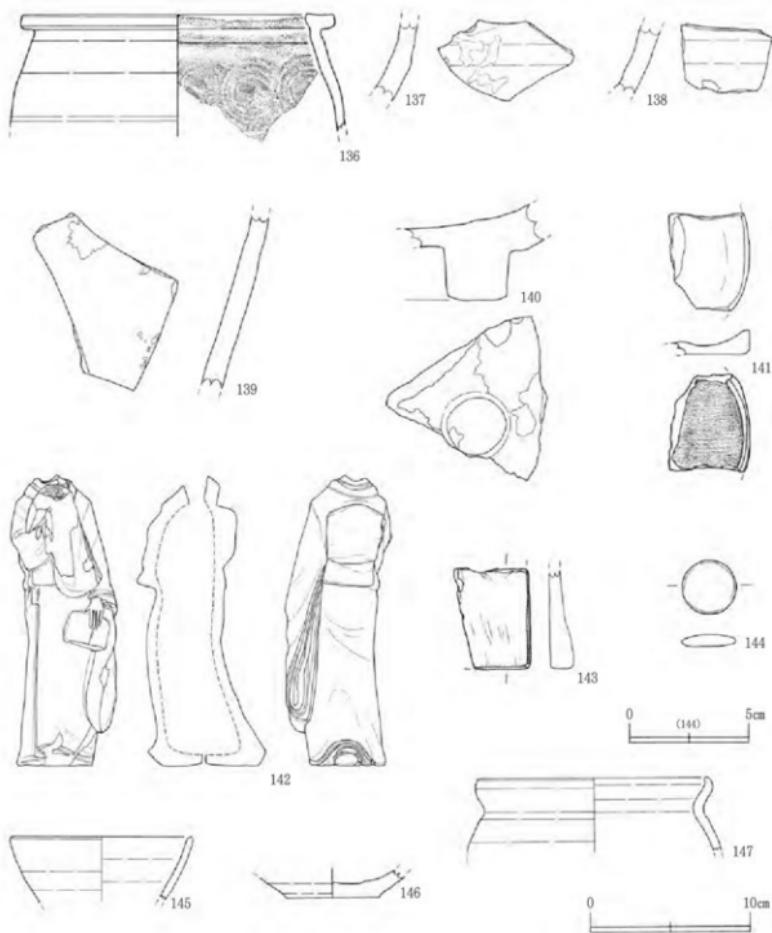
第51図 遺構外出土遺物（1）…磁器①



第52図 遺構外出土遺物(2)…磁器②



第53図 遺構外出土遺物（3）…陶器①



第54図 遺構外出土遺物 (4) …陶器②・その他

第10表 遺物観察一覧 (7)

単位(cm)

| 番号 | 種別 | 種類 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(高さ)径 | 高さ | 年代・時代 | 備考 |
|----|-----|----|-----------|-----------|-------------|-----------|----------|-----------|--------------|
| 1 | 44回 | 磁器 | 青磁 | SKP51-111 | (17.2) | — | (3.6) | 1630～1640 | 掛け分け |
| 2 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | — | (9.8) | (1.7) | 近世 | 肥前系 |
| 3 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | — | — | (0.7) | — | ■州 |
| 4 | 44回 | 磁器 | 青磁丸皿 | SK33 | — | — | (3.4) | 近世 | |
| 5 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SKP91 | — | — | (1.6) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 6 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN32 | — | (6.8) | (1.0) | C17前半 | 景徳鎮、底にひだ状痕 |
| 7 | 44回 | 磁器 | 染付折縫輪花丸皿 | SN34 | — | — | (2.2) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 8 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN83 | — | (5.4) | (1.1) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 9 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN83 | — | (3.1) | (1.1) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 10 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SKP63 | — | — | (1.8) | C17後半 | 肥前系 |
| 11 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN83 | — | (5.8) | (1.1) | C18前半 | |
| 12 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN32 | 12.8 | 4.7 | 3.3 | 1610～1630 | 肥前系、彩口横 |
| 13 | 44回 | 磁器 | 白磁丸皿 | SD82 | (12.4) | 4.9 | 2.1 | — | |
| 14 | 44回 | 磁器 | 白磁丸皿 | SD82 | (10.3) | 6.2 | (1.9) | — | |
| 15 | 44回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN24 | — | — | (2.3) | C18後半 | 波佐見系 |
| 16 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | (7.2) | — | (5.0) | 1780～1810 | 肥前系 |
| 17 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN32 | (11.0) | (4.9) | (6.9) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 18 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | (11.0) | 5.0 | 7.0 | C17前半 | 肥前系 |
| 19 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN32 | (10.3) | 4.4 | 6.0 | 1630～1640 | 掛け分け |
| 20 | 45回 | 磁器 | 青磁丸皿 | SK33 | — | (1.7) | (3.5) | 1630～1640 | |
| 21 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN32 | — | (4.9) | (3.5) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 22 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | — | 3.3 | (1.8) | 1630～1650 | 肥前系 |
| 23 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SD17 | — | (4.3) | (2.2) | 1630～1640 | 肥前系 |
| 24 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN34 | — | (4.5) | (4.1) | 1630～1650 | 肥前系 |
| 25 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SKP103 | — | — | (3.9) | 1640～1650 | 肥前系 |
| 26 | 45回 | 磁器 | 青磁丸皿 | SN32 | (10.0) | — | (5.5) | 1630～1640 | |
| 27 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SN23 | — | (1.7) | (2.0) | C17前半 | 景德鎮、「仁宗成口年造」 |
| 28 | 45回 | 磁器 | 染付丸皿 | SKP99 | — | — | (3.3) | C17前半 | ■州・景德鎮、口緑下に段 |
| 29 | 46回 | 磁器 | 染付丸皿 | SKP76 | — | — | (4.1) | — | 景德鎮 |
| 30 | 45回 | 磁器 | 瓶種丸皿 | SN32 | — | — | (4.7) | 1630～1640 | |
| 31 | 45回 | 磁器 | 染付仏壇器 | SN34 | — | (4.6) | (3.1) | C17中～末 | 肥前系 |
| 32 | 45回 | 磁器 | 染付瓶 | SN24 | — | — | (8.1) | 1630～1650 | 肥前系 |
| 33 | 45回 | 磁器 | 染付水滴 | SD82 | 長 5.0 | 幅 7.0 | 厚 3.2 | 近代以降 | |
| 34 | 45回 | 磁器 | シェービングカップ | SD82 | 長 (12.7) | 幅 8.5 | 厚 2.8 | 近代以降 | |
| 35 | 45回 | 磁器 | シェービングカップ | SD82 | 長 12.7 | 幅 12.8 | 厚 5.3 | 近代以降 | |
| 36 | 45回 | 陶器 | 長石釉丸皿 | SKP63 | — | 5.5 | (C.6) | 近世 | |
| 37 | 46回 | 陶器 | 瓶種丸皿 | SD82 | — | (6.0) | (2.4) | — | 紀ノ日釉剥ぎ |
| 38 | 46回 | 陶器 | 長石釉丸皿 | SKP106 | (11.0) | (7.1) | 2.5 | 近世 | 見附粘口目、建絵 |
| 39 | 46回 | 陶器 | 長石釉丸皿 | SN34 | (11.4) | (7.0) | 1.4 | C17前半 | 志野、底緑釉十貫 |

表11表 遺物觀察一覧(8)

単位(cm)

| 高さ | 種別 | 種類 | 特徴など | 出土地点 | 口径 | 底(高台) | 壁高 | 年代・時代 | 参考 |
|----|-----|----|--------|---------|--------|-------|-------|-----------|---------------|
| 40 | 46回 | 陶器 | 長石神丸皿 | SKD93 | — | — | (3.0) | 近世 | 志野・鉢輪 |
| 41 | 46回 | 陶器 | 貝石神丸皿 | SK33 | — | — | (1.6) | 近世 | 鉢輪 |
| 42 | 46回 | 陶器 | 青磁折縁丸皿 | SID15 | (11.3) | (1.3) | 3.3 | C17前半 | 見达船土目 |
| 43 | 46回 | 陶器 | 白釉折縁丸皿 | SX32 | (10.8) | (3.9) | 3.4 | C17前半 | 見达船土目 |
| 44 | 46回 | 陶器 | 黒釉折縁丸皿 | SX32 | 10.1 | 3.6 | 3.3 | C17前半 | 見达船土目 |
| 45 | 47回 | 陶器 | 黒釉折縁丸皿 | SD28 | 10.9 | 3.5 | 3.3 | C17前半 | 見达船土目 |
| 46 | 47回 | 陶器 | 黒釉折縁丸皿 | SKP47 | (10.6) | (3.2) | 2.7 | C17前半 | 見达船土目 |
| 47 | 47回 | 陶器 | 長石神丸皿 | MAM7II層 | (10.5) | 3.7 | 3.1 | C17前半 | 見达船土目 |
| 48 | 47回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | SKP45 | (10.5) | 3.6 | 3.1 | C17前半 | 見达船土目 |
| 49 | 47回 | 陶器 | 溝縁丸皿 | SX34 | (11.8) | (1.5) | 2.7 | C17前半 | 系切→削出高台、酸化模様或 |
| 50 | 47回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | SKP22 | (12.0) | 3.8 | 3.0 | 1610～1630 | 見达・底面砂目、鉢輪 |
| 51 | 47回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | SK33 | — | (4.4) | (1.4) | C17前半 | 見达・底面砂目 |
| 52 | 47回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | SK33 | — | 4.1 | (1.0) | C17前半 | 見达・底面砂目 |
| 53 | 47回 | 陶器 | 灰釉溝縁皿 | SK33 | (11.2) | (4.8) | 2.5 | C17前半 | 見达・底面砂目、系切り |
| 54 | 47回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | SX34 | — | — | (1.1) | C17前半 | 見达・底面砂目 |
| 55 | 47回 | 陶器 | 灰釉皿 | SK33 | — | — | 3.4 | — | 底沈 |
| 56 | 47回 | 陶器 | 調理用角鉢 | LH48 相馬 | | | 2.4 | | 縦部 |
| 57 | 48回 | 陶器 | 鉄輪横溝 | SX32 | (13.5) | — | (3.4) | — | |
| 58 | 48回 | 陶器 | 鉄輪横溝 | SK33 | — | — | (4.3) | C17前半 | |
| 59 | 48回 | 陶器 | 素焼き鉢 | SK33 | — | (8.1) | (5.1) | C17前半 | 高台スリット |
| 60 | 48回 | 陶器 | 素焼き鉢 | SK33 | — | — | (3.2) | C17前半 | |
| 61 | 48回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | SX24 | | | (1.5) | 1590～1610 | 吉津系、深絞 |
| 62 | 48回 | 陶器 | 透明釉皿 | SX32 | | | (2.6) | 近代以降 | |
| 63 | 48回 | 陶器 | 透明釉皿 | SX32 | — | — | (1.6) | — | |
| 64 | 48回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | SX34 | (10.3) | — | (5.9) | 近世 | |
| 65 | 48回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | SX32 | (11.3) | — | (6.6) | 近世 | |
| 66 | 48回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | SKP64 | — | — | (5.5) | 近世 | |
| 67 | 48回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | SX23 | — | — | (3.8) | 近世 | 底沈 |
| 68 | 48回 | 陶器 | 鉄輪丸鉢 | SKP09 | | (5.8) | (1.9) | 1630～1640 | 天日茶碗 |
| 69 | 48回 | 陶器 | 灰釉皿 | SX32 | (9.8) | — | (3.4) | 近世 | |
| 70 | 48回 | 陶器 | 灰釉花瓶 | SX29 | — | 5.9 | (7.3) | C17後年 | 反おとし |
| 71 | 48回 | 陶器 | 灰釉花瓶 | SK33 | — | (9.0) | (4.2) | 近世 | |
| 72 | 48回 | 陶器 | 鉄輪瓶 | SX34 | — | (5.2) | (6.7) | C16末～17初 | 系切り |
| 73 | 49回 | 陶器 | 鉄輪甕 | SKP44 | (17.1) | — | (2.9) | C17 | |
| 74 | 49回 | 陶器 | 鉄輪甕 | SX24 | | | (6.9) | C17前半 | タタキ彫織 |
| 75 | 49回 | 陶器 | 鉄輪甕 | SKP21 | — | — | (5.8) | C17 | タタキ彫織 |
| 76 | 49回 | 陶器 | 鉄輪甕 | SKP96 | — | — | (7.7) | C16末～17初 | タタキ彫織 |
| 77 | 49回 | 陶器 | 素焼き甕 | SK33 | — | — | (6.9) | C17前半 | 福岡？ |
| 78 | 49回 | 陶器 | 網附— | SX34 | — | — | (1.5) | C17中～末 | |

第12表 遺物観察一覧 (9)

単位(cm)

| 番号 | 種別 | 種類 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(裏面)径 | 高さ | 年代・時代 | 備考 |
|-----|-----|------|--------|------------|------------|---------------|------------|-------|------------|
| 79 | 49回 | 陶器 | 素焼き皿 | SN32 | — | — | 63.8 | — | 信楽焼 |
| 80 | 49回 | 陶器 | 素焼き火人 | SN34 | — | — | 68.5 | — | |
| 81 | 49回 | 赤土灰汁 | 皿 | SN23 | (8.9) | (5.6) | 1.3 | — | |
| 82 | 49回 | 石製品 | 砥石 | SN24 | 長 (3.0) | 幅 (3.8) | 厚 (0.7) | — | |
| 83 | 49回 | 石製品 | 砥石 | SKP61 | 長 (0.4) | 幅 (7.3) | 厚 (1.9) | — | |
| 84 | 49回 | 石製品 | 磨石 | MA47 Ⅲ層 | 径 2.2 | — | 厚 0.5 | — | |
| 85 | 49回 | 上漆器 | 杯 | SK92 | (13.2) | — | (2.9) | 平安 | |
| 86 | 49回 | 上漆器 | 甌 | SN23 | — | 7.1 | (10.9) | 平安 | |
| 87 | 49回 | 木製品 | 漆椀食 | SN32 | 10.6 | つまみ径 (5.7) | 6.3 | — | |
| 88 | 49回 | 木製品 | 木碗 | SK33 | 長 (8.6) | 幅 (1.6) | 厚 0.2 | — | |
| 89 | 50回 | 陶器 | 板袖丸皿 | SD82 | 49.5 | 23.3 | 61.1 | — | 近世文書 |
| 90 | 51回 | 磁器 | 色釉丸皿 | — | (7.6) | (2.9) | 近世 | | |
| 91 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅱ層 | — | (5.6) | (2.3) | 近世 | 肥前系 |
| 92 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MB47 Ⅱ層 | — | (4.4) | (1.8) | 近世 | 肥前系 |
| 93 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅲ層 | — | (5.4) | (2.0) | 近世 | 肥前系 |
| 94 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MB46 Ⅱ層 | — | (4.2) | (1.1) | 近世 | 肥前系 |
| 95 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MB44 Ⅰ層 | (12.6) | (6.6) | (3.1) | — | |
| 96 | 51回 | 磁器 | 透明釉無反皿 | MA47 Ⅲ・Ⅳ層 | (16.2) | — | (2.6) | 近世 | |
| 97 | 51回 | 磁器 | 青磁丸皿 | MB45 Ⅱ層 | — | — | (2.5) | — | |
| 98 | 51回 | 磁器 | 染付蓋 | MA45 Ⅰ層 | (12.6) | (1.7) | 4.1 | 喜末以降 | |
| 99 | 51回 | 磁器 | 染付蓋 | MB44-55 Ⅰ層 | (9.8) | — | (2.0) | — | |
| 100 | 51回 | 磁器 | 染付蓋 | MA49 Ⅲ層 | (12.4) | — | (3.0) | 近世 | |
| 101 | 51回 | 磁器 | 染付蓋 | 表探 | (6.9) | つまみ 1.0 | (3.2) | 喜末以降 | 「氣泡」 |
| 102 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅲ層 | — | — | (3.4) | — | ■州 |
| 103 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅱ層 | — | 4.0 | (3.8) | 近世 | 肥前系 |
| 104 | 51回 | 磁器 | 染付丸皿 | MD47 Ⅱ層 | — | (5.0) | (3.0) | 近世 | 肥前系 |
| 105 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MB45 Ⅱ層 | — | (4.4) | (2.4) | 近世 | 肥前系、太田口化口口 |
| 106 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | 表探 | — | (4.5) | (3.8) | C17 | 肥前系 |
| 107 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA48 Ⅱ層 | — | (3.5) | (1.7) | 近世 | 肥前系 |
| 108 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA46 Ⅲ層 | — | (5.6) | (2.3) | 近世 | 肥前系、「昌明？」 |
| 109 | 52回 | 磁器 | 板袖丸皿 | MA47 Ⅱ層 | — | (4.6) | (3.4) | 近世 | 内面築付、掛分け付 |
| 110 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅱ層 | — | — | (3.9) | — | 景徳鎮、鉢 |
| 111 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MB45 Ⅱ層 | (11.6) | — | (3.3) | C17 | 肥前系 |
| 112 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅱ層 | (7.8) | — | (3.5) | C18 | 景德鎮 |
| 113 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | MA47 Ⅲ層 | — | — | (3.3) | C18 | 肥前系 |
| 114 | 52回 | 磁器 | 染付丸皿 | 表探 | — | (4.9) | (5.0) | 喜末以降 | |
| 115 | 52回 | 磁器 | 白磁盤 | 表探 | (6.1) | (2.9) | 4.5 | 喜末以降 | |
| 116 | 52回 | 磁器 | 青磁丸皿 | IT48 IV層 | — | — | (2.8) | 近世 | |
| 117 | 52回 | 磁器 | 染付瓶 | MA47 Ⅱ層 | — | (6.6) | (2.8) | 近世 | 肥前系 |

第13表 遺物観察一覧 (10)

単位(cm)

| 番号 | 種別 | 種類 | 器種など | 出土地点 | 口径 | 底(高台)径 | 壁高 | 年代・時代 | 備考 |
|-----|-----|-----|--------|------------|-------------|------------|------------|-------|--------------|
| 118 | 52回 | 陶器 | 染付瓶 | 下5-6内 表探 | - | - | (5.4) | 近世 | 肥前系 |
| 119 | 52回 | 陶器 | 染付花瓶 | 表探 | - | 5.0 | (3.7) | 近世 | |
| 120 | 52回 | 陶器 | 染付瓶 | MB45 II 層 | - | (1.7) | (5.1) | 近世 | 肥前系 |
| 121 | 52回 | 陶器 | 染付土瓶急須 | MA44 I 層 | - | - | (3.0) | - | |
| 122 | 52回 | 陶器 | 白磁 | MA47 II 層 | - | - | (3.8) | - | |
| 123 | 53回 | 陶器 | 長石釉丸皿 | MB46 II 層 | - | (5.4) | (2.2) | 近世 | 鉄繪 |
| 124 | 53回 | 陶器 | 白釉折縁丸皿 | MA46 III 層 | - | (1.6) | (2.7) | C17 | 見达柄十目 |
| 125 | 53回 | 陶器 | 鉢 | 表探 | - | 6.5 | (3.6) | C17 | 見达柄十目、高台スリット |
| 126 | 53回 | 陶器 | 灰釉折縁丸皿 | 表探 | - | (6.4) | (3.0) | 近世 | |
| 127 | 53回 | 陶器 | 透明釉丸皿 | MA47 II 層 | - | 3.4 | 1.8 | C17 | 見达砂目 |
| 128 | 53回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | 表探 | - | 4.8 | (1.6) | C17 | 見达砂目 |
| 129 | 53回 | 陶器 | 灰釉丸皿 | MB45 II 層 | - | 3.9 | (1.6) | C17 | 見达砂目 |
| 130 | 53回 | 陶器 | 長石釉丸皿 | MA46 III 層 | (12.2) | - | (1.9) | 近世 | 鉄绘 |
| 131 | 53回 | 陶器 | 透明釉 | MA45 I 层 | - | - | (0.9) | 近世 | 鉄绘 |
| 132 | 53回 | 陶器 | 鉄鋼縫丸皿 | MA47 III 层 | (9.0) | 5.2 | 4.1 | 幕末以降 | 掛け分け |
| 133 | 53回 | 陶器 | 長石釉鉢 | MA47 II 層 | - | (8.1) | (5.2) | - | 外画に黒の模様 |
| 134 | 53回 | 陶器 | 鉄釉鉢 | MB45 II 層 | - | (7.2) | (3.7) | - | |
| 135 | 53回 | 陶器 | 素焼丸皿 | MR46 I 層 | (15.1) | - | (1.9) | 近代以降 | |
| 136 | 54回 | 陶器 | 鉄釉焼 | MB46 II 層 | (19.5) | - | (7.5) | C17前半 | 内面に同心円文 |
| 137 | 54回 | 陶器 | 灰釉甕 | MB46 II 層 | - | - | (4.9) | - | 外圍に墨痕 |
| 138 | 54回 | 陶器 | 甕 | MA48 II 層 | - | - | (4.1) | - | |
| 139 | 54回 | 陶器 | 甕 | MB48 II 層 | - | - | (10.7) | - | |
| 140 | 54回 | 陶器 | 6.透 | MB45 II 層 | - | - | (6.0) | - | |
| 141 | 54回 | 陶器 | 貝通鳥 | MB46 II 層 | 長 (6.1) | 幅 (5.6) | 厚 (1.5) | - | |
| 142 | 54回 | 陶器 | 貝通甕 | LT49 | 長 (18.1) | 幅 (6.7) | 厚 (8.3) | 近世 | 赤・黒・青彩色 |
| 143 | 54回 | 石製品 | 砥石 | MA47 III 層 | 長 (6.4) | 幅 (1.7) | 厚 1.5 | - | |
| 144 | 54回 | 石製品 | 砺石 | MB47 II 層 | 長 2.2 | 幅 - | 厚 0.5 | - | |
| 145 | 54回 | 土師器 | 杯 | MB47 II 層 | (11.4) | - | (4.6) | 平安 | |
| 146 | 54回 | 土師器 | 杯 | MA46 II 層 | - | (5.8) | (1.7) | 平安 | |
| 147 | 54回 | 土師器 | 甕 | MA47 II 層 | (14.2) | - | (1.7) | 平安 | |

第3章　まとめ

本調査では、土坑5基、溝跡9条、柱穴様ピット91基、性格不明遺構5基を検出し、近世の陶磁器を主体に土製品・石製品・木製品・かわらけなどが多く量に出土した。遺構は、基本土層のI層～IV層で確認されているが、溝跡はI層でのみで性格不明遺構と共に確認された。II層～IV層では柱穴様ピットを主体に、土坑や性格不明遺構をわずかに含む。II層～IV層と旧くなるに従い遺構の数は増加する。遺物は、16世紀末から17世紀初頭を含む17前半の陶磁器が比較的目立ち、近現代まで認められる。

また寛文年間中の城下絵図（第56図左）によって、17世紀には調査区が久保田城下の武家屋敷であったことが分かっている。

以上を念頭に置いた、遺物の帰属から見た基本層位の大まかな時期は以下のとおりである。I層はS D28から土管が出土しており、少なくとも近代以降を含んだ現代までの時期と言える。IV層には17世紀前半や後半の陶磁器が伴うので、17世紀頃の時期を想定したい。III層も17世紀前半の陶磁器を伴うがIV層より新しいので、17世紀後半から18世紀を含んだ時期を想定したい。II層はI層とIII層に挟まれるため18世紀から19世紀前半を中心とした時期と考えられる。

藩校明徳館跡の調査は、平成12年6月5日～11月10日まで秋田市教育委員会によって初めて実施された。以下その報告書に基づいて記述する。藩校明徳館は、寛政2（1790）年学館の名称で開校し、寛政5（1793）年明道館と改称した。ここまでは東に正門のある東西に長い建物であった。天保14（1843）年明徳館を再建し、南に正門のあるほぼ正方形の敷地とする。明治3（1870）年秋田藩学校となる。この後、昭和18（1943）年秋田師範学校に至るまで様々な名称を辿っている。

秋田市教育委員会による調査成果は次のようである。調査範囲は秋田赤十字病院跡地を除く東西約100m×南北約20mとし、事前のトレンチ調査で約1,400m²の対象区に控った（第55図の斜線部分左側）。基本土層は第I層～IV層までである。第IV層は18世紀後半にそれ以前の堆積土を巻き込んで造成。第III層は幕末から明治初めにかけて造成。第II層は明治期以降の近現代の造成。以上のように想定し



第55図 藩校明徳館跡の調査地点

た。結果として、第IV層は寛政2年の学館開設に伴う造成土、第III層は明徳館から明治6（1873）年の秋田県太平学校への変遷に伴う造成土と解釈している。藩校明徳館自体の調査は一部に留まり、18世紀以前の武家屋敷の遺構は第IV層造成時に破壊されていたことが判明した。遺物は17・18世紀の陶磁器が多量に出土している。17・18世紀の陶磁器が多く認められることは、今回の調査でも共通した特色である。

次に秋田県教育委員会の調査と

藩校明徳館跡

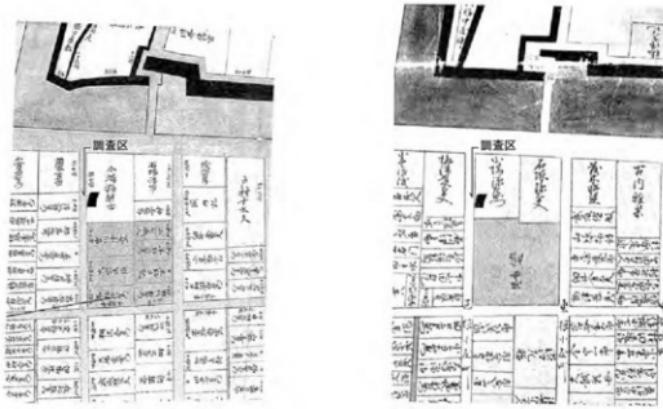
古地図を照合し、本調査成果との関連について述べる。第55図における本調査地区の位置は、秋田キャッスルホテル向かいの黒く塗り潰した範囲である。藩校明徳館の範囲は嘉永2（1849）年の城下古絵図で確認でき（第56図右）、これと小場・石塚両家を合わせた区画は、第55図で説明すると北の広小路と南の中央通り、旧保健所西の道路と秋田キャッスルホテルに面した東の道路で囲まれた範囲である。現在の区画図と城下古絵図は東西3：南北5の比率でほぼ相似形であり、これによって今回藩校明徳館跡として調査した地区は、藩校明徳館の外側であったと判断される。第56図左の城下古絵図は寛文年間中（1661～1672）の町割りの一部で、これも同図右の城下古絵図とほぼ相似形である。以上より、今回実施した藩校明徳館の調査地区は、少なくとも寛文年間から嘉永2年までは小場家の敷地内として活用されており、17世紀後半から学館開校以前19世紀前半までの陶磁器を中心とした遺物の殆どは、小場家に関わるものと考えられる。

また、Ⅲ・Ⅳ層検出柱穴様ピットには、それらを結んだ南北線がN-7・8°-Eを指す軸線が存在する。平成14・15年（2002・2003）、秋田県教育委員会が調査を実施した東根小屋町遺跡は本遺跡に近く、17世紀後半と考えられるSB328掘立柱建物跡やこれに近い時期で後続するSB320掘立柱建物跡が存在する。これらの南北軸線もN-7・8°-Eを示し、本調査区Ⅲ・Ⅳ層検出の軸線と共通している。したがって、Ⅲ・Ⅳ層の柱穴様ピットの中には、17・18世紀小場家の武家屋敷の一部を示している遺構が存在するものと考えられる。

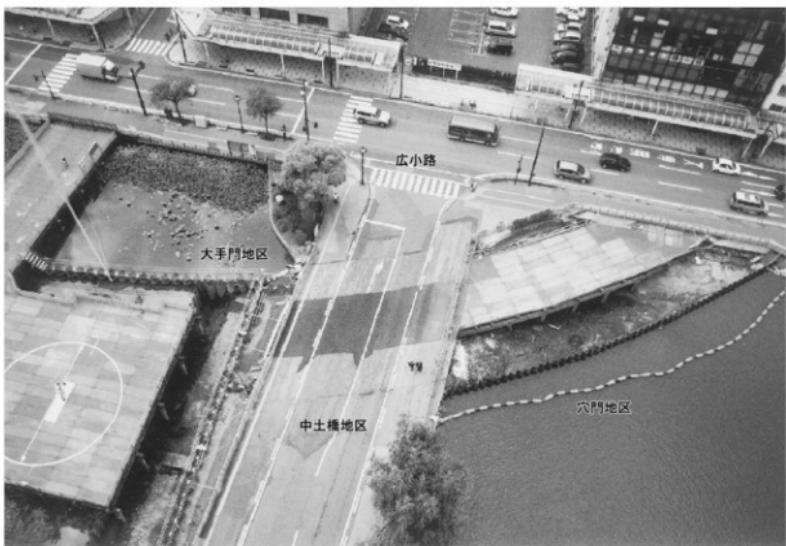
引用・参考文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡—秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—』秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田市教育委員会『藩校明徳館跡—市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書—』2002（平成14）年



第56図 久保田城下古絵図



1 調査区全景 (北→)



2 大手門の堀周辺 (南東→)



1 調査終了状況 (南→)



2 ヘドロ除去作業 (北東→)



1 南側杭検出状況 (南東→)



2 北側杭検出状況 (北→)



1 南端部埋土除去作業 (北東→)



2 南側遺物出土状況 (南→)



3 南端部木製品出土状況
(西→)



1 南端部トータルステーション実測作業 (北→)



2 中央部埋土除去作業 (南→)



1 南端部護岸 (北→)



2 南端部護岸留め杭検出状況 (北→)